# 原遺跡第５次調査概要報告書

# 例　言

1　本書は、宮城県岩沼市南長谷字上原・北上に所在する原遺跡の第５次調査概要報告書である。

2　本調査は、原遺跡の範囲・内容確認のために国庫補助事業として実施したものである。

3　現地調査は、岩沼市教育委員会生涯学習課が令和２年（2020）７月 14 日～ 11 月 30 日にかけて実施した。調査面積は 904 ㎡である。

4　調査に際しては地権者である鈴木 清一氏、農事組合法人原生産組合及び近隣住民の方々からご理解･ご協力をいただいた。また川島 秀義氏には現地調査の際に多大なご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

5　出土品整理及び報告書作成については、令和２年（2020)12 月１日から２月 20 日にかけて、岩沼市文化財整理室にて行なった。

6　本書の遺構ならびにトレンチ番号は、現地調査時に付したものを使用した。また検出遺構の略号は以下のとおりである。

ＳＡ：柱列跡、ＳＢ：掘立柱建物跡、ＳＤ：溝跡、ＳＥ：井戸跡、ＳＩ：竪穴建物跡、
ＳＫ：大型土坑・土坑、Ｐ：柱穴跡

7　本書の執筆・編集は、生涯学習課内での協議の上、川又・武田が担当した。なお、作業・執筆分担については下記の通りである。

作業：遺物実測・トレース 兼田、遺構図作成 川又、遺物写真撮影 渡辺・塩谷・齋藤・菅原
執筆：第Ⅰ章、第Ⅲ章、第Ⅳ章、第Ⅴ章 川又、第Ⅱ章 武田

8　発掘調査の実施、及び整理作業にあたっては次の諸氏・機関よりご協力・ご教示を賜った。記して感謝申し上げます（五十音順・敬称略）。

相沢 清利、安達 訓仁、阿部 明彦、及川 健作、近江 俊秀、太田 昭夫、小川 淳一、恵美 昌之、大泉 和弘、菊地 照彦、熊谷 篤、小泉 博明、斎野 裕彦、佐久間 光平、佐藤 敏幸、佐藤 憲幸、白鳥 良一、菅原 祥夫、鈴木 朋子、鈴木 雅、関根 章義、高橋 栄一、高橋 千晶、千葉 宗久、徳竹 亜紀子、長島 榮一、永田 英明、丹羽 茂、播磨 由佳、藤沼 邦彦、古田 和誠、村上 裕次、村田 晃一、吉野 武

文化庁、宮城県教育庁文化財課、多賀城跡調査研究所、原遺跡調査検討委員会

9　本報告書における遺構・遺構挿図等の指示は以下のとおりである。

(1) 遺構の用語及び略称については、文化庁文化財部記念物課『発掘調査のてびき』に準拠した。
(2) 遺構実測図の水糸高は海抜を示す。
(3) 縮尺は図に示すとおりである。
(4) 土層及び土器の色調は「新版標準土色帖」（小川・竹原：1973）に拠る。

10　第５次調査の成果については、令和２年度宮城県遺跡調査成果資料集で内容の一部を報告しているが、これと本書の内容が異なる場合は本書が優先する。

11　発掘調査の記録や整理した資料、出土遺物は岩沼市教育委員会が保管している。

# 目　　次

例　言
調査要項
第Ⅰ章　調査に至る経緯・経過と調査方法 …… 1
1．調査に至る経緯と経過 …… 1
2．調査方法 …… 2
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 3
1．地理的環境 …… 3
2．歴史的環境 …… 4
第Ⅲ章　調査成果 …… 7
1．基本層序 …… 7
2．発見された遺構と遺物 …… 7
a．掘立柱建物跡 …… 10
b．柱列跡 …… 17
c．竪穴建物跡 …… 18
d．井戸跡 …… 46
e．大型土坑 …… 48
f．溝跡 …… 56
g．土坑 …… 62
h．小溝状遺構群 …… 63
i．その他の出土遺物 …… 63
第Ⅳ章　考察 …… 65
1．遺物について …… 65
2．遺構について …… 68
第Ⅴ章　総括 …… 73
引用参考文献 …… 74
写真図版 …… 75

# 挿 図 目 次


第１図　原遺跡第５次調査地の位置・・・・・ 1
第２図　第５次調査調査区位置図・・・・・・ 2
第３図　岩沼市域の地形分類 ・・・・・・・・ 3
第４図　岩沼市域の遺跡分布図 ・・・・・・・ 5
第５図　基本層序図・・・・・・・・・・・・ 7
第６図　第５次調査Ⅰ区全体図 ・・・・・・・ 8
第７図　第５次調査Ⅱ区全体図 ・・・・・・・ 9
第８図　SB01 ・・・・・・・・・・・・・・・ 11
第９図　SB01 柱穴土層断面図・・・・・・・・ 12
第 10 図　SB01(P137) 出土遺物 ・・・・・・・ 13
第 11 図　SB02 ・・・・・・・・・・・・・・ 14
第 12 図　SB03・04（１）・・・・・・・・・・ 14
第 13 図　SB03・04（２）・・・・・・・・・・ 15
第 14 図　SB05 ・・・・・・・・・・・・・・ 15
第 15 図　SB06 ・・・・・・・・・・・・・・ 16
第 16 図　SA01 柱列跡土層断面図 ・・・・・・ 18
第 17 図　SI01 ・・・・・・・・・・・・・・ 19
第 18 図　SI01 出土遺物・・・・・・・・・・ 21
第 19 図　SI02 ・・・・・・・・・・・・・・ 22
第 20 図　SI02 出土遺物・・・・・・・・・・ 24
第 21 図　SI04 ・・・・・・・・・・・・・・ 26
第 22 図　SI04 出土遺物・・・・・・・・・・ 27
第 23 図　SI07（１）・・・・・・・・・・・・ 28
第 24 図　SI07（２）・・・・・・・・・・・・ 29
第 25 図　SI07 出土遺物・・・・・・・・・・ 30
第 26 図　SI09 土層断面図・・・・・・・・・ 30
第 27 図　SI10 ・・・・・・・・・・・・・・ 31
第 28 図　SI10 出土遺物・・・・・・・・・・ 32
第 29 図　SI11 ・・・・・・・・・・・・・・ 33
第 30 図　SI11 出土遺物・・・・・・・・・・ 33
第 31 図　SI13 出土遺物・・・・・・・・・・ 33
第 32 図　SI15 出土遺物・・・・・・・・・・ 34
第 33 図　SI16 ・・・・・・・・・・・・・・ 35
第 34 図　SI16 出土遺物（１）・・・・・・・・ 36
第 35 図　SI16 出土遺物（２）・・・・・・・・ 37
第 36 図　SI17 ・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第 37 図　SI17 出土遺物・・・・・・・・・・・ 40
第 38 図　SI18 ・・・・・・・・・・・・・・・ 41
第 39 図　SI18 出土遺物・・・・・・・・・・・ 42
第 40 図　SI19 ・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第 41 図　SI19 出土遺物・・・・・・・・・・・ 44
第 42 図　SE01・02 ・・・・・・・・・・・・・ 46
第 43 図　SE01・02 土層断面図 ・・・・・・・ 47
第 44 図　SE01 出土遺物・・・・・・・・・・・ 48
第 45 図　SE02 出土遺物・・・・・・・・・・・ 48
第 46 図　SK01 ・・・・・・・・・・・・・・・ 49
第 47 図　SK02 ・・・・・・・・・・・・・・・ 50
第 48 図　SK01 出土遺物・・・・・・・・・・・ 51
第 49 図　SK02 出土遺物・・・・・・・・・・ 51
第 50 図　SK05 土層断面図・・・・・・・・・ 52
第 51 図　SK09 ・・・・・・・・・・・・・・ 53
第 52 図　SK05 出土遺物・・・・・・・・・・ 54
第 53 図　SK09 出土遺物・・・・・・・・・・ 55
第 54 図　溝跡土層断面図 ・・・・・・・・・ 57
第 55 図　SD01･04･09 出土遺物・・・・・・・ 59
第 56 図　SK10 土層断面図・・・・・・・・・ 62
第 57 図　SK10 出土遺物・・・・・・・・・・ 62
第 58 図　小溝状遺構群土層断面図 ・・・・・ 63
第 59 図　その他の遺物 ・・・・・・・・・・ 64
第 60 図　５次調査出土の主要な土器 ・・・ 66
第 61 図　原遺跡と各横穴墓群の位置関係 ・ 67
第 62 図　第５次調査主要遺構の重複関係図 68
第 63 図　Ⅰ期遺構群 ・・・・・・・・・・・ 69
第 64 図　Ⅱ期遺構群 ・・・・・・・・・・・ 70
第 65 図　Ⅲ期遺構群 ・・・・・・・・・・・ 71

# 写真図版目次


写真図版１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
写真図版２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
写真図版３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
写真図版４ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
写真図版５ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
写真図版６ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
写真図版７ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
写真図版８ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
写真図版９ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
写真図版 10 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84


# 表目次


第１表　岩沼市域の遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第２表　掘立柱建物跡属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第３表　柱列跡属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第４表　竪穴建物跡属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
第５表　井戸跡属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第６表　大型土坑属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
第７表　溝跡属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第８表　土坑属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

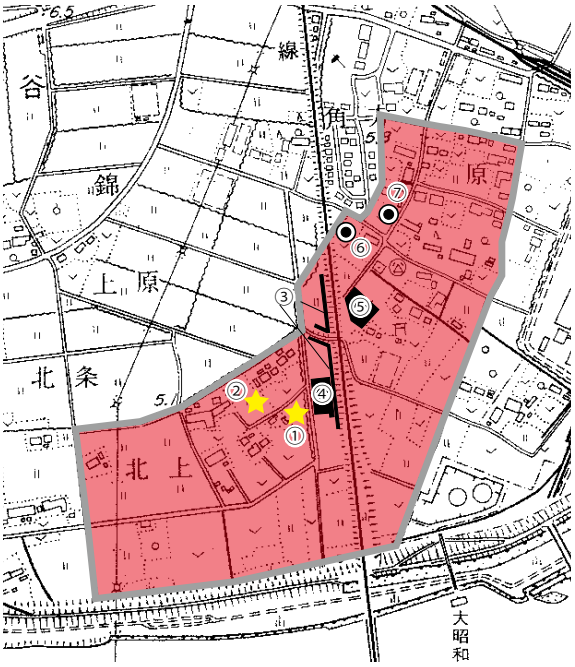

## 【調査要項】

1．所在地　　宮城県岩沼市南長谷字上原・北上　地内
2．調査原因　遺跡範囲・内容確認
3．調査主体　岩沼市教育委員会
4．調査期間　令和2年7月 14 日～ 11 月 30 日
5．調査面積　906 ㎡
6．調査指導　文化庁、宮城県教育委員会、原遺跡調査検討委員会（委員長：白鳥 良一）
7．調査担当　岩沼市教育委員会 生涯学習課（川又 隆央、武田 裕光、兼田 芳宏）
8．現地調査参加者　川島 秀義（日本考古学協会員）
塩谷 信幸、斎藤 新彌、渡辺 幹雄
浅川 俊夫、近江 幸次、小野 一志、平 信弘、高橋 舜市、玉山 俊彦、永沼 秋雄、
新田 豊記、早坂 忠正、森 公利
9．整理作業専従者　菅原 健

# 第Ⅰ章　調査に至る経緯・経過と調査方法

## 1．調査に至る経緯と経過

原遺跡の発掘調査は、平成 28 年度の圃場整備事業に伴う第１次調査（第１図③）において古墳時代中期から平安時代にかけての遺構・遺物が多数発見されたことに端を発する。この調査は排水路敷設に伴う調査のために調査区幅は約２ｍと狭いながら、一辺が１ｍほどで方形の掘方を有する柱穴群や、美濃地方で生産されたと考えられる須恵器円面硯が発見されたことから、これまで場所の特定が課題となっていた「玉前駅家」､あるいは「玉前剗（関）」に関する遺跡である可能性が浮上した（岩沼市教委 2021）。この成果を受けて岩沼市では、遺構・遺物の広がりをさらに把握することを目的として、柱穴群が確認された地点の西側水田において平成 29 年度に第２次調査を実施し、柱穴や竪穴建物を中心とする遺構群が西側へも展開することを明らかにした。しかしながら、第２次調査は調査目的を範囲確認に主眼を置いたことからトレンチによる調査手法を選択しており、発見した個々の遺構が時期別に、どのような空間を形成していたのか、という点では不明な点が多く残った。平成 30 年度に実施した第３次調査（第１図④）は、前年度調査の課題の解明に取り組むために調査区を拡大するかたちで実施した。その結果、８世紀前半から後半の時期には建物の主軸がほぼ真北方向となる桁行 10 間、梁行３間の大型掘立柱建物跡が存在していることが判明した。この建物は同位置で主軸を若干異にした建て替えが行われているが、大型建物の周辺にはそれぞれの主軸に近似する小規模な建物もみとめられている。なお、掘立柱建物群に先行する材木塀と大溝も発見されているが、両者の機能時期や規模、性格の詳細の把握については今後の課題となった。令和元年度の第４次調査（第１図⑤）は JR 常磐線東側での様相を把握することを目的として調査を実施し、８世紀代と９世紀前半以降の２時期の遺構面が存在することが確認された。この２時期の遺構面ではともに掘立柱建物跡がみとめられており、第３次調査で発見された建物群が８世紀末葉以降に北東側に位置を移動していた可能性が考えられた。



第1図　原遺跡第5次調査地の位置

国庫補助事業３年目となる今年度の調査は、第３次調査区の西側で実施することになった。この調査の目的は、第３次調査で確認されたⅠ期の大溝と材木塀で囲まれた区画内部の様相、及びⅡ期の遺構群の広がりを確認することである。幸いにして地権者である鈴木清一氏より調査へのご快諾が頂けたことから、調査地となる水田（Ⅰ区・第１図①）・畑地（Ⅱ区・第１図②）の休耕補償を含めた土地賃借について協議を重ねた。その後、令和２年４月 28 日付で鈴木清一氏と「土地賃貸借契約」を締結し、調査機材等の準備を行った。

現地調査は令和２年７月１４日より着手した。Ⅰ区から開始した重機による表土掘削に並行して遺

構精査に取り掛かり、掘立柱建物や竪穴建物を中心とした遺構の検出、及び重複関係の把握に重点を置いて調査を行った。調査の成果が概ねまとまった 11 月 4 日に報道機関に向けた現地公開を行い、11 月 7 日午前中に地域住民、7 日午後から翌 8 日には一般市民を対象とした現地説明会を実施し、190 名の参加を得た。その後、遺構図面の作成などの作業を行い、11 月 25 日に機材等を搬出、重機による埋め戻しを 11 月 17 日から 30 日にかけて実施した。なお、調査では随時デジタル一眼レフカメラを用いて写真撮影を行っているが、ドローンを用いた空撮を５回実施している。

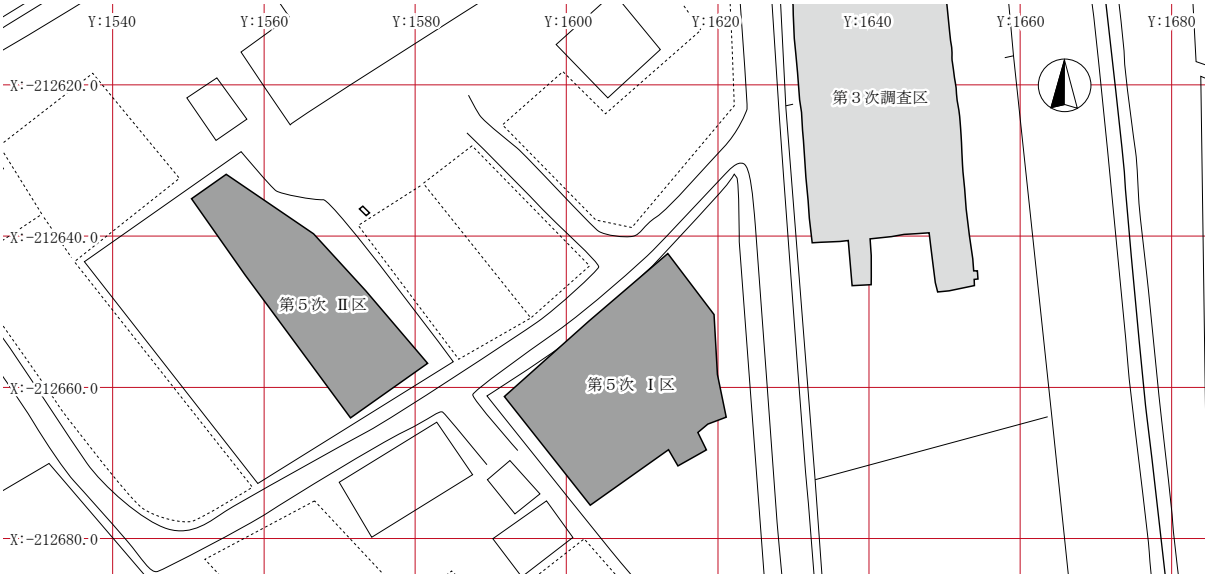
調査中には宮城県教育庁文化財課、多賀城跡調査研究所などをはじめとする方々が来跡し、様々な助言をいただいた。また原遺跡の調査計画・調査方針を審議・承認するための「原遺跡調査検討委員会」を令和２年 10 月１日に開催し、現地視察を実施した。なお、今年度は新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から文化庁専門官による現地視察は断念したが、宮城県教育委員会を通して原遺跡の調査中間報告、及び検討委員会の内容について報告し、指導をいただいた。

## 2．調査方法

第５次調査の目的は、前述のとおり第３次調査で確認されたⅠ期の大溝と材木塀で囲まれた区画内部の様相、及びⅡ期の遺構群の広がりを確認することである。このため、検出した遺構についての掘り下げはごく限定的なものにとどめている。

調査はまず、重機を用いてⅠ区・Ⅱ区ともに基本土層Ⅳ層上面までを掘削し、その後に遺構確認面としているⅤ層で精査を実施した。

確認した遺構のうち、柱穴については一段下げを実施して柱痕跡の有無を確認したほか、掘立柱建物や柱列を構成することが確実なものについては部分的に断ち割りを行っている。竪穴建物については一部を掘り下げて調査している。遺構の平面測量に際しては、これまでの調査成果との整合性をはかるために岩沼市が設置した２級基準点､及び圃場整備事業の際に設置された３級基準点を使用した。なお､岩沼市設置の基準点数値については､国土地理院が web 上で公開している「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」による地殻変動を補正するパラメーターファイルを用いて補正を行った数値である。



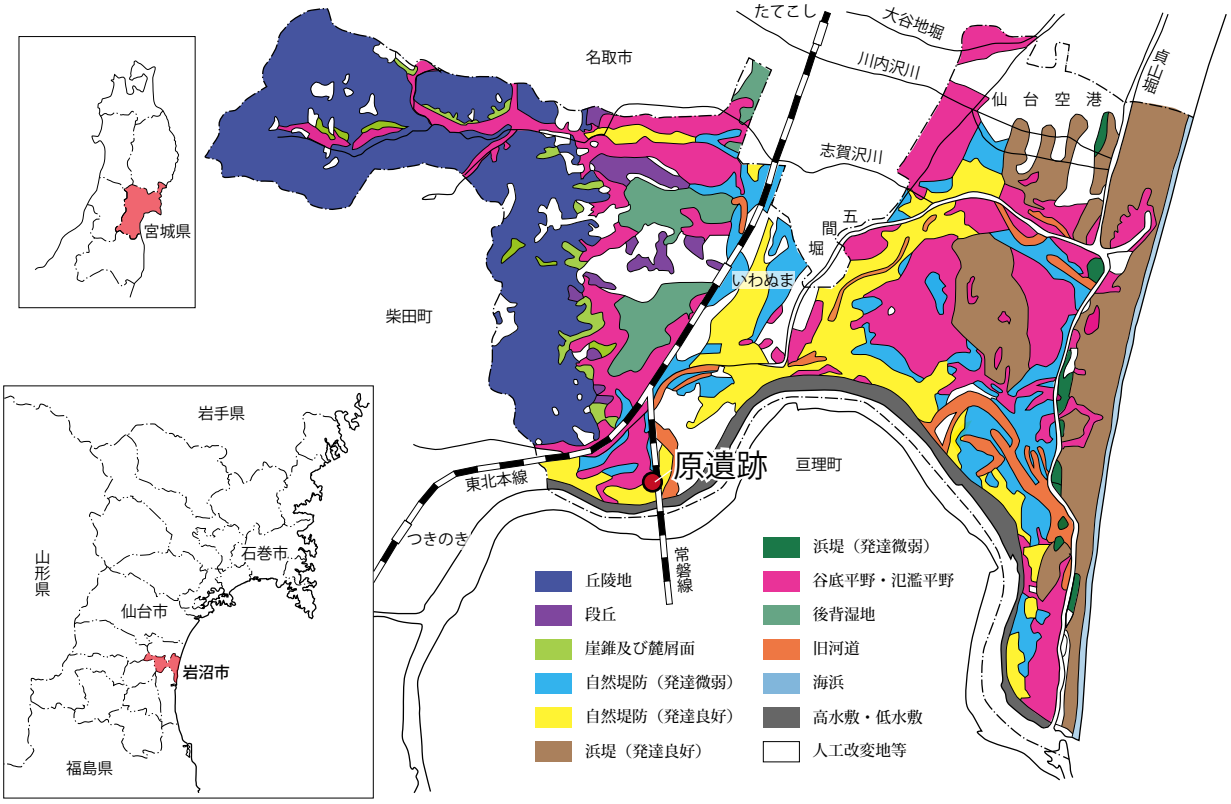

**第２図　第５次調査調査区位置図**

# 第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

## 1．地理的環境

岩沼市は宮城県南東部に位置し、東は太平洋に臨み、北は名取市、南は阿武隈川を隔てて亘理町、西は奥羽山脈から派生した陸前丘陵に含まれる高館丘陵で村田町・柴田町と市域を接する。市域の南端を東流する阿武隈川は、福島県と栃木県の境に位置する旭岳に端を発し、福島県内を北流して宮城県へと至る大河川であり、その全長は国内６位の 239km、流域面積は 5,400 ㎢を測る。本市は、この阿武隈川が太平洋に注ぐ河口部北岸に位置している。また本市は古代では東山道と、東海道から延びる連絡路が合する地点であったが、現在でも国道４号と同６号、JR 東北本線と同常磐線の合流地点となっており、交通要衝の地として知られている。

市域を地質学的に大別すると、西側の山地と東側の広大な沖積地に分けられる。山地は南北に延びる岩沼西部丘陵（標高 100 ～ 300m）と高館丘陵（標高 200 ～ 300m）、これらの丘陵から東へ舌状に張り出す標高 10 ～ 30 mほどの長岡丘陵、二木・朝日丘陵と呼称している小規模な段丘面から成る。山地の東側に展開する広大な沖積地は仙台平野南部域に相当し、岩沼西部丘陵の東縁から太平洋まで７～８km の幅をもつ。この沖積平野は阿武隈川をはじめ、志賀沢川などの中小河川の堆積作用によって形成され、自然堤防の発達が顕著である。また、浜堤も発達しており、市域では大きく分けて、岩沼市街地、玉浦地区、海岸地区の三列の浜提列が確認できる。本報告対象となる原遺跡は、阿武隈川北岸から 200 ～ 300 m北に位置し、阿武隈川北岸に形成された自然堤防上に立地している。




第3図　岩沼市域の地形分類

## 2．歴史的環境

岩沼市域では、これまでに縄文時代から近代にかけての遺跡が 64 箇所で確認されている。近年、東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査や、岩沼市史編纂事業に伴う学術調査により、地域の歴史を解明するための新たな成果が報告されている。以下に各時代の概略を記す。

### 縄文時代

縄文時代の遺跡は、市域西側の丘陵部に点在し、晩期の遺物が多量に発見された下塩ノ入遺跡【14】など、特に志賀沢川流域の志賀・小川地区にまとまって分布している。また、沖積地を臨む丘陵上に立地する山畑南貝塚【9】や畑堤上貝塚【36】では、汽水域に生息するヤマトシジミを主体とした貝層の形成もみられる。北原遺跡【7】では、中期後葉の土坑が 50 基近く検出され、磨消縄文を特徴とする土器のほか、石錐や石棒などが発見された。鵜ヶ崎城跡【23】では、第4地点の発掘調査において、鵜ヶ島台式や梨木畑式に比定される早期末の土器群が見つかっている（岩沼市史編纂委員会 2015）。

### 弥生時代

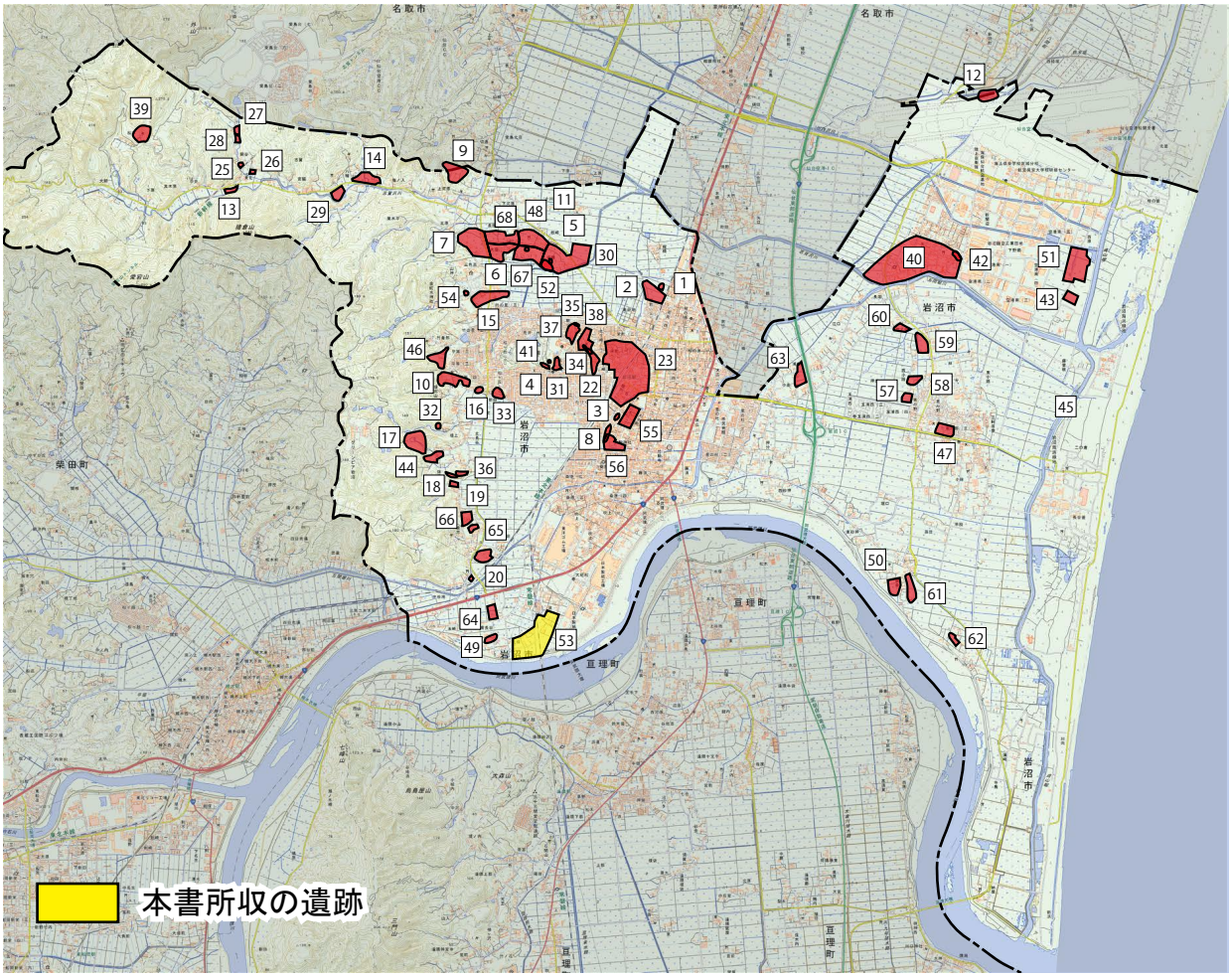
弥生時代の遺跡は縄文時代と同様、市域西側の丘陵部に多く分布している。しかしながら上根崎遺跡【30】や朝日古墳群【37】、平野部に位置するかめ塚西遺跡【2】でも土器の散布が認められ、人間の営みが太平洋側へ拡大する様子をうかがい知ることができる。鵜ヶ崎城跡【23】では、中期後葉と考えられる竪穴建物跡や十三塚式に比定される土器および石包丁などの石器が発見されている。北原遺跡【7】では、北関東を中心に分布する十王台式に並行するものとみられる、後期後半と推量される土器が見つかっている。また、杉の内遺跡【6】では籾痕のある土器も採集されている。（岩沼市史編纂委員会 2015）。

### 古墳時代

古墳時代の遺跡は高塚古墳、横穴墓、集落跡などが市内各所にみられる。高塚古墳のうち、県指定史跡のかめ塚古墳【1】では、古墳周溝の発掘調査において土師器や須恵器のほか、底面から一木二又鋤が出土した。また、地表に顕在する全長約 39 mの墳丘は、周囲が後世に削られたものであり、本来は全長約 48 mを測る前方後円墳であったことが推定されている。造成時期はこれまで中期と考えられてきたが、遺物の年代や古墳の立地条件、墳丘の形態などの点から前期にさかのぼる可能性が示されている（岩沼市史編纂委員会 2015）。

横穴墓は岩沼西部丘陵から派生する低位丘陵の斜面で多く造られ、これまでに 10 箇所の横穴墓群が確認されている（消滅した横穴墓群を含む）。このうち、長谷寺【10】、丸山【3】、二木【8】、土ケ崎【22】、引込【31】、平等山【16】などの横穴墓群の発掘調査では、7世紀前半頃から造営が開始され、8世紀前半頃まで機能していたと考えられている（岩沼市史編纂委員会 2015、岩沼市教育委員会 2019c）。

集落遺跡では北原遺跡【7】をはじめとする長岡丘陵遺跡群が前期の集落跡として知られるが、そこから南へ約 500m の位置に所在する熊野遺跡【15】でも、同時期の竪穴建物跡群が発見された。また、孫兵衛谷地遺跡【12】では前期の塩釜式に位置付けられる土師器を含む遺物包含層の存在が明らか




第4図　岩沼市域の遺跡分布図

第1表　岩沼市域の遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 時　代 | 番号 | 遺跡名 | 時　代 | 番号 | 遺跡名 | 時　代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 53 | 原遺跡 | 古墳・古代 | 23 | 鵜ヶ崎城跡 | 縄文・弥生・中世・近世 | 48 | 長塚北遺跡 | 縄文・古墳・古代 |
| 1 | かめ塚古墳 | 古墳 | 25 | 八森Ａ遺跡 | 縄文 | 49 | 南玉崎遺跡 | 縄文・古代 |
| 2 | かめ塚西遺跡 | 弥生・古墳 | 26 | 八森Ｂ遺跡 | 縄文 | 50 | 西須賀原遺跡 | 古代 |
| 3 | 丸山横穴墓群 | 古墳 | 27 | 銅谷Ａ遺跡 | 縄文・近世 | 51 | 高大瀬遺跡 | 古墳・古代 |
| 4 | 白山横穴墓群 | 古墳 | 28 | 銅谷Ｂ遺跡 | 縄文・近世 | 52 | 長徳寺前遺跡 | 近世 |
| 5 | 新明塚古墳 | 古墳 | 29 | 新宮下遺跡 | 縄文 | 54 | 中ノ原遺跡 | 中世 |
| 6 | 杉の内遺跡 | 弥生・古墳・古代 | 30 | 上根崎遺跡 | 縄文・弥生・古代・中世 | 55 | 丸山遺跡 | 中世・近世 |
| 7 | 北原遺跡 | 縄文・弥生・古墳・古代 | 31 | 引込横穴墓群 | 古墳 | 56 | 竹駒神社境内遺跡 | 中世・近世 |
| 8 | 二木横穴墓群 | 古墳 | 32 | 古関山遺跡 | 弥生・古墳 | 57 | 新筒下遺跡 | 古代 |
| 9 | 山畑南貝塚 | 縄文・古代 | 33 | 新田遺跡 | 縄文・古代 | 58 | 沼前遺跡 | 古代 |
| 10 | 長谷寺横穴墓群 | 古墳 | 36 | 畑堤上貝塚 | 縄文・古墳・古代 | 59 | 西土手遺跡 | 中世 |
| 11 | 長塚古墳 | 古墳 | 37 | 朝日古墳群 | 弥生・古墳・中世・近世 | 60 | 前條遺跡 | 古代 |
| 12 | 孫兵衛谷地遺跡 | 古墳前 | 38 | 朝日遺跡 | 古墳・古代・中世 | 61 | 刈原遺跡 | 古代 |
| 13 | 大日遺跡 | 縄文 | 39 | 岩蔵寺遺跡 | 縄文・古代・中世 | 62 | 高原遺跡 | 中世 |
| 14 | 下塩ノ入遺跡 | 縄文 | 40 | 下野郷館跡 | 古墳・古代・中世・近世 | 63 | 上中筋遺跡 | 古代・中世 |
| 15 | 熊野遺跡 | 古墳・古代 | 41 | 白山塚 | 近世？ | 64 | 樋遺跡 | 古代・中世 |
| 16 | 平等山横穴墓群 | 古墳 | 42 | 舘外遺跡 | 古代 | 65 | 柳遺跡 | 古墳・古代 |
| 17 | 新館跡 | 中世 | 43 | にら塚遺跡 | 古墳・古代 | 66 | 台遺跡 | 縄文・弥生 |
| 18 | 畑堤上横穴墓群 | 古墳 | 44 | 新館前遺跡 | 縄文・古代 | 67 | 長塚遺跡 | 縄文・古墳 |
| 19 | 根方泉遺跡 | 弥生・近世 | 45 | 貞山堀（木曳堀） | 近世 | 68 | 上小渕遺跡 | 弥生・古墳・古代 |
| 20 | 長谷古館跡 | 室町 | 46 | 竹倉部遺跡 | 弥生・古墳・古代 | | | |
| 22 | 土ヶ崎横穴墓群 | 古墳 | 47 | 新田東遺跡 | 奈良・中世・近世 | | | |

となった。中期以降の様相については遺物の発見が少なく判然としないが、下野郷館跡【40】では南小泉式の土師器坏が出土し、第Ⅱ浜堤列上でも将来、古墳時代の集落遺跡の発見が期待される（岩沼市教育委員会 2018b、岩沼市史編纂委員会 2015）。

**古　代**

岩蔵寺遺跡【39】の所在する岩蔵寺には、平安時代後期に製作されたと考えられる木造如来像が現存する。発掘調査では、小石を塚状に集積した遺構の底面で火を焚いた痕跡と須恵系土器の坏が発見されており、平安時代から何らかの祭祀行為を行っていた可能性が考えられている（岩沼市史編纂委員会 2018）。北原遺跡【７】や熊野遺跡【15】では、７世紀末から 10 世紀前半にかけての竪穴建物跡が発見されている（岩沼市教育委員会 2019b）。原遺跡【１】では、桁行 10 間、梁行３間で、主軸方位が真北方向をとる大型掘立柱建物跡をはじめ、竪穴建物跡や材木塀跡、幅３ｍを超える大溝などが検出され、円面硯や墨書土器、刀の口金具が出土した（岩沼市教育委員会 2018a・2019a）。近接する南玉崎遺跡【49】や樋遺跡【64】では、土師器・須恵器などが出土しており、このうち樋遺跡では７世紀末～８世紀初頭頃に位置付けられる須恵器の高台坏などが出土している（岩沼市史編纂委員会 2015）。対岸（阿武隈川南岸）には、平安時代の陸奥国曰理郡衙跡と考えられている三十三間堂官衙遺跡（亘理町）が位置し、中世には逢隈湊と呼ばれる湊の存在が『吾妻鑑』に記されている。

**中　世**

中世の遺跡は、過去に朝日古墳群【37】、朝日遺跡【38】、鵜ヶ崎城跡【23】、丸山遺跡【55】、竹駒神社境内遺跡【56】、下野郷館跡【40】、西須賀原遺跡【50】、中ノ原遺跡【54】、岩蔵寺遺跡【39】、刈原遺跡【61】、上根崎遺跡【30】などで発掘調査が行われている。平成 27 年（2015）の熊野遺跡【15】の発掘調査において長軸 3.9m、短軸 2.4m を測る方形竪穴遺構が確認された。これは倉庫的な性格を持つ遺構と推定されるが、底面からは龍泉窯系の鎬蓮弁文青磁碗片が出土していることから当該地周辺の中ノ原遺跡で発見された板碑を伴う蔵骨器に納められた被葬者と関わりを持つ在地富裕層などが存在した可能性がある（岩沼市史編纂委員会 2015・2018、岩沼市教育委員会 2019b）。

**近　世**

本市は近世において城下町、宿場町として発展し、竹駒神社の門前町としても賑わいを見せたといわれ、調査実績もほかの時代に比べて多い傾向にある。丸山遺跡【55】、竹駒神社境内遺跡【56】、下野郷館跡【40】、西須賀原遺跡【50】、西土手遺跡【59】、新筒下遺跡【57】、刈原遺跡【61】、高原遺跡【62】などで発掘調査が行われ，仙台藩政期の社会を研究する上で貴重な成果が得られている。鵜ヶ崎城跡【23】第１地点の調査では、溝跡や石積み遺構、碗埋納遺構などが検出され、第４地点では土塁の補・改修痕跡が確認された。遺物では、15 世紀前半頃の龍泉窯系青磁盤や天目釉を施した瀬戸産小壺などが出土した（岩沼市教育委員会 2005b、岩沼市史編纂委員会 2015）。

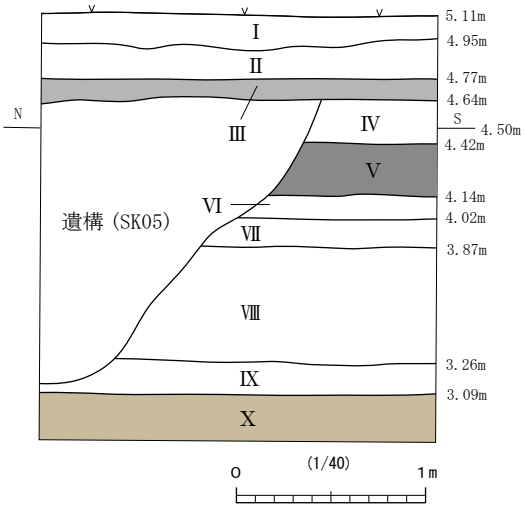
原遺跡【１】の所在する玉崎地区の渡邉家は、江戸時代に仙台藩より阿武隈川舟運の統制を命じられ、船からの税徴収や米などの商品継送を手掛けて玉崎問屋と呼ばれた。また、歌枕としても知られる玉崎地区の「稲葉（田沢）の渡し」は、最も古くからある渡しであったと考えられている。玉崎地区は古代以来、水陸交通の要衝に位置した（岩沼市史編纂委員会 2018）。

# 第Ⅲ章　調査成果

## １．基本層序

今回の調査地点のⅠ区は水田、Ⅱ区は畑地として利用されている。このため、確認された基本土層の上層は若干異なる。しかしながら、Ⅲ層の黒褐色粘質シルト、Ⅵ層のにぶい黄褐色砂質シルト、Ⅴ層の黒色粘質シルトは第１次調査以降から認められるもものであり、遺跡内において広範囲な堆積が推定できる。とくにⅢ層は層位の乱れが少なく、厚みも 10 ～ 15 ㎝ほどと安定しており、付近での調査の掘削に際しては遺構確認面までの指標となる。Ⅳ～Ⅷ層については第１～３次調査でも認められるものであるが、埋没谷の可能性がある箇所ではⅤ～Ⅶ層がみられない（岩沼市教委 2019・2020・2021）。なお、今次調査のⅠ区からはⅧ層以下の層序について、初めて知見が得られている。

一方で、Ⅱ区北側ではⅣ層以下の層序が見られず、にぶい黄褐色粘質シルトが堆積している。今回の調査範囲内ではこのⅡ区北側でⅧ層が確認できたのは SB06 掘立柱建物の柱穴底面であり、Ⅰ区に比べると旧地形が北側へ大きく傾斜していることが分かる。




第５図　基本層序図

基本層序注記

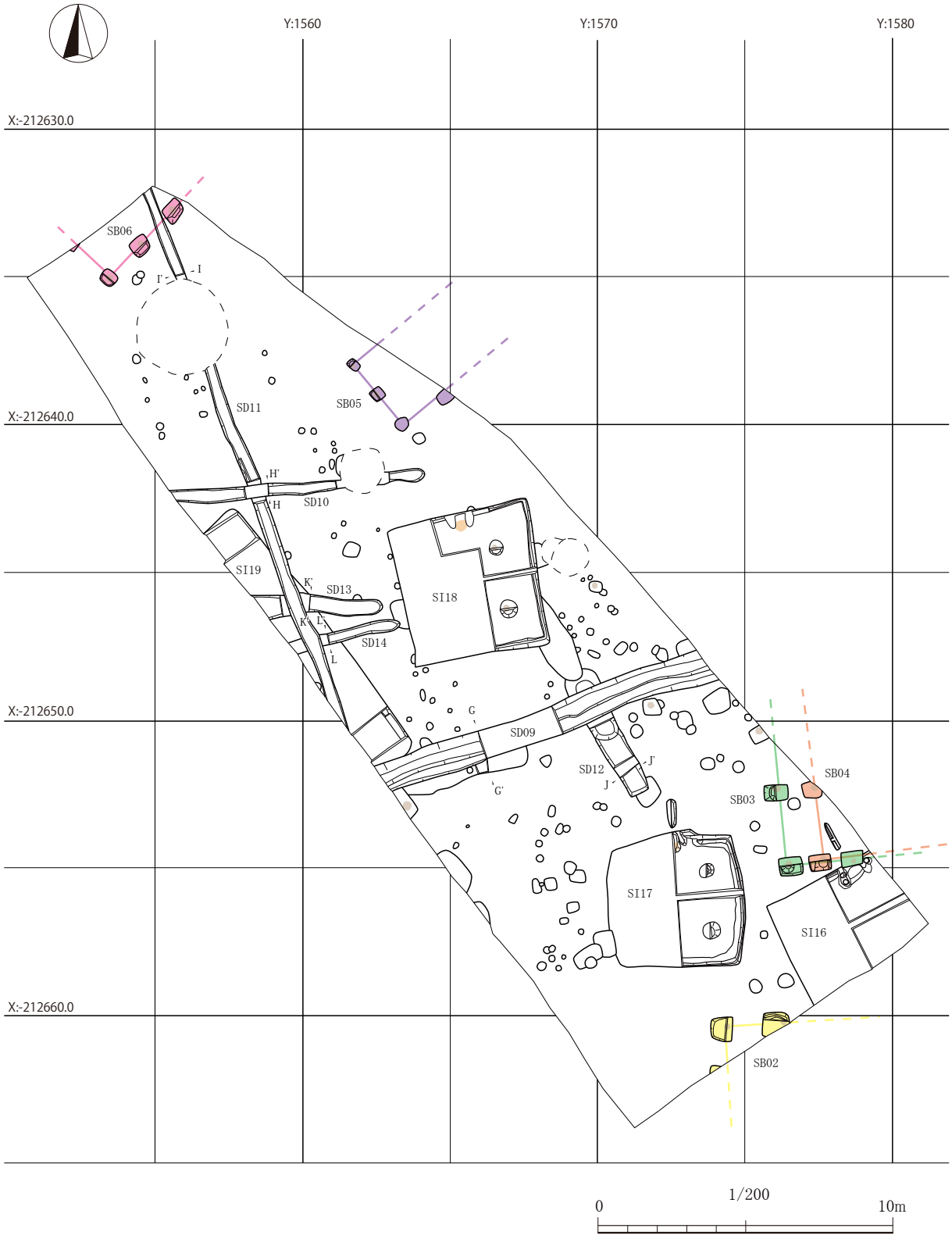
| No. | 土色 | | 土質 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 酸化鉄分を多量に含む。しまり弱い。粘性ややあり。現水田耕作土。 |
| Ⅱ | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト | 炭化物・焼土粒を微量含む。暗褐色シルトの小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。粘性ややあり。 |
| Ⅲ | 暗褐色 | (10YR3/3) | シルト | 炭化物・焼土粒を微量含む。黒褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。粘性ややあり。 |
| Ⅳ | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 砂質シルト | 焼土粒を微量含む。黒褐色・灰黄褐色粘質シルトの小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。 |
| Ⅴ | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 炭化物を微量含む。暗褐色粘土の小ブロックをやや少量含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。 |
| Ⅵ | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物を微量含む。褐色･黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。 |
| Ⅶ | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 炭化物を微量含む。褐色･黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。 |
| Ⅷ | 褐色 | (10YR4/6) | 粘土 | 黒褐色粘土の中ブロックを少量含む。しまりやや弱い。粘性あり。 |
| Ⅸ | 灰黄褐色 | (10YR5/2) | 粘土 | 酸化鉄分を斑状に多量に含む。炭化物を微量含む。しまりやや弱い。粘性あり。 |
| Ⅹ | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 砂 | 酸化鉄分を多量に含む。しまり弱い。粘性なし。 |

## ２．発見された遺構と遺物

第５次調査では、調査面積 538 ㎡のⅠ区、そして調査面積 366 ㎡のⅡ区で調査を実施した。調査で確認した遺構は、Ⅰ区では掘立柱建物跡１棟、竪穴建物跡 11 棟、井戸跡２基、大型土坑４基、柱列１列、溝跡６条、土坑１基、柱穴、そして小溝状遺構群である（第６図）。Ⅱ区では掘立柱建物跡５棟、竪穴建物跡４棟、溝跡４条、柱穴である（第７図）。

出土遺物はⅠ・Ⅱ区ともに古墳時代終末期から平安時代の土師器・須恵器が多数を占め、ごく僅かに弥生土器、古墳時代中期の土師器、石製品、カマド支脚などの土製品が含まれる。遺物は主に遺構内、及び遺構精査時に出土しているが、重機による表土掘削でも出土している。出土遺物の総数は整理箱で 20 箱程度である。以下に発見された遺構別に詳述する。

第６図　第５次調査Ⅰ区全体図




**第７図　第５次調査Ⅱ区全体図**

**ａ．掘立柱建物跡**

【SB01】（第８・９図）

Ⅰ区中央東寄りに位置する。SI04・07・10・11・12・13 と重複関係にあり、SI04・07・13 より新しく、SI10・11・12 より古い。東西３間、南北４間の南北棟であり、桁行総長 8.04 ｍ、梁行総長 5.24 ｍを測る。建物の主軸方位は東列で計測すると、真北から３° 西へ傾く。柱穴掘方の平面形は長軸 167 ～ 84 ㎝、短軸 126 ～ 60 ㎝を測る長方形であるが、掘り下げを行った 10 穴のうちで段掘りが行われているものが６穴ある。これらの柱穴で深く掘り下げているのは、いずれも建物側である。柱穴の大半は桁行・梁行に対して直交して掘られるが、四隅の柱穴は長辺が建物に対して 45° ほど傾くもの（P33・137）と、短辺が 45° ほど傾くもの（P130・140）の２者がある。柱痕跡はすべての柱穴で認められ、柱筋のとおりは概ね良好である。確認した柱痕跡は 22 ～ 26 ㎝ほどの円形である。掘方の埋土は、基本層Ⅷ層である褐色粘土ブロックを多量に用いて埋め戻されている。なお、南西隅の P137 では、柱穴掘方内に柱痕跡が２つ確認されており、１つは床束の可能性が考えられる。

遺物は第 10 図１に図示した須恵器坏のほか、非ロクロ成形の土師器坏・甕、須恵器蓋・甕が出土している。小片のため図示を見送った遺物の中には、内・外の両面に黒色処理を施した非ロクロ成形の土師器坏、合子状の蓋が含まれている。図示した遺物の年代観では８世紀前半頃と考えられるが、後述する第３次調査の成果をあわせ考えると、本遺構は８世紀半ば頃の年代観が考えられる。なお、P135 からはウメと思われる種子も出土している。

【SB02】（第 11 図）

Ⅱ区南部に位置する。確認した範囲では東西１間、南北１間であるが、調査区南側へさらに広がるため、棟方向も含めた全体の規模は不明である。確認した範囲での北辺は 1.86 ｍを測る。建物の主軸方位は北列で計測すると、真北から 86° 東に傾くことから、東西の柱列は真北から４° 前後西へ傾くものとみられる。柱穴掘方の平面形は長軸 92 ～ 81 ㎝、短軸 78 ～ 71 ㎝を測る長方形である。なお、確認した柱痕跡は 20 ㎝ほどの円形である。

遺物は非ロクロ成形の土師器甕と弥生土器が出土しているが、図示はできなかった。これまでの調査成果を踏まえると、主軸がほぼ真北方向であることから、本遺構は８世紀前半から後半頃の年代観が考えられる。

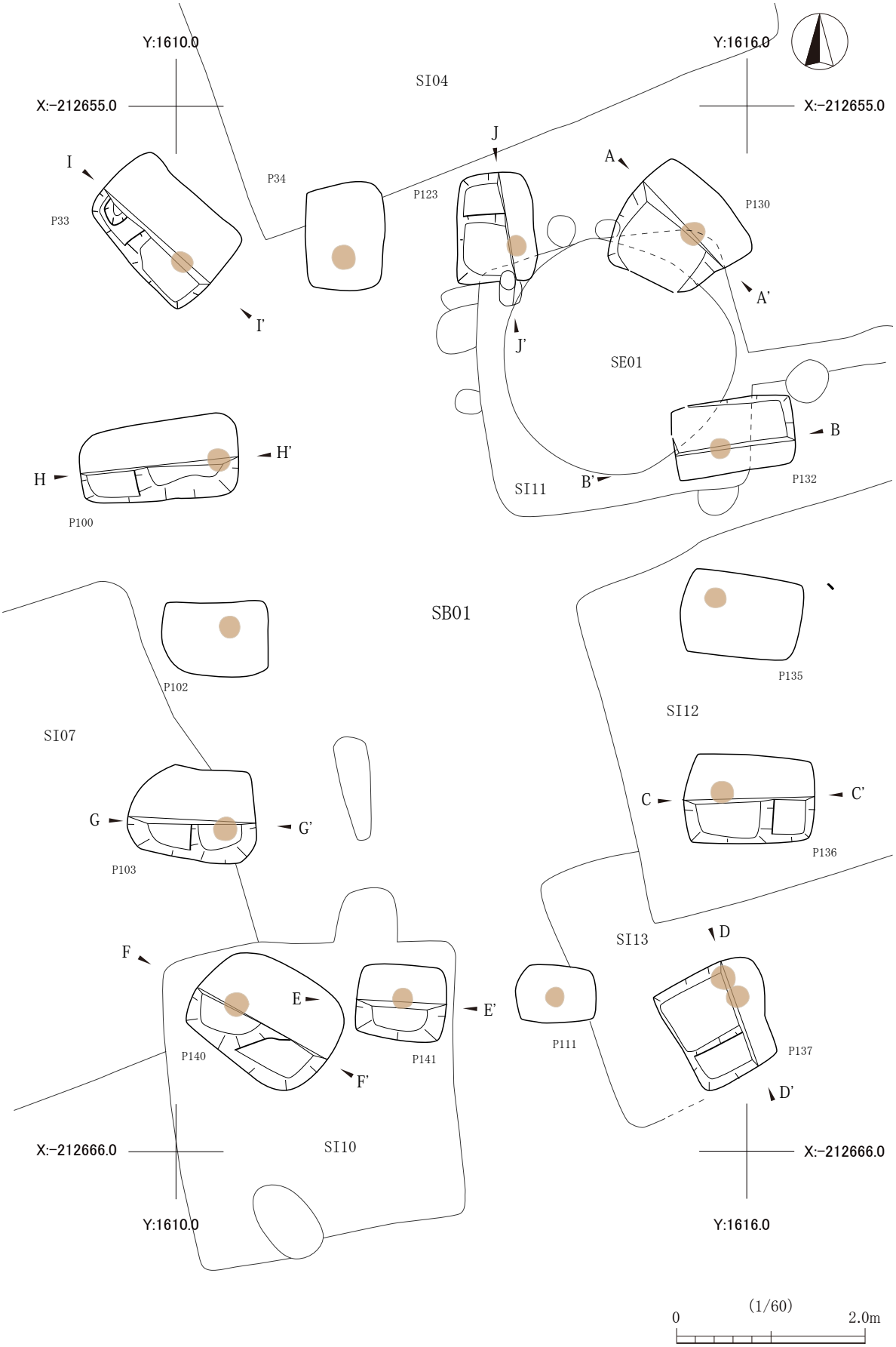
【SB03】（第 12・13 図）

Ⅱ区南部東寄りに位置する。SB04、SI16 と重複し、SI16 より新しいが、SB04 とは直接切り合わないために新旧関係は不明である。確認した範囲では東西１間、南北１間であるが、北側には展開しないことから東西棟であるとみられる。東側は調査区外へさらに広がるため、全体の規模は不明である。確認した範囲での南辺は 2.20 ｍ、西辺は 2.62 ｍを測る。建物の主軸方位は西列で計測すると、真北から８° 西に傾く。柱穴掘方の平面形は長軸 80 ～ 76 ㎝、短軸 62 ～ 44 ㎝を測る長方形である。なお、確認した柱痕跡は 24 ㎝ほどの円形である。

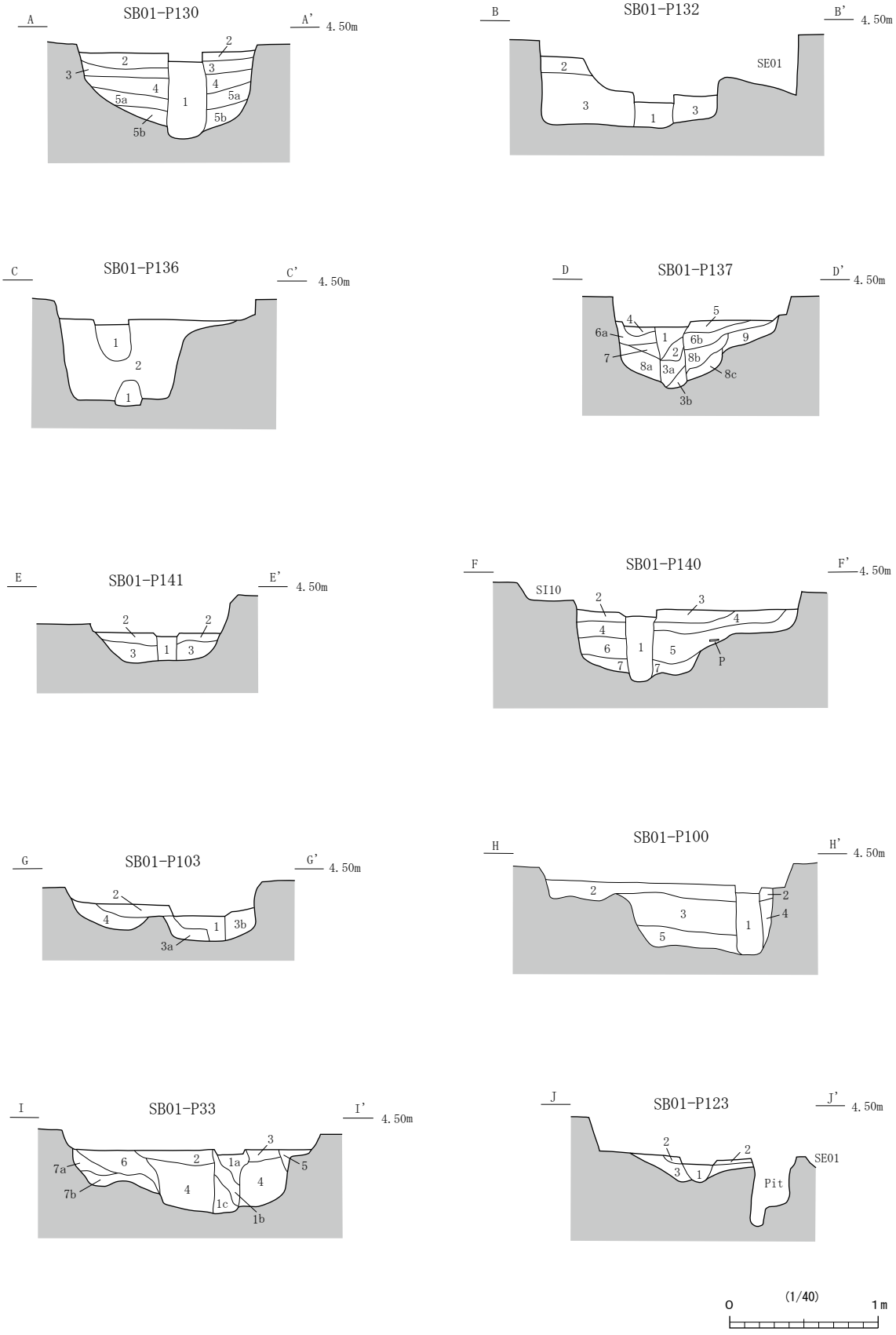
遺物は非ロクロ成形の土師器甕と須恵器坏が出土しているが、図示はできなかった。本遺構も主軸が僅かに西へ傾くものであることから、８世紀前半から後半頃と考えたい。

【SB04】（第 12・13 図）

Ⅱ区南部東寄りに位置する。SI16 と重複し、これより新しい。前述のとおり SB03 との新旧関係は不明である。確認した範囲では東西１間、南北１間であるが、調査区東側へさらに広がるため、全体


Y:1610.0
Y:1616.0
X:-212655.0
X:-212655.0
SI04
J
A
I
P34
P123
P130
P33
A'
I'
J'
SE01
B
H'
H
B'
SI11
P132
P100
SB01
P135
P102
SI12
SI07
C
C'
G
G'
P136
P103
SI13
D
F
E
E'
P111
P137
P140
P141
F'
D'
X:-212666.0
SI10
X:-212666.0
Y:1610.0
Y:1616.0
(1/60)
0
2.0m

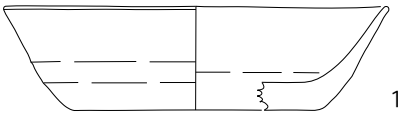
第８図　SB01




第９図　SB01 柱穴土層断面図

## SB01 柱穴 土層注記

| 柱穴№ | 層№ | 土色 | 土質 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P130 | 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 3 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 4 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 砂質粘土 | 黒褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 5a | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘土 | 黒褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまり強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 5b | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 黒褐色粘土の大ブロックを多量に含む。しまり強い。湿性・粘性あり。 |
| P132 | 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 褐色粘土の中～大ブロックを多量に含む。しまりややあり。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘質シルト | にぶい黄褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。湿性粘性なし。 |
| | 3 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 褐色粘土の中ブロツクを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| P136 | 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり弱い。粘性ややあり。 |
| | 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の大ブロックを多量、炭化物・黒色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性あり。 |
| P137 | 1 | 褐灰色 | (10YR5/1) | 砂質粘土 | 炭化物を少量含む。褐色･黒褐色粘土の小･中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。 |
| | 2 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小・中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 3a | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり弱い。湿性・粘性あり。 |
| | 3b | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小・中ブロックを少量含む。しまり弱い。湿性・粘性あり。 |
| | 4 | 褐灰色 | (10YR6/1) | 砂質粘土 | にぶい黄褐色粘土粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややなし。床束の痕跡か。 |
| | 5 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。褐色・黒褐色粘土の小・中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。 |
| | 6a | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘土 | 褐色粘土の中・大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 6b | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘土 | 褐色・黒褐色粘土の中・大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 7 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 8a | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 褐色粘土の大ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| | 8b | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| | 8c | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 褐色・暗褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| | 9 | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘土 | 褐色・黒褐色粘土の中・大ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| P141 | 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 3 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 褐色・暗褐色粘土の中・大ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| P140 | 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 褐色粘土の小・大ブロックをやや多量に含む。しまり強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 3 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘土 | にぶい黄褐色粘土の大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 4 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘土 | 黒褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 5 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土の中ブロックを含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 6 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 7 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| P103 | 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。褐色粘土粒をやや少量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 2 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘質シルト | 黒褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 3a | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘土 | 褐色・黒褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 3b | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘土 | 褐色・黒褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 4 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| P100 | 1 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。褐色・黒褐色粘土の小・中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。 |
| | 3 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 褐色粘土の小～大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 4 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | にぶい黄褐色・暗褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 5 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘土 | 褐色粘土の大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |
| P33 | 1a | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 1b | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 1c | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土粒を少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 3 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘質シルト | 黒褐色粘土の中ブロックを少量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 4 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 5 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 褐色粘土粒を少量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 6 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 褐色・黒色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 7a | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒褐色粘土の中ブロックを少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 7b | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 黒褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| P123 | 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 2 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 砂質粘土 | にぶい黄橙色・褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| | 3 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘土 | 黒褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |

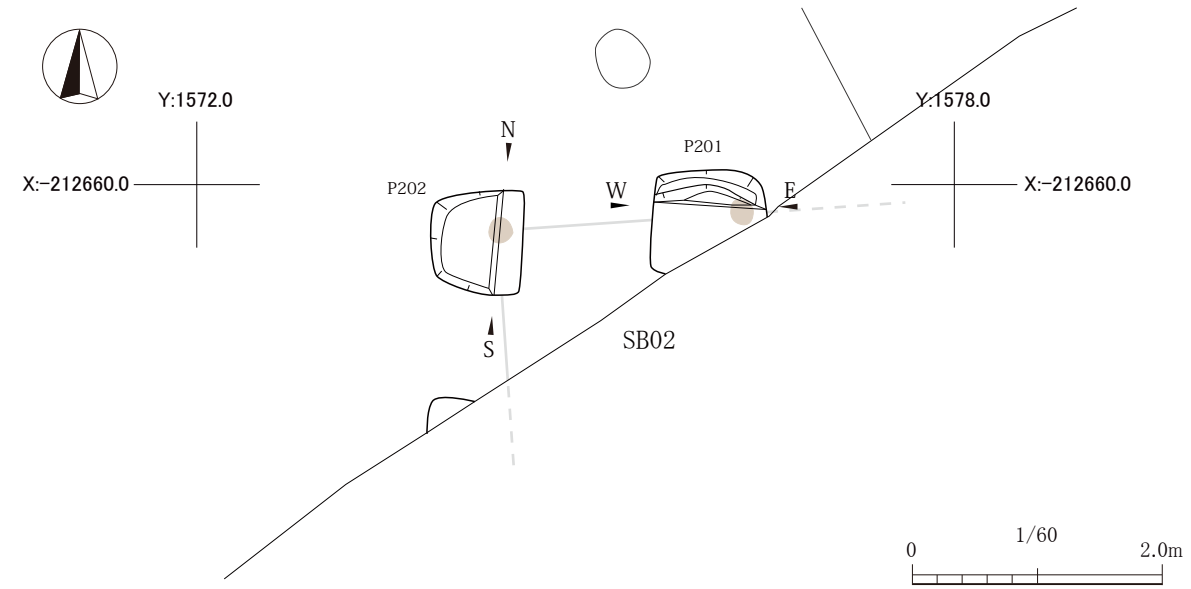


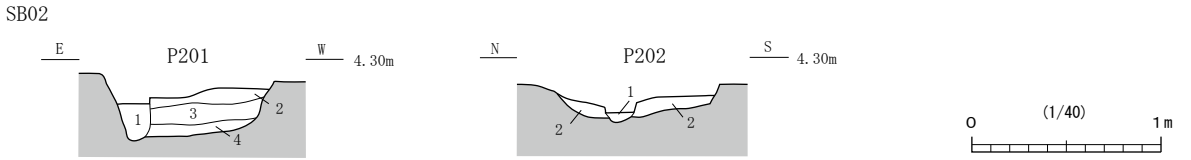
1

(1/3)

| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外面 | 内面 | 残存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 西側・埋土 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ－底部回転ヘラ切り離し後ヘラケズリ | ロクロナデ | 全体の1/2 | (15.3) | (9.8) | 4.1 | 7-1 |

第 10 図　SB01(P137) 出土遺物

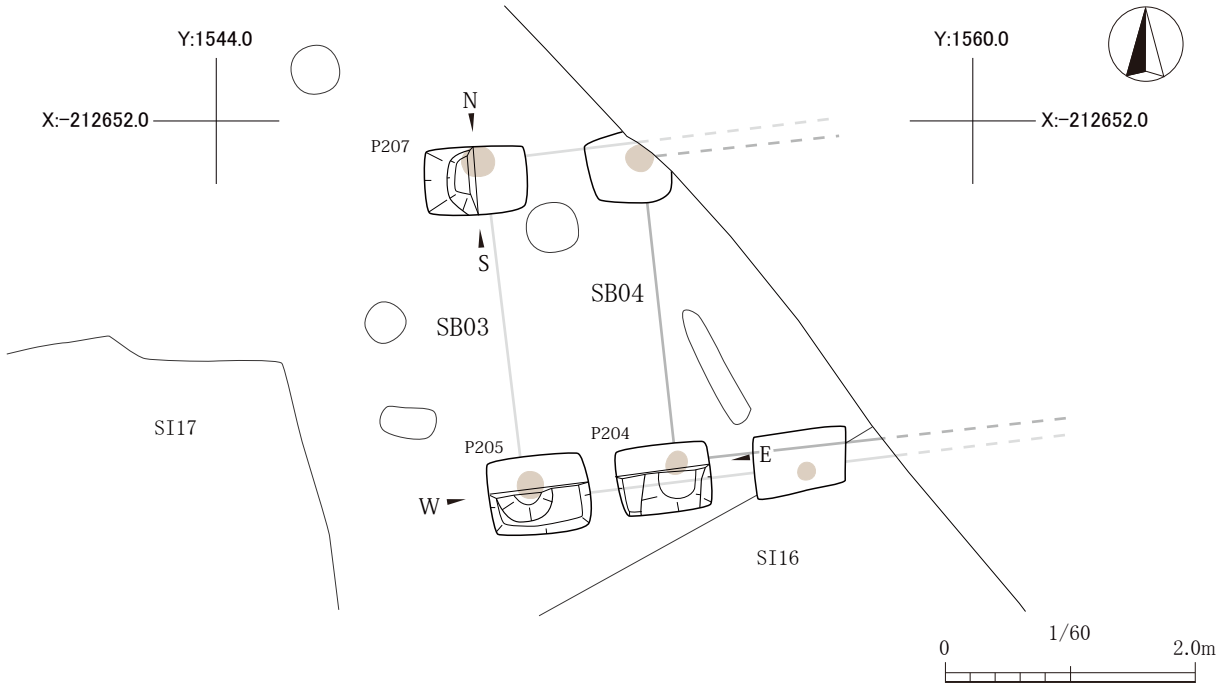



SB02 柱穴土層注記

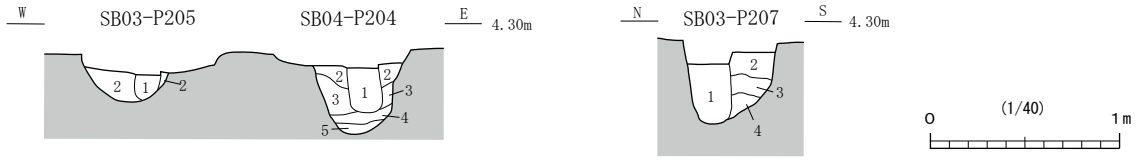
| 柱穴No. | 層No. | 土色 | | 土質 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P201 | 1 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 3 | 黒褐色 | (10YR4/4) | 粘質シルト | 褐色粘土の小・中ブロックをやや少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 4 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒色粘質シルトの中ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| P202 | 1 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒色粘質シルトの大ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

第 11 図　SB02




第 12 図　SB03・04（１）

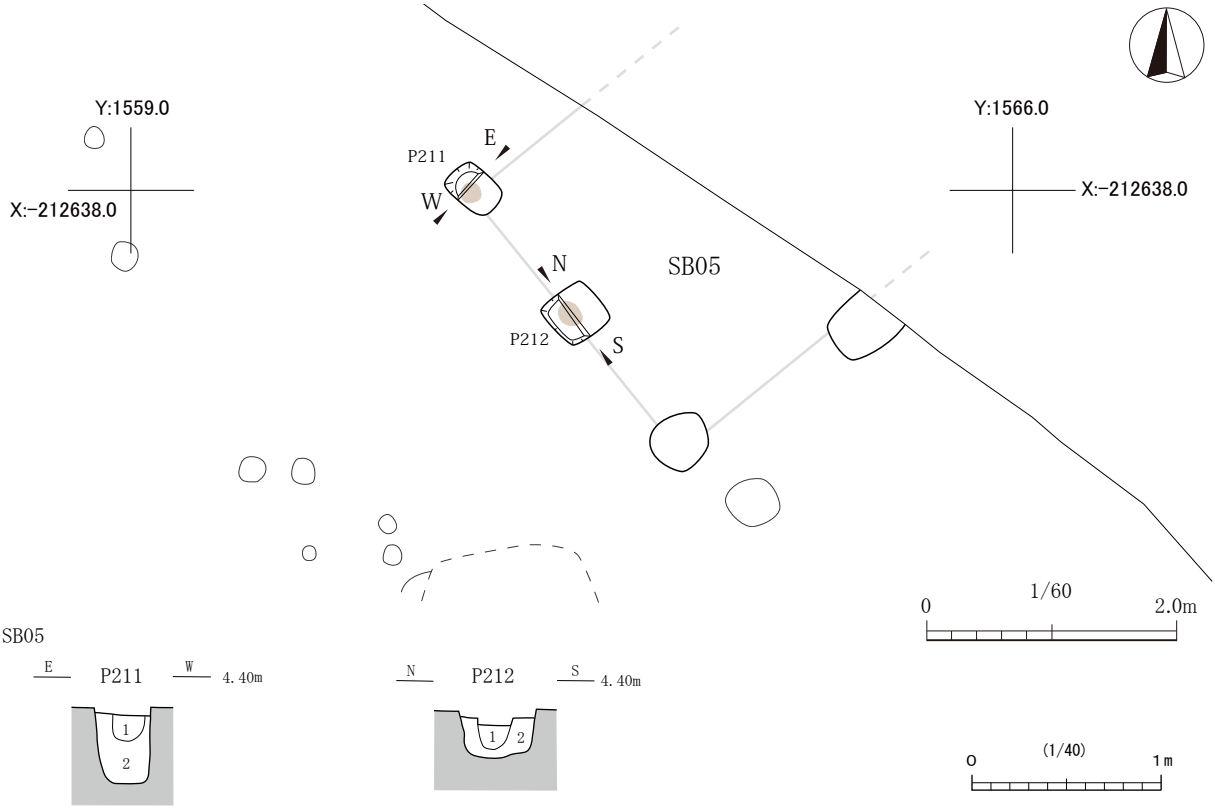
SB03・SB04




SB03・SB04 柱穴土層注記

| 柱穴No. | 層No. | 土色 | | 土質 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P204 | 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 黒褐色 | (10YR2/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 3 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の大ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 4 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒褐色粘質シルトの大ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 5 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒褐色粘質シルトの大ブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| P205 | 1 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小・中ブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| P207 | 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 暗褐色粘土の小・中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の大ブロツクを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 3 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまり強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 4 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |

第 13 図　SB03・04（２）



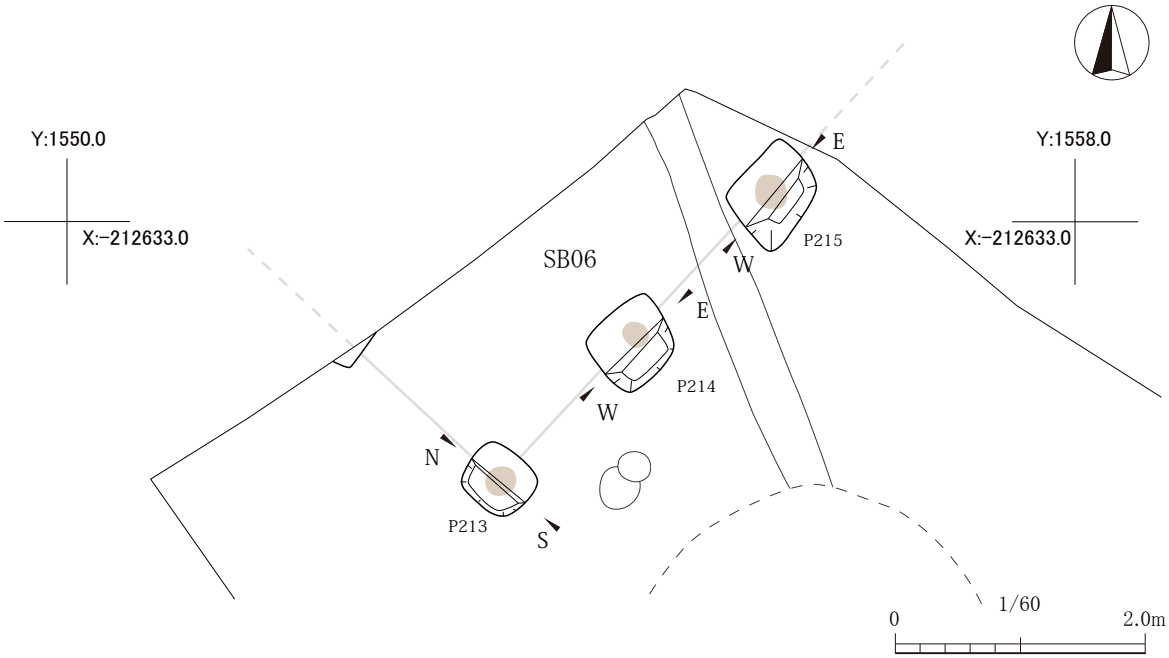

SB05

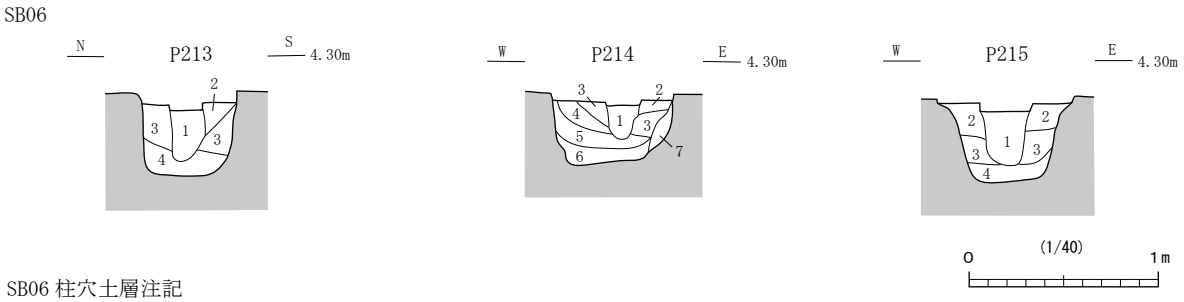



SB05 柱穴土層注記

| 柱穴No. | 層No. | 土色 | | 土質 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P211 | 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 褐色粘土の小・中ブロックを少量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |
| P212 | 1 | 褐灰色 | (10YR5/1) | 粘土 | にぶい黄橙色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |
| | 2 | 黄褐色 | (2.5Y5/3) | 粘土 | 黒褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |

第 14 図　SB05




SB06 柱穴土層注記

| 柱穴No. | 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P213 | 1 | 黒色 | (10YR1.7/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックを少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 黒色 | (10YR1.7/1) | 粘質シルト | 褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 3 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小・中ブロックをやや少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 4 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒色粘質シルト粒を少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |
| P214 | 1 | 黒色 | (N1.5/ ) | 粘質シルト | にぶい黄橙色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| | 2 | 暗灰色 | (N3 / ) | 粘質シルト | にぶい黄橙色粘土の小・中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |
| | 3 | 黒色 | (N1.5/ ) | 粘質シルト | にぶい黄色橙粘土の小・中ブロツクをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |
| | 4 | 灰色 | (N4/ ) | 粘質シルト | にぶい黄色橙粘土の大ブロツクを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |
| | 5 | 灰色 | (10YR3/1) | 粘土 | にぶい黄色橙粘土の中～大ブロツクをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 6 | 暗灰黄色 | (2.5Y5/2) | 粘土 | 灰色粘土の中ブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |
| | 7 | にぶい黄色 | (2.5Y6/3) | 粘土 | 灰色粘土粒を少量含む。しまり強い。粘性あり。 |
| P215 | 1 | 暗緑灰色 | (5G 4/1) | 粘質シルト | にぶい黄橙色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 暗緑灰色 | (10G 4/1) | 粘土 | にぶい黄橙色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |
| | 3 | 緑黒色 | (5G 2/1) | 粘土 | にぶい黄橙色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |
| | 4 | 緑黒色 | (5G 1.7/1) | 粘土 | にぶい黄橙色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |

**第 15 図　SB06**

の規模は不明である。確認した範囲での西辺は 2.42 ｍを測る。SB03 とほぼ同位置であることから東西棟の建て替えであると考えられる。建物の主軸方位は西列で計測すると、真北から 7° 西に傾く。柱穴掘方の平面形は長軸 74 ㎝、短軸 56 ～ 54 ㎝を測る長方形である。なお、確認した柱痕跡は 18 ㎝ほどの円形である。

遺物は非ロクロ成形の土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土しているが図示はできなかった。しかしながら、須恵器坏では底部をヘラギリしたのちに手持ちヘラケズリを施したものが含まれている。本

遺構も主軸が僅かに西へ傾くものであることから、８世紀前半から後半頃の年代観と考えたい。

【SB05】（第 14 図）

Ⅱ区北東部に位置する。確認した範囲では東西１間、南北２間以上であり、東西棟と考えられるが、調査区東側へさらに広がるため、全体の規模は不明である。確認した範囲での南辺は 1.80 ｍ、西辺は 2.56 ｍを測る。建物の主軸方位は西列で計測すると真北から 41° 西に傾く。柱穴掘方の平面形は長軸 44 ㎝、短軸 42 ～ 31 ㎝を測る長方形である。なお、確認した柱痕跡は 20 ㎝ほどの円形である。

遺物は出土していないが、後述する SI19 と近い主軸方位を示すことから７世紀後半頃と考えたい。

【SB06】（第 15 図）

Ⅱ区北部に位置する。確認した範囲では東西２間以上、南北１間以上であるが、調査区北側へさらに広がるため、棟方向も含めた全体の規模は不明である。確認した範囲での南辺は 3.16 ｍを測る。建物の主軸方位は西列で計測すると真北から 47° 西に傾く。柱穴掘方の平面形は長軸 71 ～ 56 ㎝、短軸 58 ～ 49 ㎝を測る長方形である。なお、確認した柱痕跡は 20 ㎝ほどの円形である。

遺物は出土していないが、後述する SI19 と近い主軸方位を示すことから７世紀後半頃と考えたい。

**第２表　掘立柱建物跡属性表**

| 建物名 | 間数 | 棟方向 | 桁行総長（m） | 柱間寸法（m） | 測定柱列 | 梁間総長（m） | 柱間寸法（m） | 測定柱列 | 方向 | 柱痕跡径（cm） | 柱穴規模（cm） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB01 | ３×４ | 南北棟 | 8.04 | 北から<br>2.22/1.54/<br>2.10/2.18 | 東列 | 5.24 | 西から<br>1.72/1.60/<br>1.92 | 南列 | N-3° -E | 22 ～ 26<br>円形 | 167 ～ 84<br>×<br>126 ～ 60 | SI04・07 より新<br>SI10・11・12・13、SE01 より旧 |
| SB02 | １以上×<br>１以上 | 東西棟<br>？ | 1.86 以上 | 1.86/ | 北列 | 不明 | | | N-86° -E | 20<br>円形 | 92 ～ 81<br>×<br>78 ～ 71 | |
| SB03 | １×１以上 | 東西棟 | 2.20 以上 | 2.20/ | 南列 | 2.62 | 2.62 | 西列 | N-8° -W | 24<br>円形 | 80 ～ 76<br>×<br>62 ～ 44 | SI16 より新<br>SB04 との新旧不明 |
| SB04 | １以上×<br>１以上 | 東西棟<br>？ | 不明 | | | 2.42 | 2.42 | 西列 | N-7° -W | 18<br>円形 | 74 × 56 ～ 54 | SB03 との新旧不明 |
| SB05 | １以上×２ | 東西棟<br>？ | 1.80 以上 | 1.80 | 南列 | 2.56 | 1.24/1.32 | 西列 | N-41° -W | 20<br>円形 | 44 × 42 ～ 31 | |
| SB01 | １以上×<br>２以上 | 南北棟<br>？ | 不明 | | | 3.16 | 1.60/1.56 | 南列 | N-47° -W | 20<br>円形 | 71 ～ 56<br>×<br>58 ～ 49 | |

### ｂ．柱列跡

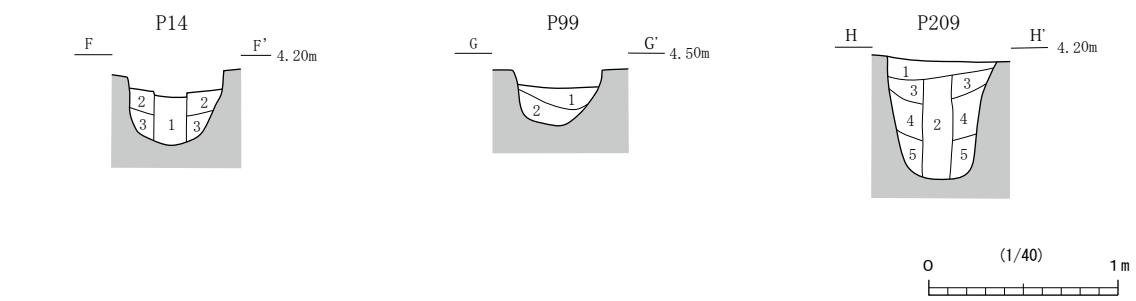
【SA01】（第 16・23 図）

Ⅰ区中央部から西寄りにかけて存在するＬ字状の柱列である。小溝状遺構群と重複関係にあり、これより新しい。東西３間、南北３間であり、東西列の西端で南北方向に屈曲する。総検出長は東西方向が 6.16 ｍ、南北方向が 6.11 ｍを測る。東西列の柱穴間は西から 2.05 ｍ・1.97 ｍ・2.14 ｍ、南北列の柱穴間は北から 1.90 ｍ・2.29 ｍ・1.92 ｍを測る。東西列で計測した主軸方向は真北から 71° 東へ傾き、南北列で計測した主軸方向は真北から 20° 西へ傾く。柱穴掘方の平面形は楕円形が主体であり、長軸 66 ～ 35 ㎝、短軸 49 ～ 25 ㎝を測る。なお、確認した柱痕跡は 18 ㎝ほどの円形である。

遺物は非ロクロ成形の土師器甕が出土しているが、図示できなかった。

**第３表　柱列跡属性表**

| 建物名 | 間数 | 棟方向 | 東西総長（m） | 柱間寸法（m） | 南北総長（m） | 柱間寸法（m） | 方向 | 柱痕跡径（cm） | 柱穴規模（cm） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SA01 | 東西３×<br>南北３ | Ｌ字状 | 6.16 | 西から<br>2.05/1.97/2.14 | 6.11 | 北から<br>1.90/2.29/1.92 | 東西柱列<br>N-71° -E<br>南北柱列<br>N-20° -W | 18<br>円形 | 66 ～ 35<br>×<br>49 ～ 25 | 小溝状遺構群より新 |




SA01 柱穴土層注記

| 柱穴No. | 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P14 | 1 | 黒褐色 | (10YR2/3) | 粘質シルト | 炭化物、褐色・黒褐色粘土の中ブロックを少量含む。しまり強い。粘性ややなし。 |
| | 2 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性ややなし。 |
| | 3 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性ややなし。 |
| P99 | 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| | 2 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| P209 | 1 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒、黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性なし。 |
| | 2 | 黒褐色 | (10YR2/3) | シルト質粘土 | 炭化物・焼土粒、褐色・黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性あり。 |
| | 3 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまり強い。粘性ややあり。 |
| | 4 | 暗褐色 | (10YR3/3) | シルト質粘土 | 炭化物、褐色・黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。湿粘性あり。 |
| | 5 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘土 | 褐色粘土の小ブロックを多量、炭化物・焼土粒、黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。 |

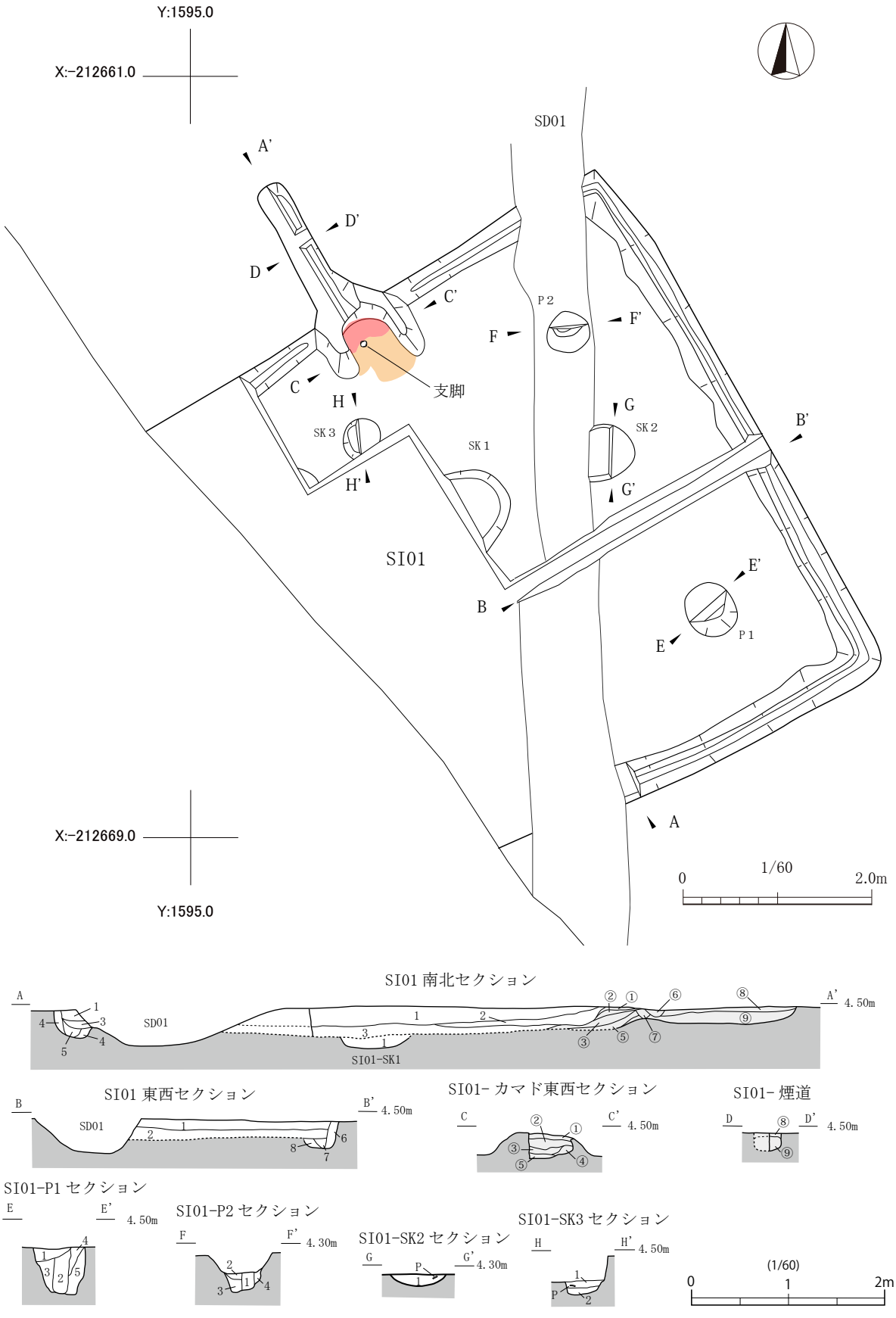
**第 16 図　SA01 柱列跡土層断面図**

### c．竪穴建物跡

【SI01】(第 17 図)

Ⅰ区西側に位置する。東半分とカマド部分で掘り下げを行っている。SD01 と重複関係にあり、これより古い。西側は調査区外へ広がるが、平面形状は方形とみられ、規模は東西が確認できた範囲で 5.48 m、南北は 6.18 m、確認面からの深さは 28 ㎝を測る。東壁で計測した主軸方向は、真北から 30° 西へ傾く。カマドは北壁中央につくられたとみられ、構築材にはにぶい黄褐色粘質シルトが用いられる。燃焼部の幅は 54 ㎝、奥行きは 74 ㎝であり、ほぼ中央から土製の支脚が確認されている。カマド内の壁面では強い被熱が認められ、燃焼部底面も赤変する。煙道部はカマド奥壁際から長さ 164 ㎝を測る長煙道であり、底面はほぼ平坦である。床面は黒褐色砂質シルトを用いた貼床であり、主柱穴が３口みられるほか、カマド前面では焼土をやや多く含む小ピットを確認している。また、建物中央付近の床面下には焼土を多量に含む床下土坑が２基存在していた。周溝はカマドを除くすべての壁際で確認されている。

遺物は第 18 図１・２の非ロクロ成形土師器坏、３の甕、４の須恵器高坏のほか、須恵器甕が出土している。１の坏は口縁部と体部との境に明瞭な段を有する。また３の甕はハケメの後、縦方向のヘラケズリが施される。４の高坏の脚部には１条の沈線が巡る。図示した遺物の年代観から、本遺構は６世紀末葉から７世紀前半頃の年代観が考えられる。


Y:1595.0
X:−212661.0
X:−212669.0
Y:1595.0
SD01
SI01
SK 1
SK 2
SK 3
P 1
P 2
支脚
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
1/60
0
2.0m
SI01 南北セクション
SI01-SK1
4.50m
SI01 東西セクション
4.50m
SI01- カマド東西セクション
4.50m
SI01- 煙道
4.50m
SI01-P1 セクション
4.50m
SI01-P2 セクション
4.30m
SI01-SK2 セクション
4.30m
SI01-SK3 セクション
4.50m
(1/60)
0
1
2m

第 17 図　SI01

SI01 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒をやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性なし。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 砂質シルト | 褐色粘土の第ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 砂質シルト | 炭化物・焼土を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 5 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 焼土粒を少量含む。褐色粘土の小・中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。粘性ややあり。 |
| 6 | 黄灰色 | (2.5Y4/1) | 粘質シルト | しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 7 | 暗灰黄色 | (2.5Y4/2) | 粘質シルト | 黒褐色粘質シルト粒をやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 8 | 暗灰黄色 | (2.5Y4/2) | 粘質シルト | 黒褐色粘質シルトの小・中ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

SI01 カマド土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒をやや少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ② | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘質シルト | 焼土粒を多量に含む。しまり強い。湿性ややあり。 |
| ③ | にぶい赤褐色 | (2.5YR4/4) | シルト質粘土 | 炭化物粒・焼土の中ブロックを多量に混入。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| ④ | にぶい赤褐色 | (2.5YR4/4) | 粘土 | 焼土の中・大ブロックを多量に含む。しまり強い。湿性・粘性ややあり。 |
| ⑤ | にぶい赤褐色 | (2.5YR4/4) | シルト質粘土 | 炭化物粒・焼土の大ブロックを多量に含む。しまり強い。 |
| ⑥ | 褐色 | (10YR4/4) | 粘質シルト | 焼土の小～中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| ⑦ | 褐灰色 | (10YR5/1) | 粘質シルト | 焼土・炭化物粒を少量含む。しまりやや強い。 |
| ⑧ | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘質シルト | 焼土・炭化物・黄褐色粘土の小・中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ⑨ | オリーブ褐色 | (2.5Y4/3) | 砂質シルト | 焼土・炭化物を少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

SI01-P1 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒褐色粘土の大ブロックを多量に含む。しまり強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物・褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| 3 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘土 | 黒褐色・褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまり強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 黒褐色・褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 5 | 褐色 | (10YR4/6) | 粘土 | 黒褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |

SI01-P2 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 黒褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 焼土粒を少量含む。黒褐色粘土粒を少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 黒褐色粘土粒を少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

SI01-SK1 土層注記

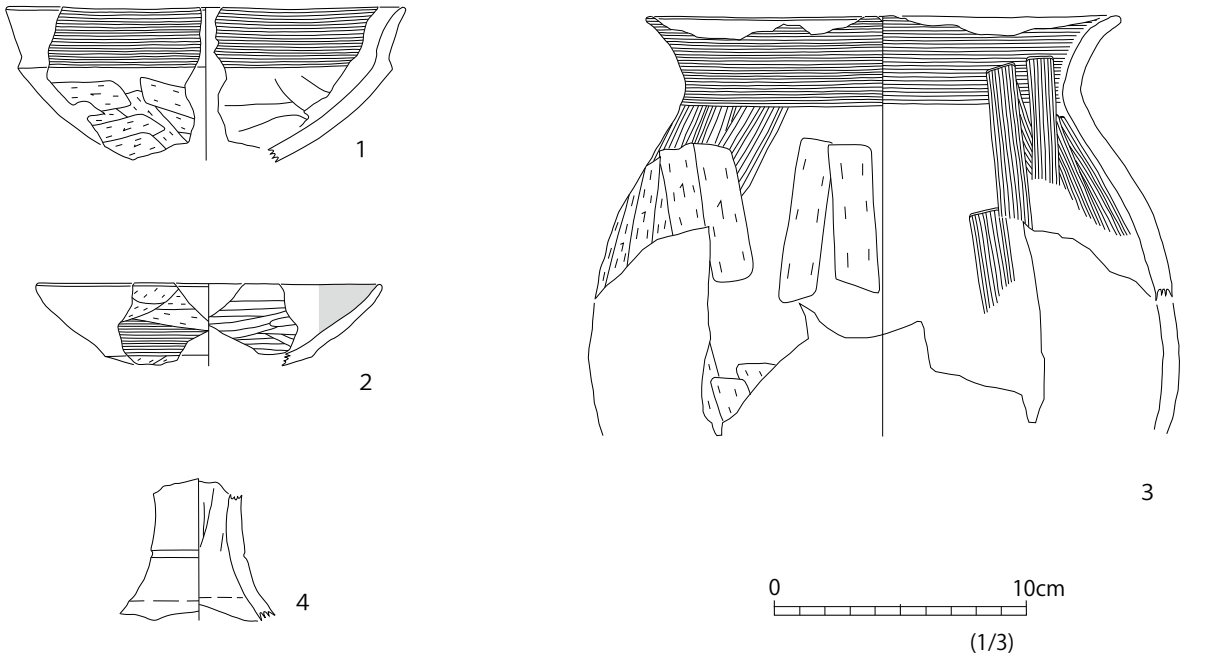
| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 焼土粒・小ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |

SI01-SK2 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (5YR2/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を多量に含む。褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。 |

SI01-SK3 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗赤褐色 | (2.5YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |



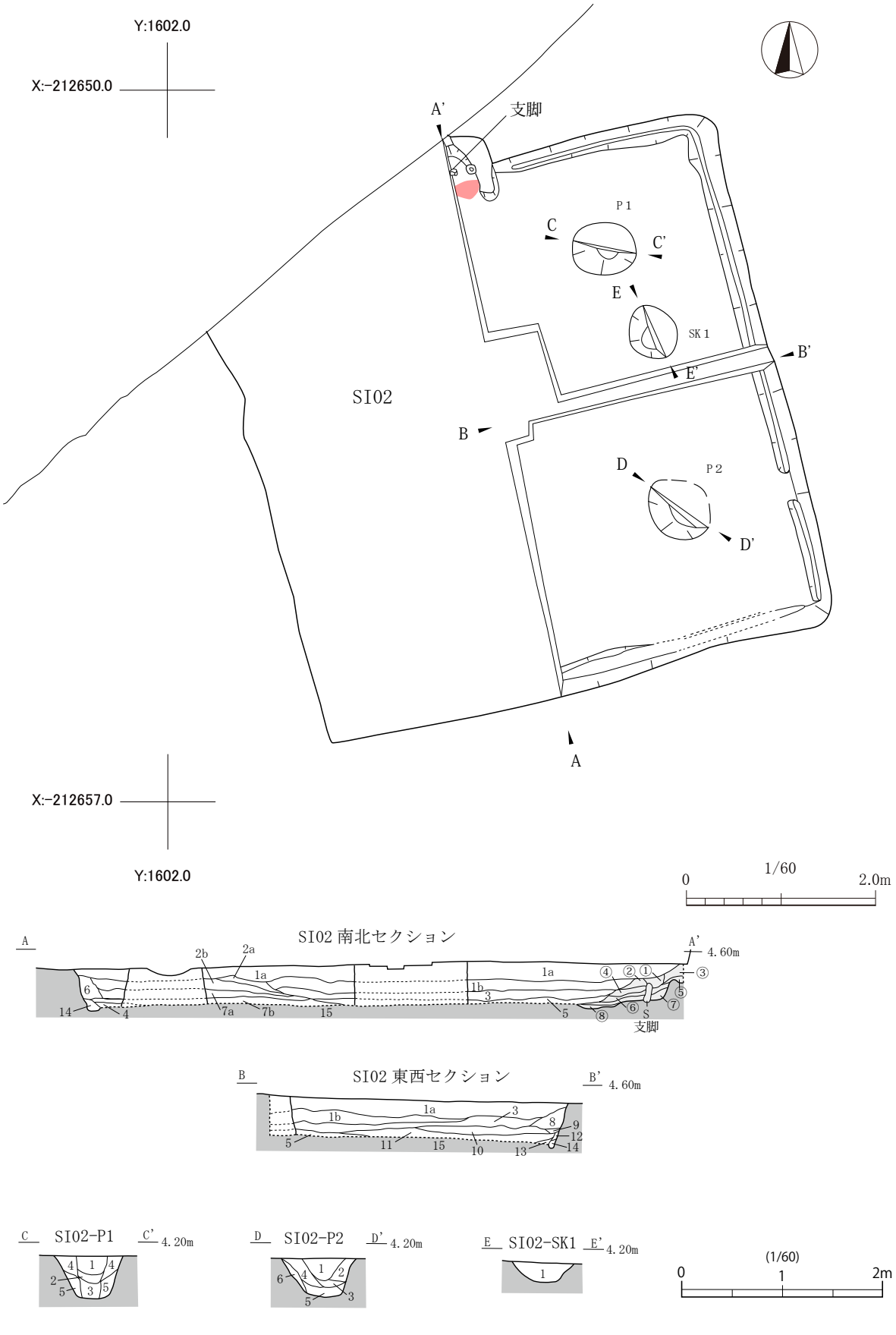

| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 南側・床直 | 土師器 | 坏 | 有段、ヨコナデ－ヘラケズリ | ヨコナデ－ナデ | 口縁～体部破片 | (15.8) | － | (6.1) | |
| 2 | 北側・床直 | 土師器 | 坏 | 有段、ヘラケズリ－ヨコナデ | ヘラミガキ・内黒 | 口縁～体部破片 | (13.7) | － | (3.2) | |
| 3 | カマド付近・床直 | 土師器 | 壺 | ヨコナデ－ハケメ・ヘラケズリ | ヨコナデ－ヘラナデ | 全体の1/6 | (18.6) | － | (16.6) | |
| 4 | 南側・床直 | 須恵器 | 高坏 | ロクロナデ・沈線 | ロクロナデ・ナデ | 頸部破片 | － | － | － | |

**第 18 図　SI01 出土遺物**

【SI02】（第 19 図）

Ⅰ区中央部北側に位置する。東半分で掘り下げを行っている。SD02、小溝状遺構群と重複関係にあり、小溝状遺構群より新しく、SD02 より古い。北側の一部は調査区外へ広がるが、平面形状は方形とみられ、規模は東西が 5.53 m、南北は 5.55 m、確認面からの深さは 42 ㎝を測る。東壁で計測した主軸方向は、真北から 14° 西へ傾く。カマドは北壁中央につくられ、北壁を若干掘り窪めて構築している。カマドの構築材にはにぶい黄褐色粘質シルトが用いられる。燃焼部のほぼ中央とみられる位置では土製の支脚が確認されている。カマド内の壁面では強い被熱が認められ、燃焼部底面も赤変する。煙道部は調査区外へ延びるために、規模・形状は不明である。なお、カマド前面の床面付近からは非ロクロ成形の土師器椀・甑・甕がまとまって出土している。床面は黒褐色粘質シルトを用いた貼床であり、主柱穴が２口みられるほか、小ピットを１口確認している。また、周溝はカマドを除くすべての壁際で確認されている。

遺物は第 20 図１の非ロクロ成形土師器椀、２～４の甕、５の甑、６の須恵器蓋、７・８の石製模造品が出土している。このうち７・８・11 については本遺構に直接伴うものではない。１の椀は内面に黒色処理がされていない。３の甕では頸部に段がみられ、最大径を胴部下半で測るものである。４の甕は縦方向のケズリの後、ヨコナデを行い、さらに縦方向のハケメが施される。５の甑は外面はナデ、内面では横方向のミガキが施される。図示した遺物の年代観から、本遺構は６世紀末葉から７世紀前半頃の年代観が考えられるが、隣接する SI04 との関係から６世紀末葉頃の可能性がある。


Y:1602.0
X:-212650.0
A'
支脚
P1
C
C'
E
SK1
B'
E'
SI02
B
D
P2
D'
A
X:-212657.0
Y:1602.0
1/60
0
2.0m
SI02 南北セクション
A
A'
4.60m
SI02 東西セクション
B
B'
4.60m
C
SI02-P1
C'
4.20m
D
SI02-P2
D'
4.20m
E
SI02-SK1
E'
4.20m
(1/60)
0
1
2m

第 19 図　SI02

SI02 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1a | 黒褐色 | (10YR3/2) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。にぶい黄褐色シルトの小ブロックをやや多量に含む。しまり強い。 |
| 1b | 黒色 | (10YR3/2) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒をやや少含む。にぶい黄褐色シルトの小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。 |
| 2a | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土を少量含む。にぶい黄褐色シルト粒・小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。 |
| 2b | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。にぶい黄褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや弱い。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR2/2) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。にぶい黄褐色粘土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物を少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 5 | 黒褐色 | (2.5Y3/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土をやや多量に含む。湿性・粘性ややあり。 |
| 6 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 砂質シルト | 黒褐色粘土を少量含む。しまりやや強い。 |
| 7a | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 焼土粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 7b | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 焼土・炭化物粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| 8 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 砂質シルト | 灰黄褐色砂質シルト粒を多量に含む。しまりややあり。 |
| 9 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘土 | 灰黄褐色砂質シルト粒を少量に含む。しまりややなし。湿性・粘性あり。 |
| 10 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | にぶい黄褐色粘土小ブロックを多量に含む。しまりややなし。湿性・粘性ややあり。 |
| 11 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 黒色・にぶい黄褐色粘土・褐色砂質シルト粒・小ブロックを多量に混入。しまりややなし。 |
| 12 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘土 | しまりややなし。湿性・粘性ややあり。 |
| 13 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりややあり。湿性・粘性ややあり。 |
| 14 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘土 | 褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりややなし。湿性・粘性ややあり。 |
| 15 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘土 | 貼床。炭化物・焼土をやや多量に含む。黒色粘土の小～中ブロックを多量に含む。しまりややあり。 |

SI02 カマド土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ② | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒・にぶい黄褐色シルト粒をやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ③ | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒・にぶい黄褐色シルト粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。煙道。 |
| ④ | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土の小ブロックを含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| ⑤ | 黒褐色 | (10YR2/2) | 粘質シルト | しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。煙道。 |
| ⑥ | 黒褐色 | (5YR2/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土の小～中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| ⑦ | 黒褐色 | (5YR2/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土の小～大ブロックを多量に含む。しまり弱い。湿性・粘性あり。 |
| ⑧ | 褐色 | (10YR4/4) | 粘質シルト | 黒色粘土小ブロックを含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。灰原。 |

SI02-P1 土層注記

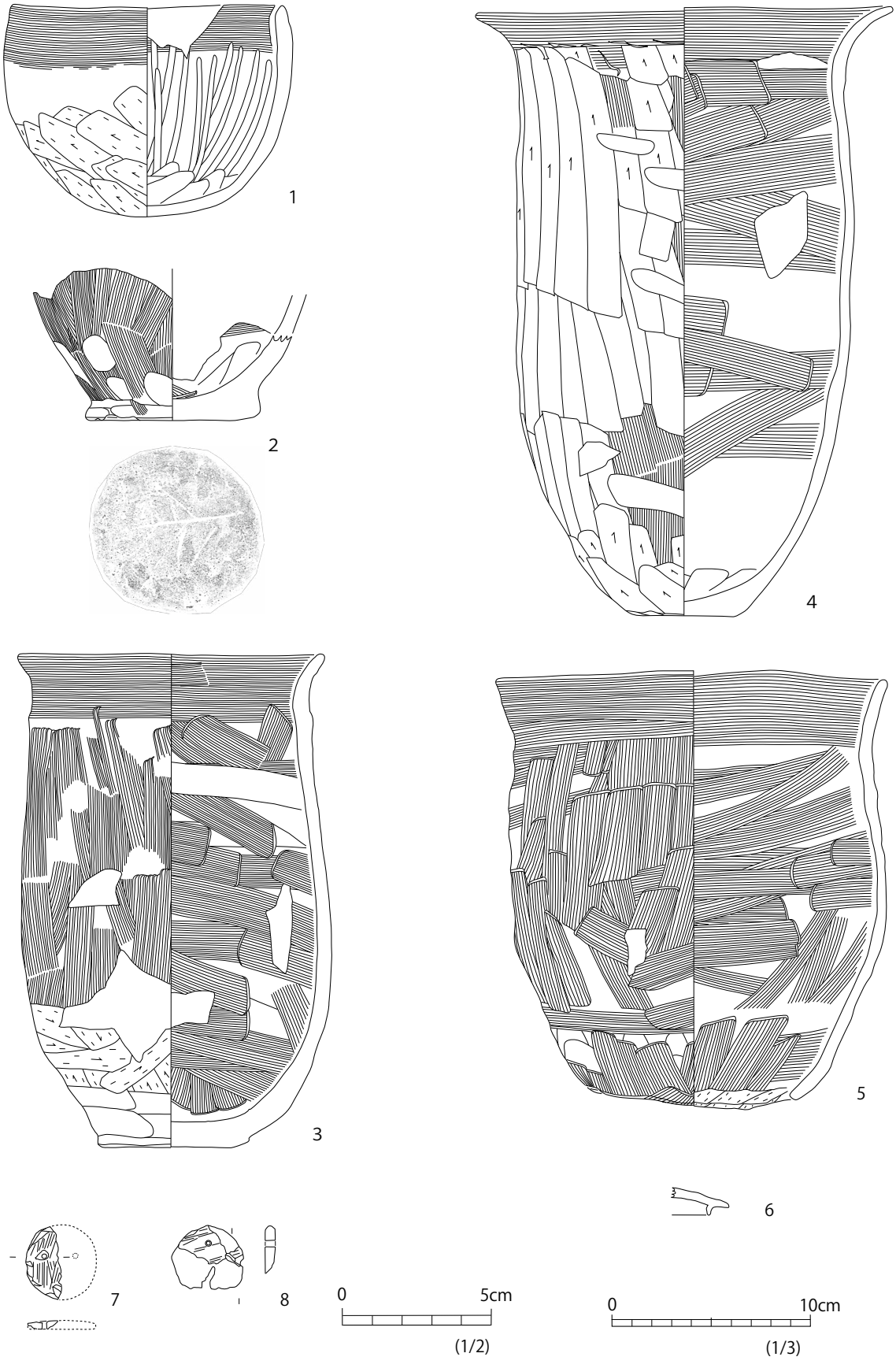
| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (7.5YR3/2) | シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 2 | 黒褐色 | (7.5YR2/2) | シルト | 炭化物・黄褐色粘土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR2/2) | シルト | 褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物粒を少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 5 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あ。 |

SI02-P2 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (7.5YR3/2) | シルト | 炭化物・にぶい黄褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや強い。 |
| 2 | 暗褐色 | (7.5YR3/4) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト | 焼土粒を少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色 | (7.5YR3/2) | シルト | にぶい黄褐色粘土粒をやや少量含む。しまりやや弱い。 |
| 5 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 6 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘質シルト | 黒褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |

SI02-SK1 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性あり。 |



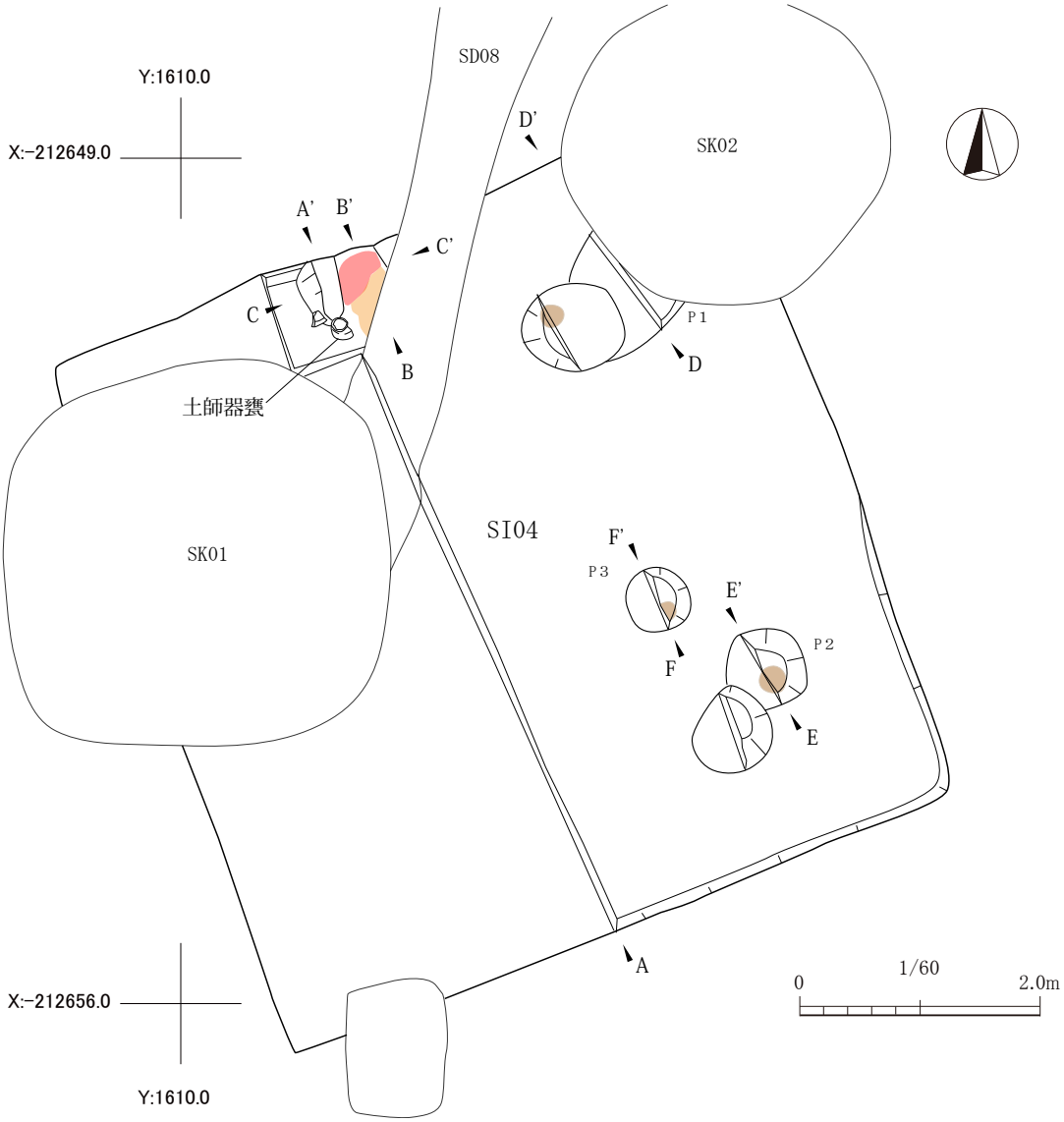

第 20 図　SI02 出土遺物

| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　　面 | 内　　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 北側北壁・床直 | 土師器 | 椀 | ヨコナデ－ヘラケズリ | ヨコナデ－ヘラミガキ－ナデ | 一部のみ欠損 | 13.5 | － | 10.7 | 7-2 |
| 2 | カマド付近・床直 | 土師器 | 小型甕 | ハケメ－ナデ | ヘラナデ・ナデ | 底部破片 | － | 8.7 | － | |
| 3 | カマド炊口 | 土師器 | 中型甕 | ヨコナデ－ハケメ－ヘラケズリ | ヨコナデ－ヘラナデ・ナデ | 一部のみ欠損 | 15.4 | 7.5 | 24.8 | 7-4 |
| 4 | カマド炊口前 | 土師器 | 大型甕 | ヨコナデ－ヘラケズリ－ハケメ | ヨコナデ－ヘラナデ－ナデ | 完形 | 20.9 | 5.2 | 30.4 | 7-3 |
| 5 | 北側北壁・床直 | 土師器 | 甑 | ヨコナデ－ヘラナデ・ナデ | ヨコナデ－ヘラナデ－ヘラケズリ | 全体1/2 | (19.1) | (10.1) | 21.8 | |
| 6 | 北側・堆積土 | 須恵器 | 蓋 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口縁部破片 | (14.9) | － | － | |
| 7 | 北側・堆積土 | 石製模造品 | 鏡形？ | 両面に擦痕。厚さ3㎜、穿孔径2㎜。石質滑石。 | | 全体1/3 | | | | |
| 8 | 北側・堆積土 | 石製模造品 | 剣形？ | 両面に擦痕、表面の剥離が著しい。厚さ3.5㎜、穿孔径2㎜。石質滑石。 | | 全体1/2 | | | | |

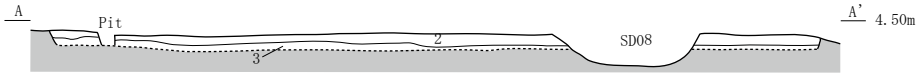
【SI04】（第 21 図）

Ⅰ区中央部北寄りに位置する。東半分で掘り下げを行っている。SB01、SK01・02、SD08 と重複関係にあり、いずれよりも古い。平面形状は方形とみられ、規模は東西が 5.92 m、南北は 6.12 m、確認面からの深さは 18 ㎝を測る。西壁で計測した主軸方向は、真北から 19° 西へ傾く。カマドは北壁中央から西寄りにつくられているが、SD08 により右袖の大部分を失う。カマドの構築材にはにぶい黄褐色粘質シルトが用いられているが、左袖の先端には非ロクロ成形の土師器甕を逆位に設置してオサエとしている。カマド内の壁面では強い被熱が認められ、燃焼部底面も赤変する。煙道部は確認されていない。床面は黒褐色粘質シルトを用いた貼床であり、主柱穴を２口確認しているが、ほかに柱穴が２口みられたことから建て替えが行われている可能性がある。また、このほかに小ピットを１口確認した。なお、周溝はみとめられなかった。

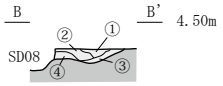
遺物は第 22 図１に図示した土師器甕のほか、土師器坏、須恵器坏･蓋･甕がごく少量出土している。１はカマド袖のオサエとして使用されていたもので、口縁部は短く、やや強く外反する。胴部には縦方向のヘラケズリが施される。図示した遺物の年代観から、本遺構は６世紀末葉から７世紀前半頃の年代観が考えられるが、隣接する SI02 との関係から７世紀前半の可能性がある。



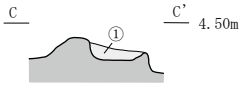

SI04 東西セクション



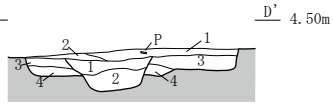

SI04- カマド南北セクション



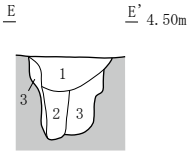

SI04- カマド東西セクション



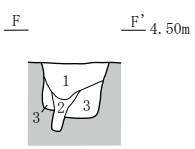

SI04-P1

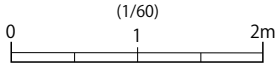



SI04-P2




SI04-P3




第 21 図　SI04

SI04 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量に含む。しまりやや弱い。粘性ややなし。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 焼土粒を微量含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。粘性あり。 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |

SI04 カマド土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 暗赤褐色 | (5YR3/2) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややなし。 |
| ② | 黒褐色 | (7.5YR3/1) | 砂質シルト | 焼土粒・小ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややなし。 |
| ③ | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土粒をやや少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ④ | 暗赤褐色 | (5YR3/2) | 砂質シルト | 焼土粒・小ブロックをやや多量に含む。しまり弱い。湿性・粘性ややあり。 |

SI04-P1 土層注記

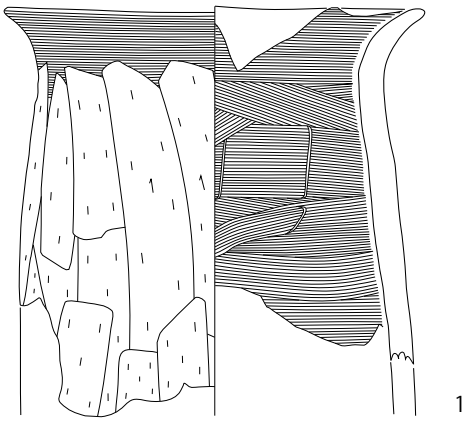
| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土粒・小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 焼土・炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。 |

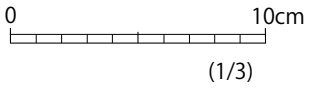
SI04-P2 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | シルト | 炭化物・焼土粒をやや多量に含む。褐色粘土粒を微量含む。しまりやや弱い。粘性なし |
| 2 | 黒褐色 | (10YR2/3) | シルト | 褐色粘土粒をやや多く含む。しまり弱い。粘性やや強い。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。黒色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性あり。 |

SI01- 床面 Pit1 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 褐色・黒色粘土の小ブロックを少量含む。しまり弱い。粘性ややあり。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR2/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。黒褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまり強い。粘性あり。 |

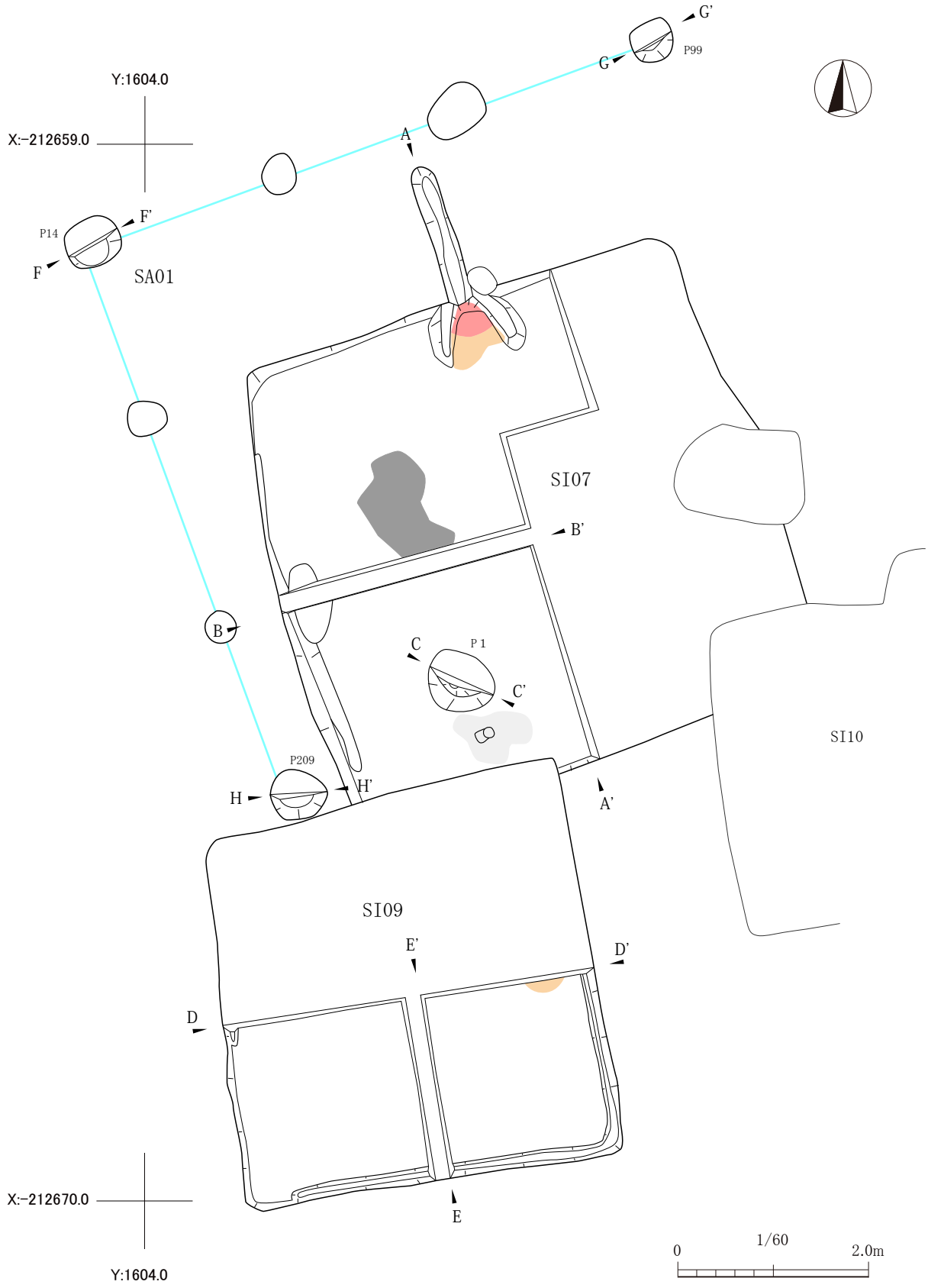


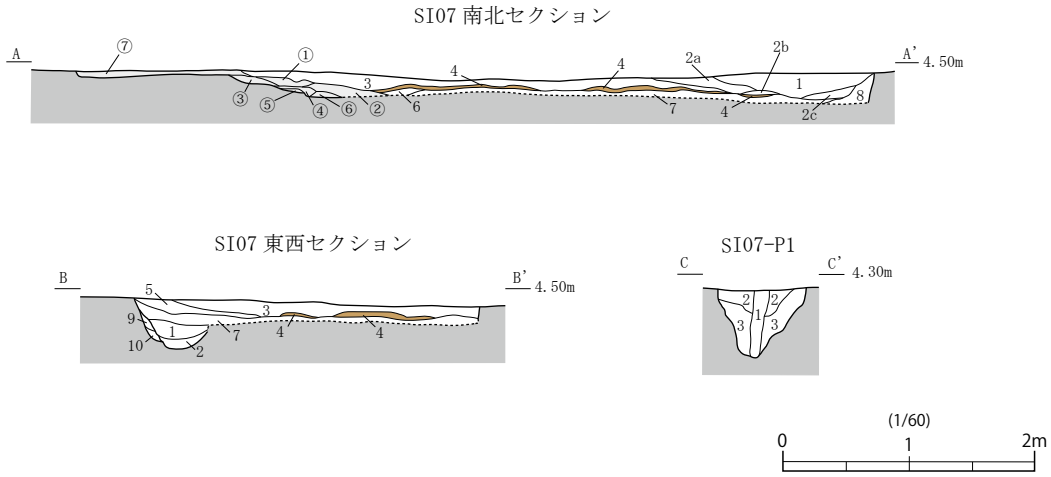

(1/3)

| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　　面 | 内　　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | カマド右袖 | 土師器 | 甕 | ヨコナデ→ヘラケズリ | ヨコナデ→ヘラナデ | 全体1/3 | 16.3 | — | — | |

**第 22 図　SI04 出土遺物**


Y:1604.0
X:-212659.0
G'
G
P99
A
F'
P14
F
SA01
SI07
B'
B
C
P1
C'
SI10
P209
H
H'
A'
SI09
E'
D'
D
E
X:-212670.0
Y:1604.0
0
1/60
2.0m

第 23 図　SI07（１）




SI07 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土の小～大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。 |
| 2a | 褐灰色 | (10YR4/1) | 砂質シルト | 炭化物粒を多量に含む。褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまり強い。 |
| 2b | 褐灰色 | (10YR4/1) | 砂質シルト | 褐色・にぶい黄褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。湿性ややあり。 |
| 2c | 褐灰色 | (10YR3/1) | 砂質シルト | 炭化物・にぶい黄色褐色粘土粒を少量含む。しまりやや強い。湿性ややあり。 |
| 3 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 砂質シルト | 炭化物を少量含む。褐色・黄褐色粘土の小～大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。 |
| 4 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 砂質シルト | 炭化物・炭化材を大量に含む。焼土の小ブロックを少量含む。しまり弱い。 |
| 5 | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 砂質シルト | 焼土粒を少量含む。褐色・黒色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。 |
| 6 | 褐灰色 | (10YR5/1) | 細砂 | 酸化鉄分を少量含む。しまり弱い。 |
| 7 | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 砂質シルト | 焼土粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 8 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 焼土・炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 9 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 10 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土粒を少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

SI07 カマド土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 褐灰色 | (10YR4/1) | 砂質シルト | 焼土の小～大ブロック、褐色粘土の大ブロックを多量に含む。炭化物粒をやや多量に含む。 |
| ② | 褐灰色 | (10YR4/1) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒・にぶい黄褐色粘土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ③ | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 焼土の小～中ブロックを多量に含む。にぶい黄褐色粘土粒を少量含む。しまりやや弱い。 |
| ④ | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 焼土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ⑤ | にぶい黄褐色 | (10YR5/3) | 粘質シルト | 焼土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ⑥ | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘質シルト | 焼土粒・褐色粘土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ⑦ | 黒色 | (7.5YR2/1) | 粘質シルト | 焼土・炭化物粒を多量に含む。しまり弱い。湿性・粘性ややあり。 |

SI07-P1 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘質シルト | 炭化物粒・褐色粘土の小～中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物粒を少量に含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 3 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 炭化物粒を少量含む。黒褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |

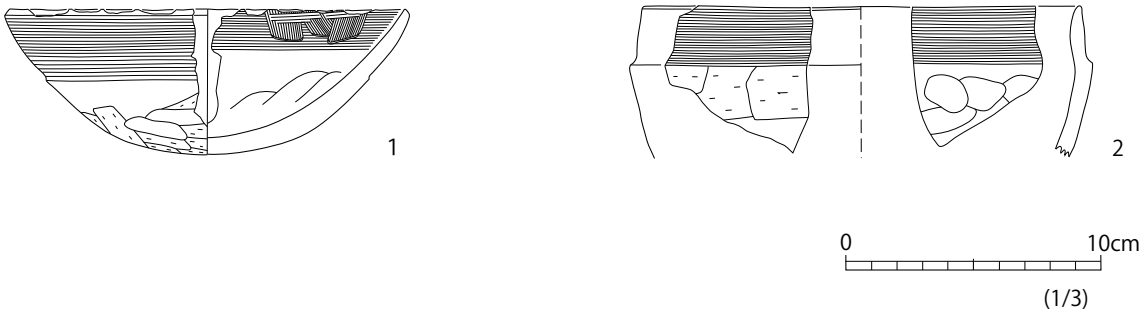
SI07-SK1 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒色 | (10YR1.7/1) | 粘質シルト | 炭化物粒を少量含む。褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の大ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

**第 24 図　SI07（２）**

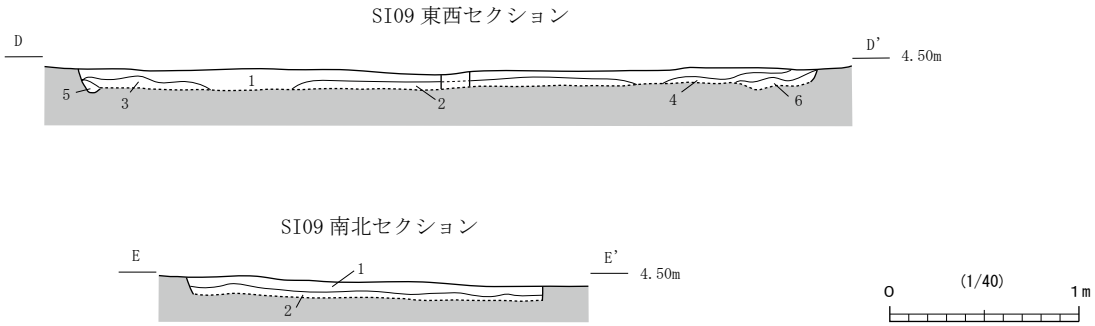
【SI07】（第 23・24 図）

Ⅰ区中央部に位置する。西半分とカマド部分で掘り下げを行っている。SB01、SI09・10、小溝状遺構群と重複関係にあり、小溝状遺構群より新しく、SB01、SI09･10 より古い。平面形状は方形であり、規模は東西が 5.25 m、南北は 5.05 m、確認面からの深さは 18 ㎝を測る。カマド中軸線で計測した主軸方向は、真北から 15° 西へ傾く。カマドは北壁につくられ、カマドの構築材にはにぶい黄褐色砂質シルトが用いられている。燃焼部の幅は 61 ㎝、奥行きは 61 ㎝である。カマド内の壁面では強い




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　　面 | 内　　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 南側・堆積土 | 土師器 | 坏 | ヨコナデ－ヘラケズリ | ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ－ナデ | 全体の1/5 | (15.9) | － | 5.7 | |
| 2 | 南側・堆積土 | 土師器 | 鉢 | ヨコナデ－ヘラケズリ | ヨコナデ－ナデ | 口縁破片 | (17.2) | － | － | |

**第 25 図　SI07 出土遺物**




SI09 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量に含む。しまりやや弱い。粘性ややなし。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR2/2) | 粘質シルト | 焼土粒を微量含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。粘性あり。 |
| 4 | 暗赤褐色 | (2.5YR3/6) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 5 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘土 | しまりやや弱い。粘性・湿性ややあり。 |
| 6 | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘質シルト | 炭化物を少量に含む。黒褐色粘土の小ブロックを多く含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

**第 26 図　SI09 土層断面図**

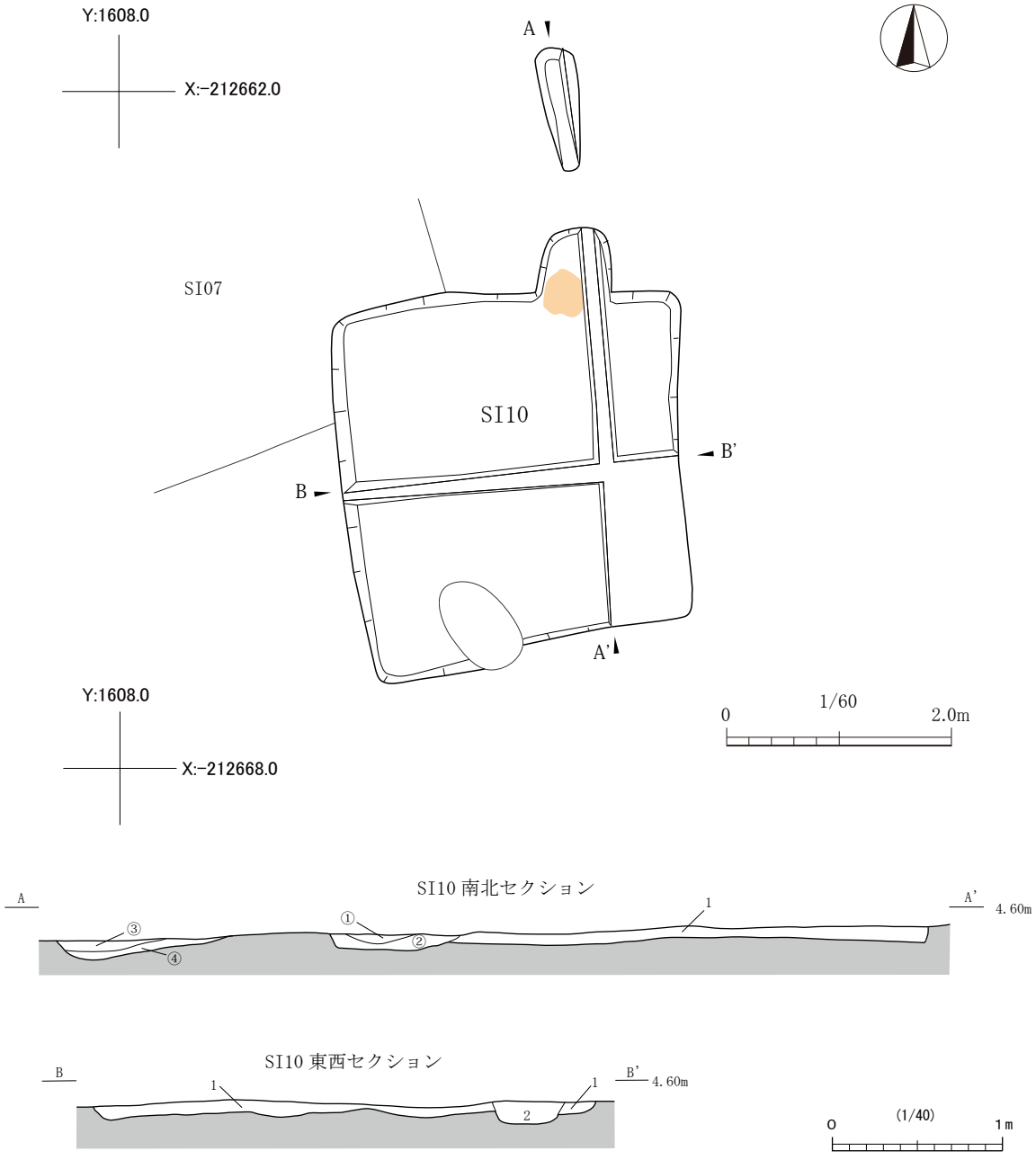
被熱が認められ､燃焼部底面も赤変する。煙道部はカマド奥壁際から長さ 148 ㎝を測る長煙道であり、底面は先端部に向かって弱く傾斜する。床面は灰黄褐色砂質シルトを用いた貼床であり、主柱穴を１口確認している。周溝は西壁の一部でのみ認められている。このほかに建物中央から南西部にかけてでは、床面のやや上位に葦状の植物が炭化した状態でみられており、一部では縦方向と横方向が交差して編まれているようにも見受けられた。また、南壁際の中央付近では白色粘土が長さ 75 ㎝、幅 45 ㎝の範囲で塊状に存在していた。

遺物は第 25 図１の非ロクロ成形土師器坏、２の鉢のほか、土師器甕がごく少量出土している。１の内面は磨滅が著しいため黒色処理は明確に確認できないが、口縁部の一部にミガキの痕跡がみられることから剥落している可能性がある。外面では体部下半から底部にかけてヘラケズリが施される。２の鉢は口縁部と体部との境に強い段を有している。黒色処理は施されていない。図示した遺物の年代観から、本遺構は６世紀末葉から７世紀前半頃の年代観が考えられる。

【SI09】（第 23・26 図）

Ⅰ区中央部南寄りに位置する。南半分で掘り下げを行っている。SI07 と重複関係にあり、これより新しい。平面形状は方形とみられ、規模は東西が 3.85 m、南北は 3.95 m、確認面からの深さは 15 ㎝を測る。西壁で計測した主軸方向は、真北から８° 西へ傾く。カマドは建物廃絶時に意図して破壊されたようで、構築材なども明確には認められていないが、東壁中央付近の床面が若干赤変しており、焼土粒や炭化物も広がっていたことから、この部分に設置されていたとみられる。煙道部は確認されていない。床面は基本層第Ⅶ層を利用しており、貼床はみられない。また、主柱穴は確認されていないが、周溝は南西隅を除いた箇所で認められている。

遺物はロクロ成形土師器坏・甕がごく少量出土しいるが、いずれも小片のため図示できなかった。しかしながら、ロクロ成形土師器の出土により、８世紀末葉以降の年代観が考えられる。



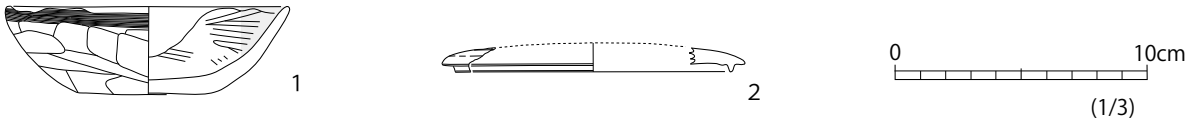

第 27 図　SI10

SI10 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。粘性ややあり。貼床土。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | シルト | 黒色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。粘性やや強い。 |

SI10 カマド土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 褐色 | (10YR4/4) | 砂質シルト | 焼土粒を多量に含む。炭化物を少量含む。しまり弱い。粘性ややなし。 |
| ② | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を微量に含む。しまりやや強い。粘性ややなし。 |
| ③ | 暗褐色 | (10YR3/3) | シルト | 炭化物を極微量に含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。煙道部。 |
| ④ | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物をやや多量に含む。焼土粒を極微量に含む。しまりやや弱い。粘性やや強い。煙道部。 |




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 南側・堆積土 | 土師器 | 坏 | ヨコナデ－ナデ | ヘラミガキ・黒色処理 | 全体の2/3 | 11.2 | 5.6 | 3.5 | 7-5 |
| 2 | 南側・堆積土 | 須恵器 | 蓋 | ロクロナデ・手持ちヘラケズリ | ロクロナデ | 口縁破片 | (11.8) | － | － | |

**第 28 図　SI10 出土遺物**

【SI10】(第 27 図)

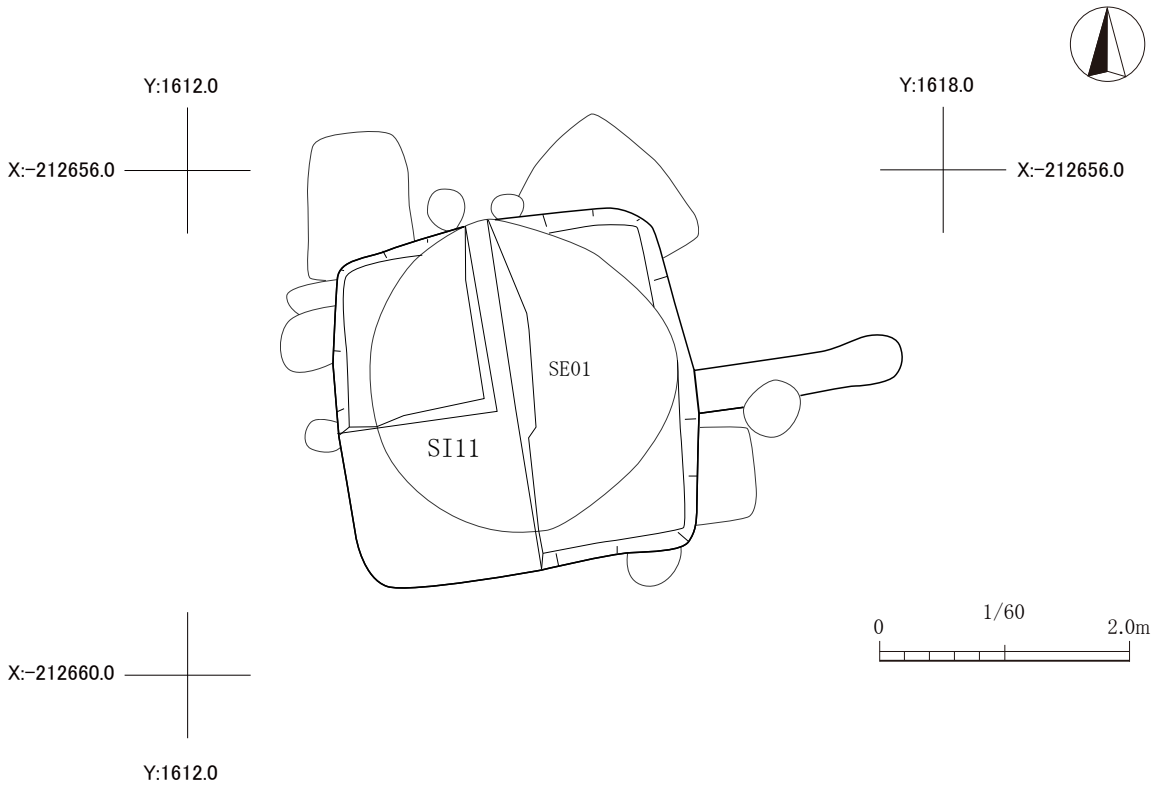
Ⅰ区中央部南寄りに位置する。南東部を除いた箇所で掘り下げを行っている。SB01、SI07 と重複関係にあり、これらより新しい。平面形状は方形とみられ、規模は東西が 3.00 m、南北は 3.08 m、確認面からの深さは 12 ㎝を測る。カマド中軸線で計測した主軸方向は、真北から６° 西へ傾く。カマドは北壁東寄りで、壁面を幅66㎝、奥行き57㎝をＵ字状にやや大きく掘り込んでつくられているが、建物廃絶時に意図して破壊されたようで、構築材は明確には認められていない。煙道部の一部は失われているが、燃焼部奥壁から 160 ㎝の長さでつくられ、底面は先端部に向かってやや強く傾斜していたとみられる。床面は黒褐色粘質シルトを用いた貼床である。主柱穴、及び周溝は確認されていない。

遺物は第 28 図に図示した１のロクロ成形土師器坏、２の須恵器蓋のほか、非ロクロ成形土師器甕が出土している。このうち２は混入とみられ、遺構に伴うものではない。１の坏は底部からやや内弯気味に立ち上がる。図示した遺物の年代観から、本遺構は９世紀前半頃の年代観が考えられる。

【SI11】(第 29・42 図)

Ⅰ区中央部東寄りに位置する。南西部を除いた箇所で掘り下げを行っている。SB01、SE01 と重複関係にあり、SB01 よりは新しく、SE01 より古い。平面形状は隅丸方形であり、規模は東西が 2.82 m、南北は 2.84 m、確認面からの深さは 32 ㎝を測る。西壁で計測した主軸方向は、真北から７° 西へ傾く。カマドは煙道部の存在から東壁中央につくられているが、後述する SE01 によりカマド本体はほぼ完全に失われており、構築材や燃焼部の規模については不明である。煙道部は燃焼部奥壁から 163 ㎝の長さでつくられ、底面は先端部に向かってやや弱く傾斜していた。床面は黒褐色粘質シルトを用いた貼床であるが、SE01 が本遺構と完全に重複していることから主柱穴、及び周溝の有無については不明である。

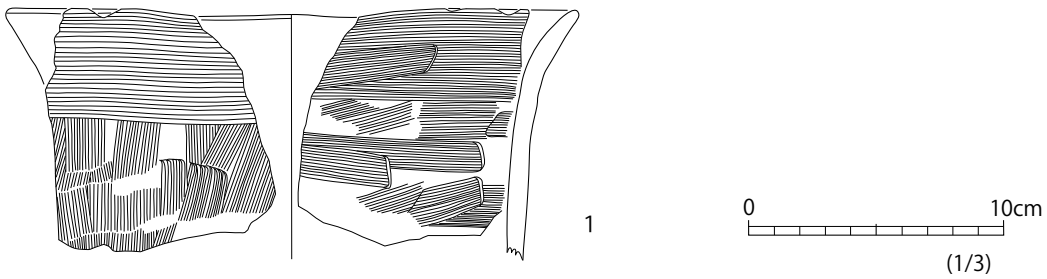
遺物は第 30 図１に図示したロクロ成形土師器坏が煙道部より出土している。１の坏は口径・底径ともやや大きく、底部から内弯気味に立ち上がる。図示した遺物の年代観から、本遺構は８世紀末葉




第 29 図　SI11

| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 東側・カマド煙道 | 土師器 | 坏 | ロクロナデ－回転ヘラケズリ－回転糸切り離し後ナデ | 黒色処理・ヘラミガキ | 全体1/7 | (15.1) | (8.8) | 3.9 | |

第 30 図　SI11 出土遺物




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 北東側・床直 | 土師器 | 甑 | ヨコナデ－ハケメ | ヨコナデ－ヘラナデ | 口縁～体部破片 | (22.4) | － | － | |

第 31 図　SI13 出土遺物

～９世紀初頭頃の年代観が考えられる。

【SI12】（第６図）

Ｉ区東部南寄りに位置する。本遺構はごく薄く残存していた床面と、掘方のみの確認である。SB01、SI13 と重複関係にあり、SB01 より古く、SI13 より新しい。平面形状は方形であり、確認した範囲での規模は東西が 4.22 ｍ、南北は 4.20 ｍを測る。建物跡の西側貼床ラインで計測した主軸方向は、真北から 13° 西へ傾く。カマドも構築材などは明確には認められていないが、東壁中央付近の床面が若干赤変していたことから、この部分に設置されていたとみられる。煙道部は確認されていない。残存していた床面は黒褐色粘質シルトを用いた貼床であり、主柱穴を２口と小ピットを３口確認している。なお、周溝は認められなかった。

遺物は床面より非ロクロ成形の土師器甕とロクロ成形の土師器坏がごく少量出土しているが、小片のため図示できなかった。

【SI13】（第６図）

Ｉ区東部南寄りに位置する。本遺構も SI12 同様にごく薄く残存していた床面と、掘方のみの確認であるが、東側については掘方痕跡も認められていない。SB01、SI13 と重複関係にあり、両者より古い。平面形状は方形とみられ、確認した範囲での規模は東西が 1.10 ｍ、南北は 2.62 ｍを測る。建物跡の西側貼床ラインで計測した主軸方向は、真北から 19° 西へ傾く。カマドは確認されていない。残存していた床面は黒褐色粘質シルトを用いた貼床であるが、主柱穴や周溝は認められなかった。

遺物は第 31 図１に図示した非ロクロ成形土師器甕のみが床面より出土している。図示した遺物の年代観から、本遺構は６世紀末葉から７世紀前半頃の年代観が考えられる。

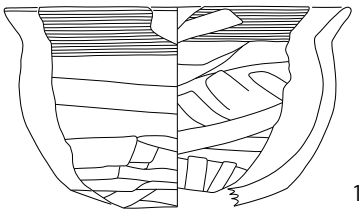
【SI14】（第６図）

Ｉ区東部南寄りに位置する。P139 と重複関係にあり、これより古い。本遺構の大部分は調査区東側へ広がることから、全体の形状・規模については不明である。確認した範囲での南北の規模は 3.42 ｍ、確認面からの深さ 15 ㎝を測る。西壁で計測した主軸方向は、真北から 22° 西へ傾く。カマドは確認されていない。床面は基本層第Ⅶ層を用いている。主柱穴や周溝は認められなかった。

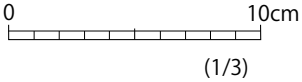
遺物は非ロクロ成形の土師器甕がごく少量出土しているが、小片のため図示できなかった。

【SI15】（第６図）

Ｉ区南側中央に位置する。本遺構の大部分は調査区南側へ広がることから、全体の形状・規模については不明である。確認した範囲での東西の規模は 3.96 ｍ、確認面からの深さは 12 ㎝を測る。西壁で計測した主軸方向は、真北から 30° 西へ傾く。カマドは確認されていない。床面は黒褐色粘質シ



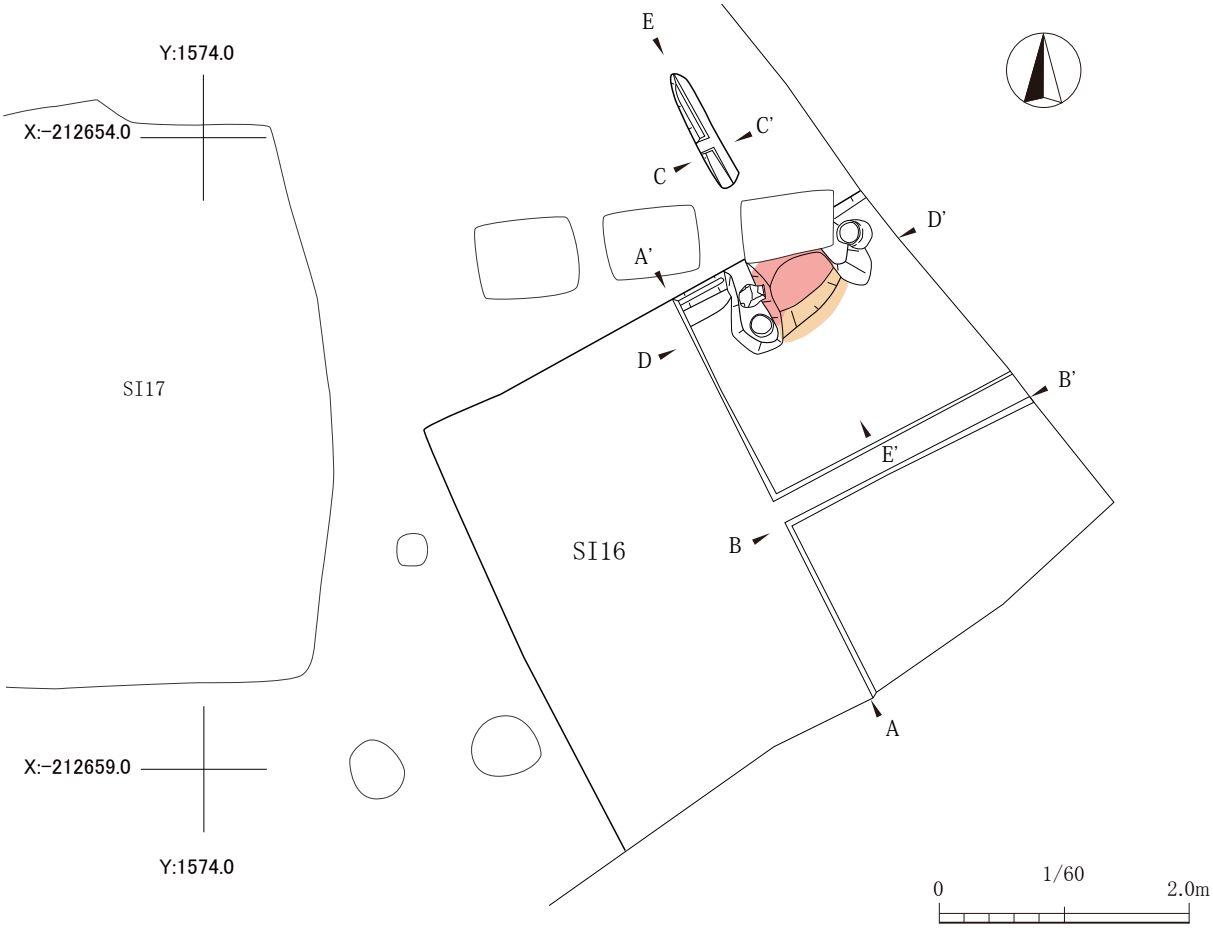
1

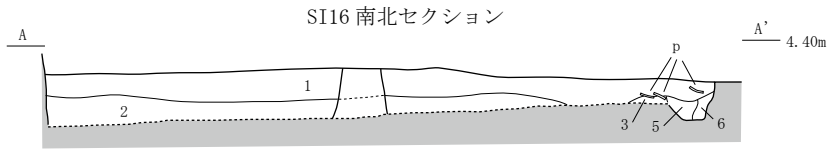


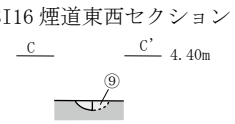

(1/3)

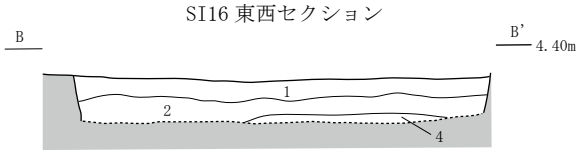
| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 北側・床直 | 土師器 | 椀 | ヨコナデ→ヘラナデ　丸底 | ヨコナデ→ヘラナデ | 全体1/7 | (13.7) | — | 7.9 | 7-6 |

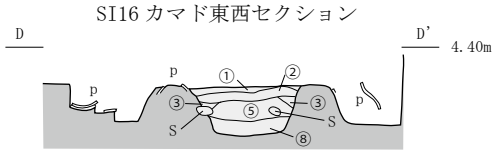
**第 32 図　SI15 出土遺物**

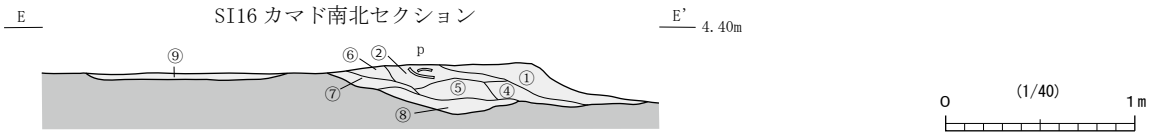


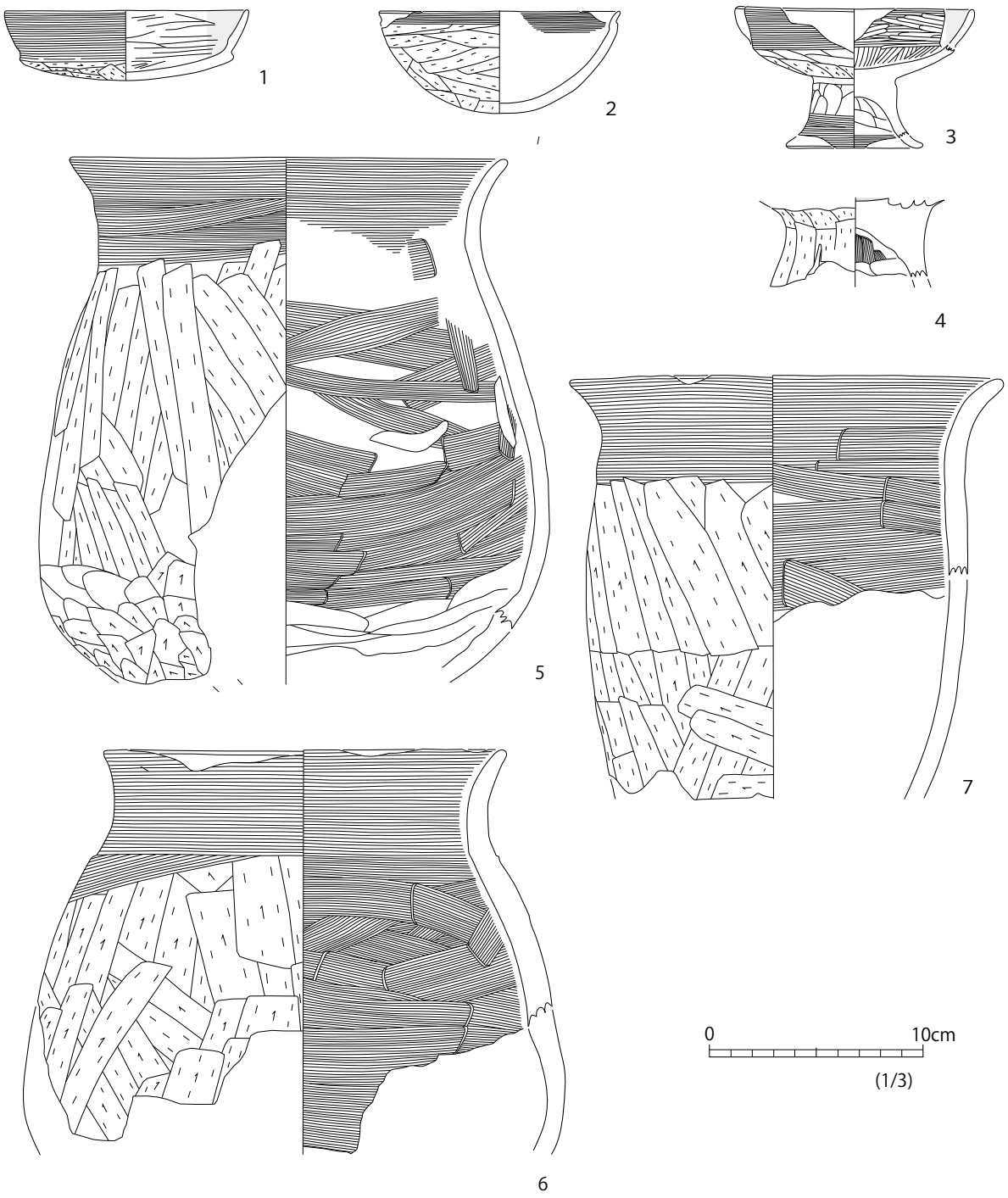

SI16 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒をやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を多量に含む。褐色粘質シルト粒をやや多量に含む。しまりやや強い。 |
| 3 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりややあり。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘土 | 炭化物・焼土をやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 5 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 褐色粘土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 6 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土粒を少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

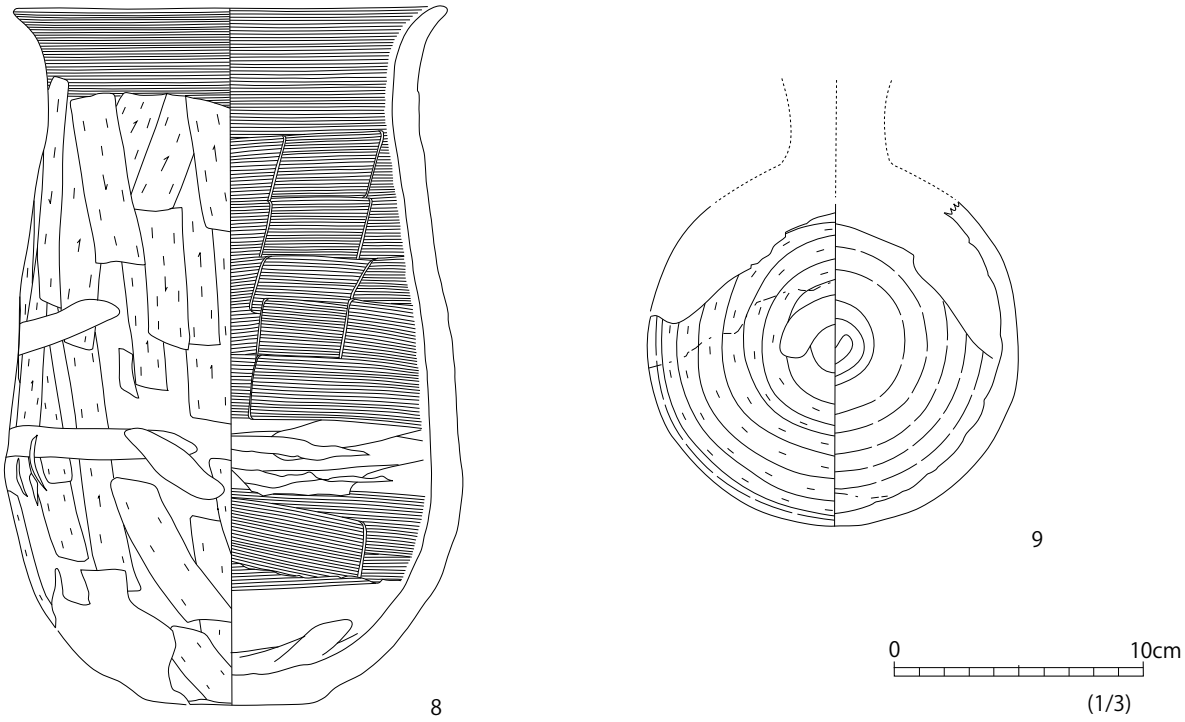
**第 33 図　SI16**

SI16 カマド土層注記

| 層№ | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒、褐色砂質シルトの中ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。 |
| ② | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒、褐色砂質シルトの中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性ややあり。 |
| ③ | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘質シルト | 焼土粒を多量に含む。炭化物をやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性ややあり。 |
| ④ | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘質シルト | 焼土・炭化物小ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性ややあり。 |
| ⑤ | 黄褐色 | (2.5Y5/3) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒をやや多量に含む。しまり弱い。湿性あり。 |
| ⑥ | 暗褐色 | (10YR3/3) | シルト | 焼土中ブロック、褐色砂質シルトの中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| ⑦ | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒、褐色砂質シルトの小ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性ややあり。 |
| ⑧ | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 炭化物・焼土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |
| ⑨ | 黒褐色 | (5YR2/2) | 粘質シルト | 炭化物粒をやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややなし。 |




第 34 図　SI16 出土遺物 (1)




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | カマド右袖脇 | 土師器 | 坏 | ヨコナデ－ヘラケズリ | ヘラミガキ・黒色処理 | ほぼ完形 | 11.4 | 10.0 | 3.3 | 7-1 |
| 2 | カマド付近・床直 | 土師器 | 坏 | ヨコナデ－ヘラケズリ | ヨコナデ－ナデ | 全体1/2 | (11.3) | － | 4.8 | 7-2 |
| 3 | 南側・堆積土 | 土師器 | 高坏 | ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ | ヘラミガキ・黒色処理－ナデ・ヨコナデ | 全体1/3 | (10.7) | (6.4) | (6.6) | 8-1 |
| 4 | カマド付近・床直 | 土師器 | 高坏 | ヘラケズリ・透かし(5ヶ所) | 黒色処理－ヘラナデ・ナデ | 脚部破片 | － | － | － | 8-2 |
| 5 | カマド右袖脇 | 土師器 | 壺 | ヨコナデ－ヘラケズリ・ヘラナデ | ヨコナデ－ヘラナデ－ナデ | 全体1/3 | 20.3 | － | － | |
| 6 | カマド右袖脇 | 土師器 | 壺 | ヨコナデ－ヘラケズリ | ヨコナデ－ヘラナデ | 全体1/2 | 18.4 | － | － | 8-3 |
| 7 | カマド部材 | 土師器 | 甕 | ヨコナデ－ヘラケズリ | ヨコナデ－ヘラナデ・ヘラケズリ | 全体1/2 | 20.2 | － | － | |
| 8 | カマド右袖脇 | 土師器 | 甕 | ヨコナデ－ヘラケズリ・ナデ | ヨコナデ－ヘラナデ・ナデ | ほぼ完形 | 17.3 | 7.8 | 27.8 | 8-4 |
| 9 | 北側・床直 | 須恵器 | フラスコ形瓶 | ロクロナデ－ヘラケズリ・ナデ | ロクロナデ | 体部破片 | － | － | － | 8-5 |

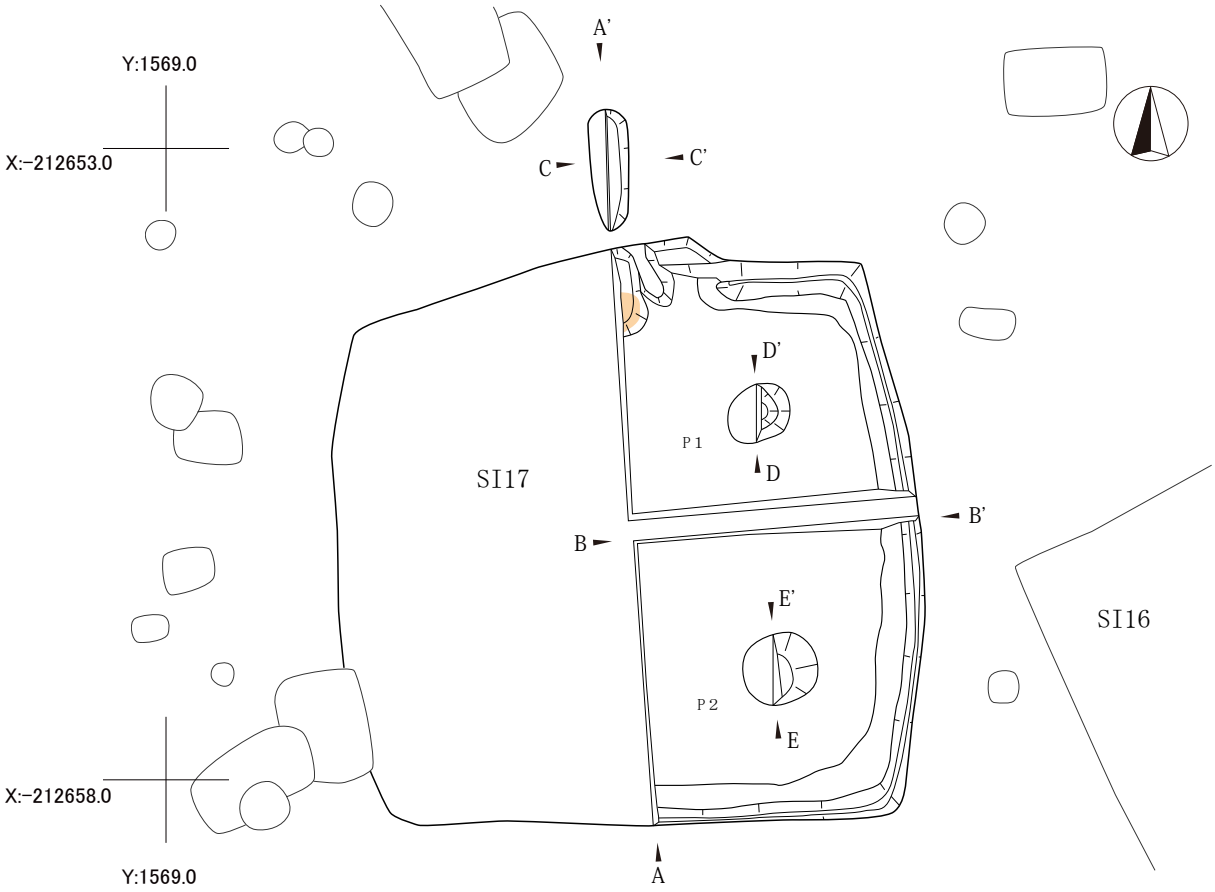
**第 35 図　SI16 出土遺物 (2)**

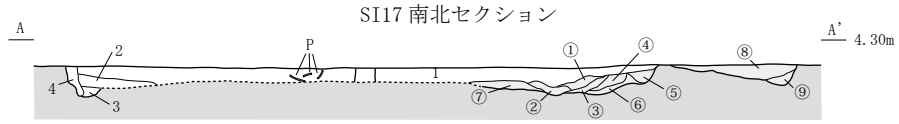
ルトを用いた貼床である。主柱穴は認められなかったが、西壁際の一部では周溝が認められている。

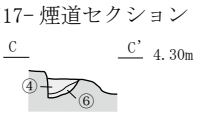
遺物は第 32 図１に図示した非ロクロ成形の土師器椀のほか、高坏・甕が出土している。１の椀は赤彩が施され、口縁は強く外反する。また底部は丸底である。図示した遺物の年代観から、本遺構は６世紀前半頃の年代観が考えられる。

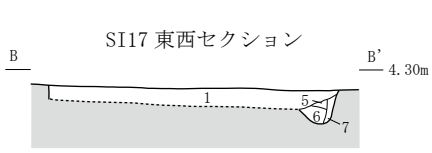
【SI16】(第 33 図)

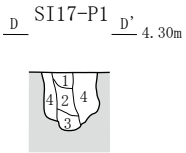
Ⅱ区南東部に位置する。東半分で掘り下げを行っている。SB03 と重複関係にあり、これより古い。本遺構の東と南側は調査区外へ広がるために不明な点はあるが、平面形状は方形とみられる。確認した範囲での規模は東西が 4.50 m、南北は 3.96 m、確認面からの深さは 40 ㎝を測る。西壁で計測した主軸方向は、真北から 25° 西へ傾く。カマドは北壁につくられ、カマドの構築材にはにぶい黄褐色砂質シルトが用いられている。また左袖内と先端には非ロクロ成形の土師器甕２個体を芯材・オサエとして逆位で設置している。燃焼部は SB03 の柱穴により一部を失うが、燃焼部の幅は 64 ㎝、確認できた範囲での奥行きは 46 ㎝である。カマド内の壁面では強い被熱が認められ、燃焼部底面も赤変する。煙道部は削平によって一旦途切れるが、カマド奥壁際から長さ 154 ㎝を測る長煙道であり、先端部付近の底面はほぼ平坦である。なお、カマドの右袖脇には底部を欠いた非ロクロ成形の土師器甕

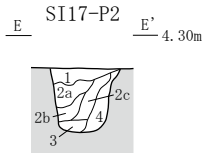


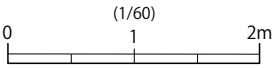




SI17 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (7.5YR3/3) | 砂質シルト | 焼土粒を少量含む。褐色シルト粒を多量に含む。しまりやや強い。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒・褐色粘土粒を少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 5 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 褐色粘土粒を多量に混入。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 6 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の小さい・中ブロックを多量に混入。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 7 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

**第 36 図　SI17**

SI17 カマド土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 焼土粒を少量に含む。褐色粘土粒を多量に含む。しまりやや強い。湿性ややあり。 |
| ② | にぶい黄橙色 | (10YR6/3) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を多量に混入。暗褐色シルト粒をやや多量に含む。しまりやや強い。湿性ややあり。 |
| ③ | にぶい黄橙色 | (10YR6/3) | 粘質シルト | 暗褐色シルト粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややなし。 |
| ④ | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の小・中ブロックを多量に含む。焼土粒をやや多く含む。しまりやや弱い。湿性ややあり。 |
| ⑤ | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の中・大ブロックを多量に含む。しまりややあり。湿性・粘性ややあり。 |
| ⑥ | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | 粘質シルト | 黒褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ⑦ | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| ⑧ | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 焼土粒を少量含む。褐色粘土の小・中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| ⑨ | 黒色 | (10YR2/1) | 粘土 | 褐色粘土の小・中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

SI17-P1 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 焼土粒・褐色粘土粒をやや少量含む。しまり強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 焼土・炭化物粒を少量に含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。 |
| 3 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物粒を少量含む。にぶい黄褐色・褐色粘土の中・大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。 |

SI17-P2 土層注記

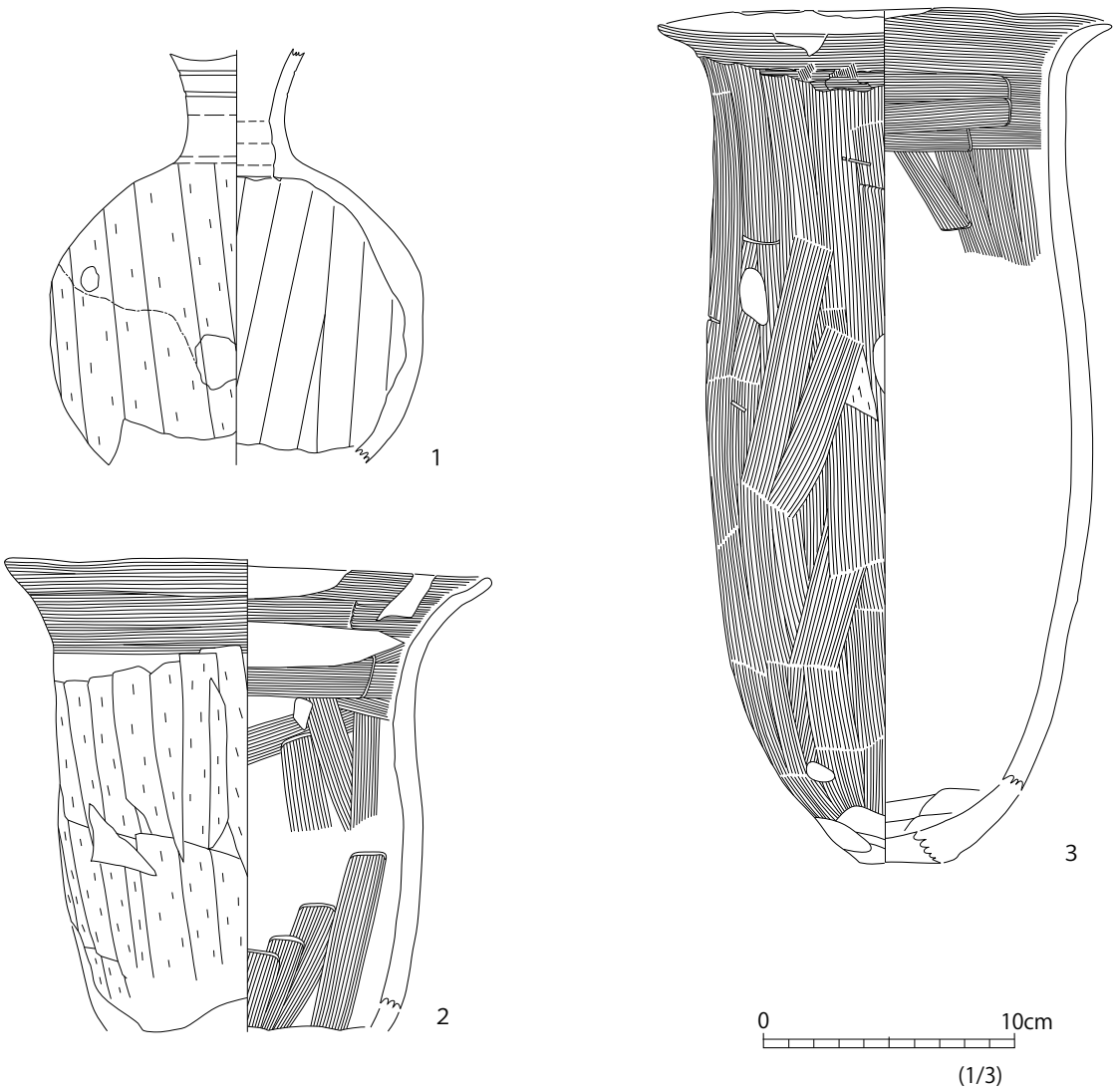
| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 焼土粒・褐色粘土粒をやや少量含む。しまり強い。 |
| 2a | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 焼土・炭化物粒を少量含む。褐色粘土の小・中ブロックを多量に含む。湿性・粘性ややあり。 |
| 2b | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の小・中ブロックを少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2c | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の中・大ブロックを多量に含む。しまりやや弱い湿性・粘性ややあり。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR4/4) | 粘質シルト | 褐色粘土の小・中ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |

が正置しており、器台として用いられた可能性が考えられる。さらにその東側の床面には、底部を欠いて半分に割れた土師器甕を置き、その上に白色粘土塊を載せたものが発見されている。床面は黒褐色粘質シルトを用いた貼床であり、主柱穴は確認できなかったが、カマドを除く北壁際で周溝を確認している。このほかカマド付近の床面からは湖西窯跡群で生産されたフラスコ形長頸瓶が出土している。

遺物は第 34・35 図に図示した１・２の非ロクロ成形土師器坏、３・４の高坏、５～８の甕、９の須恵器フラスコ形長頸瓶が出土している。１の坏は口縁部と体部との境に明瞭な段を有する。２の坏は関東系土師器である。口縁部が短く、また屈曲する。内面の黒色処理は無く、体部、及び底部ではヘラケズリが施される。４の高坏脚部には細長い三角形を呈するとみられる透孔が５か所みられる。同様の透孔の高坏は本遺跡第１次調査 SI12 出土資料にも存在する。５・６・８の甕は体部下半で最大径を測るものであり、胴部上半部では縦方向のヘラケズリが施される。なお、４・８の甕では頸部に弱い段が認められる。９のフラスコ形長頸瓶は胴部のみの出土であるが、外面上半と内底面には降灰による自然釉がみられる。図示した遺物の年代観から、本遺構は７世紀後半頃の年代観が考えられる。

【SI17】（第 36 図）

Ⅱ区南部に位置する。東半分で掘り下げを行っている。平面形状は不整方形であり、規模は東西が 4.58 m、南北は 4.46 m、確認面からの深さは 12 ㎝を測る。カマド中軸線で計測した主軸方向は、真北から４° 西へ傾く。カマドは北壁中央につくられ、カマドの構築材にはにぶい黄褐色砂質シルトが用いられている。燃焼部の奥行きは 71 ㎝である。カマド内の壁面ではごく弱い被熱が認められ、燃焼部底面の赤変は顕著ではない。煙道部は削平によって一旦途切れるが、カマド奥壁際から長さ 124 ㎝を測る長煙道であり、先端部付近に向かってやや急激に傾斜する。なお、カマドの右袖脇には床面から８㎝ほどの高さで、幅 45 ㎝、奥行 15 ㎝の平坦な張り出しがつくられている。床面は灰黄褐




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 南側・堆積土 | 須恵器 | フラスコ形瓶 | ロクロナデ－回転ヘラケズリ　降灰あり | ロクロナデ | 全体1/3 | － | － | － | 8-6 |
| 2 | 北側・床直 | 土師器 | 中型甕 | ヨコナデ－ナデ－ヘラケズリ | ヨコナデ・ハケメ－ヘラナデ | 全体1/5 | 19.2 | － | － | 8-7 |
| 3 | カマド付近・床直 | 土師器 | 大型甕 | ヨコナデ－ハケメ・ヘラケズリ・ナデ | ヨコナデ－ヘラナデ－ナデ | ほぼ完形 | 17.9 | 3.8 | 33.8 | 8-8 |

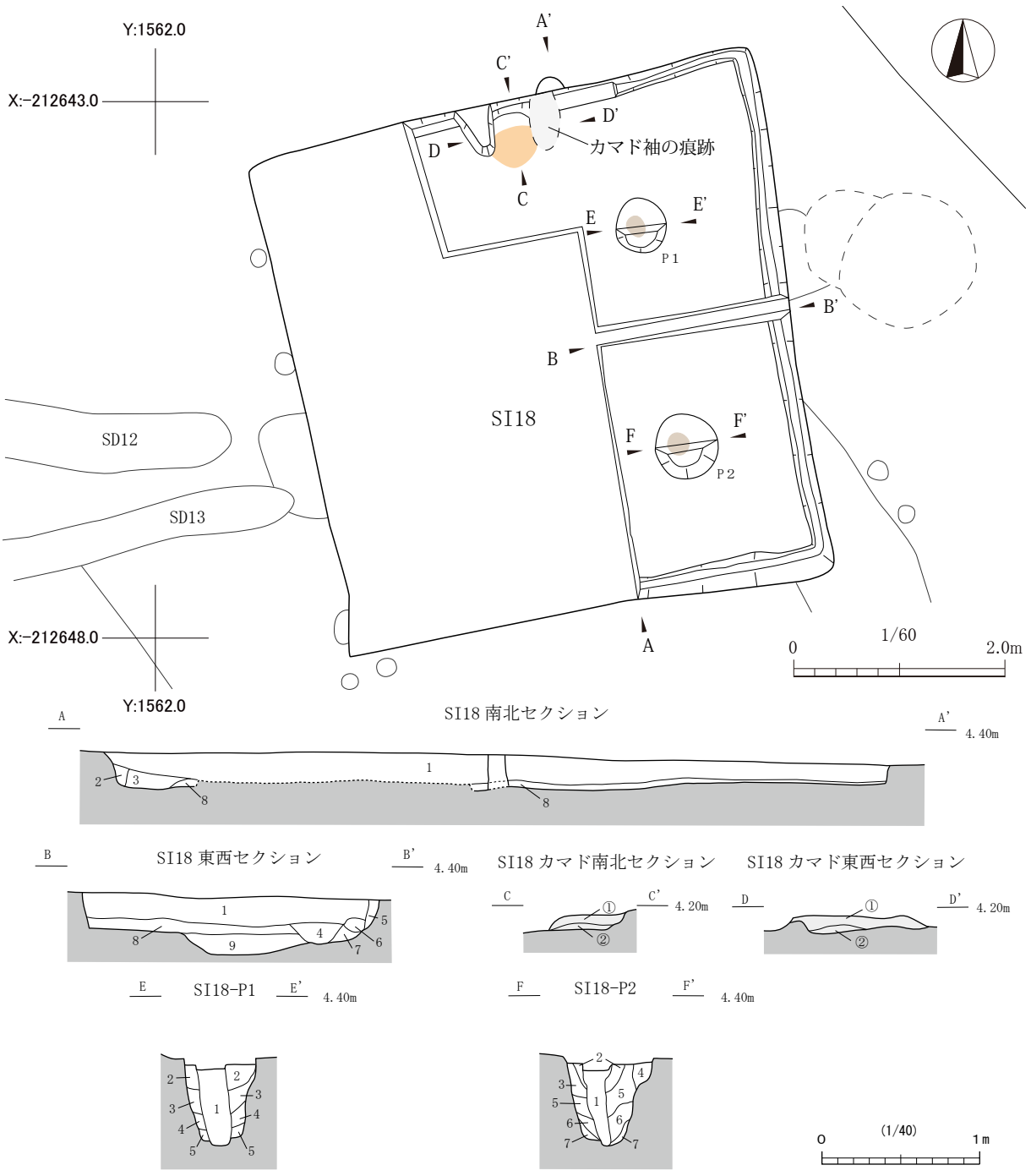
**第 37 図　SI17 出土遺物**

色粘質シルトを用いた貼床であり、主柱穴が２口確認している。周溝はカマドを除く全てで確認している。このほか床面からは猿投窯跡群で生産されたフラスコ形長頸瓶、非ロクロ成形の土師器甕が出土している。

遺物は第 37 図に図示した１の須恵器フラスコ形長頸瓶、２・３の非ロクロ成形土師器甕が出土している。１のフラスコ形長頸瓶の外面には暗みがかった降灰による自然釉がみられ、頸部には２条の沈線がめぐる。２・３の甕は頸部には段が見られず、口縁部が外側へ強く外反する。３の底部ではハケメが施されている。図示した遺物の年代観から、本遺構は７世紀後半頃の年代観が考えられる。

【SI18】（第 38 図）

Ⅱ区中央部に位置する。東半分とカマド部分で掘り下げを行っている。平面形状は方形であり、規模は東西が 4.82 m、南北は 4.82 m、確認面からの深さは 19 ㎝を測る。東壁で計測した主軸方向は、




SI18 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土の小～中ブロックを多量に含む。しまりやや強い。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 炭化物を少量含む。にぶい黄褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。にぶい黄褐色・褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR2/2) | 粘土 | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 5 | 黒褐色 | (10YR2/3) | 粘土 | 暗褐色粘土の小さいブロックを少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 6 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 7 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘土 | 黒褐色粘土の中ブロックを少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 8 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒をやや少量含む。褐色・暗褐色粘土の小・中ブロックをやや多量に含む。貼床埋土。 |
| 9 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘土 | 褐色粘土の大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。掘方埋土。 |
| ① | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物を少量、焼土粒を多量に含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。 |
| ② | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。焼土粒～小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。粘性ややあり。 |

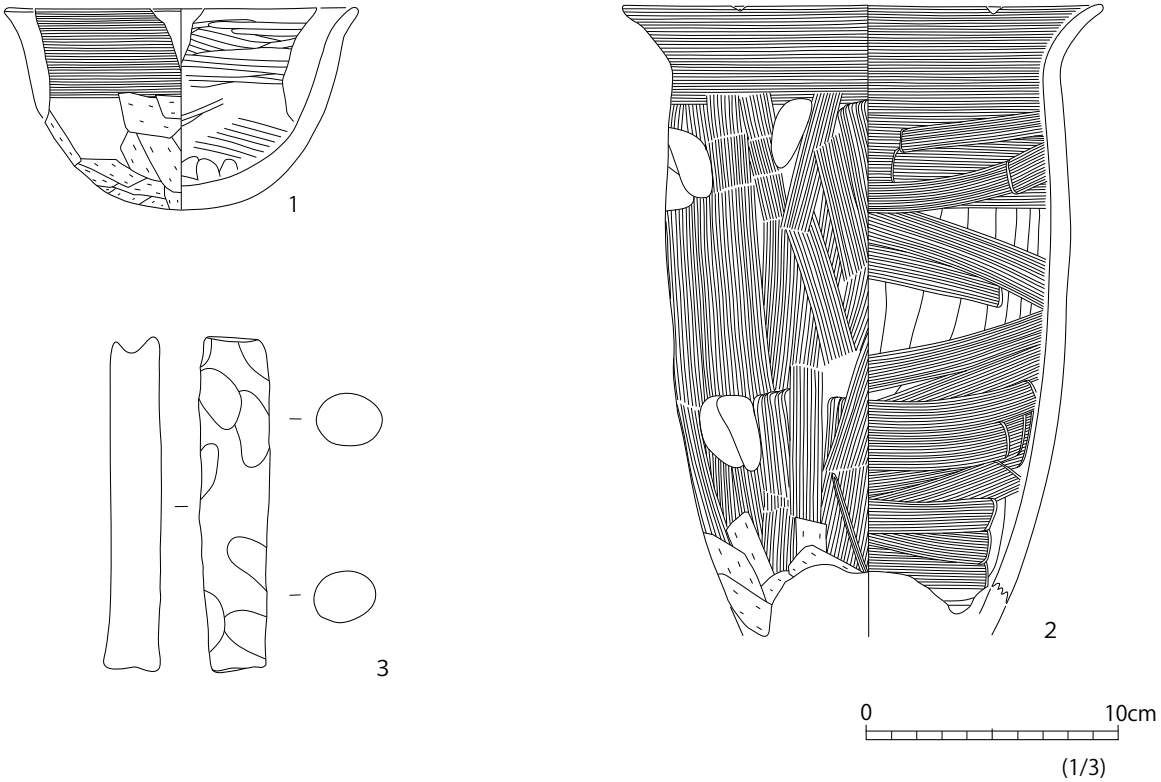
第 38 図　SI18

SI18-P1 土層注記

| 層№ | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR2/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまり強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 3 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 4 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 暗褐色粘土の小・中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 5 | 褐色 | (10YR4/6) | 砂質粘土 | 暗褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |

SI18-P2 土層注記

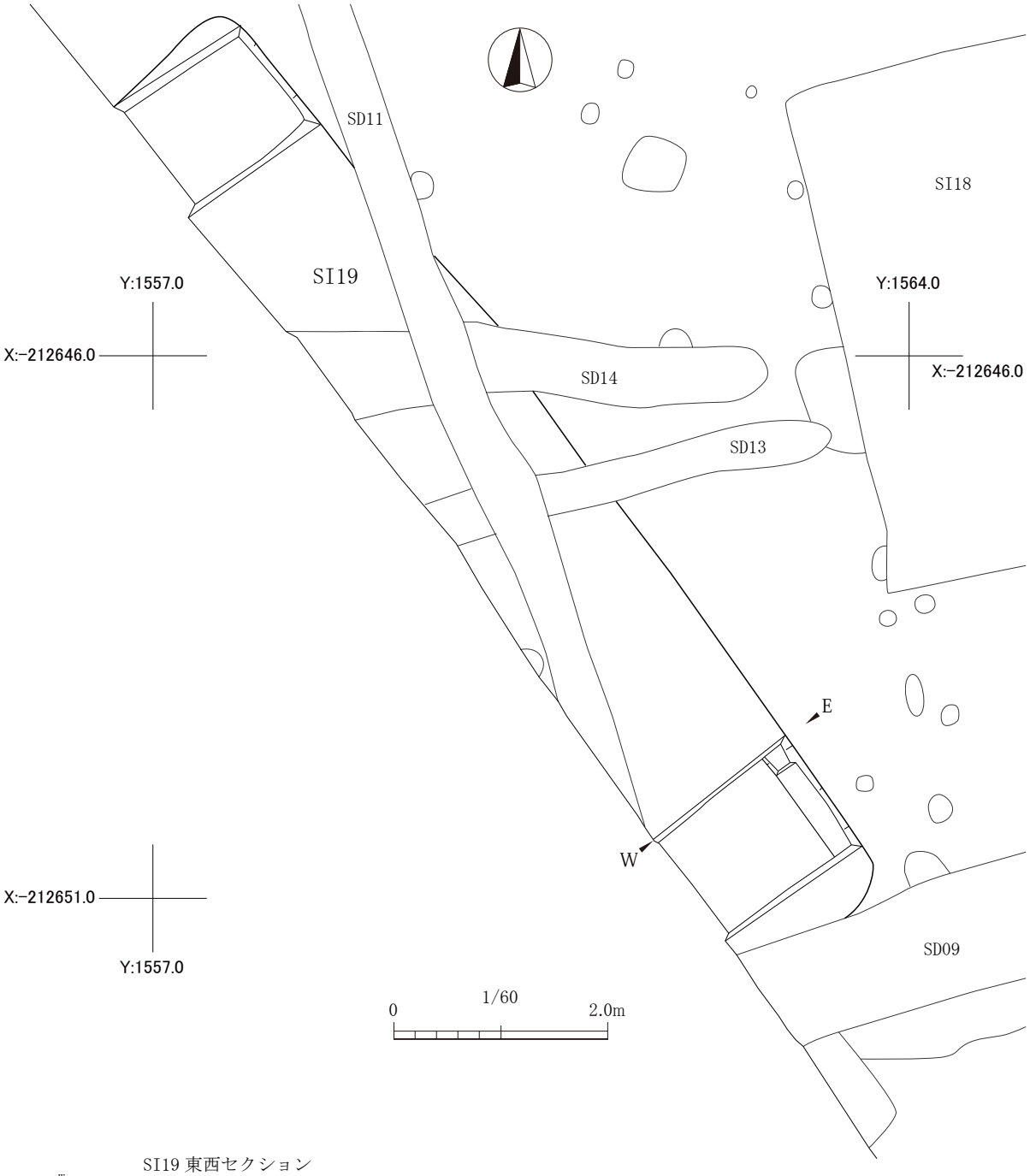
| 層№ | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (7.5YR2/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。暗褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 2 | 黒褐色 | (7.5YR2/2) | 粘質シルト | 暗褐色・黒褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 3 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の中ぶろっくを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 褐色 | (7.5YR4/4) | 粘質シルト | 黒褐色粘土の中・大ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややなし。 |
| 5 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色・黒褐色粘土の中・大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 6 | 黒褐色 | (10YR2/2) | 粘土 | 褐色粘土の中・大ブロックを多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 7 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 砂 | しまりやや弱い。湿性あり。粘性なし。 |



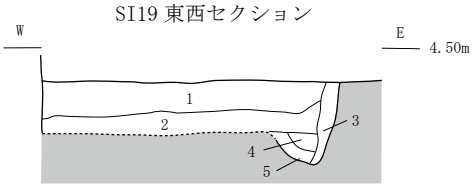

| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　　面 | 内　　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 南側・堆積土 | 土師器 | 坏 | ヨコナデ－ヘラケズリ | ヘラミガキ－ナデ | 全体1/2 | 14.0 | － | 8.0 | |
| 2 | カマド右袖 | 土師器 | 甕 | ヨコナデ－ハケメ・ナデ－ヘラケズリ | ヨコナデ－ナデ・ヘラナデ | 全体1/3 | (19.4) | － | － | |
| 3 | カマド右袖 | 土製品 | 支脚 | 長さ－13.2cm、幅2.7cm、厚さ2.0cm　断面形－楕円形　調整－ナデ | | 完形 | － | － | － | 9-1 |

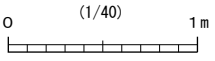
**第 39 図　SI18 出土遺物**

真北から９°西へ傾く。カマドは北壁中央につくられ、カマドの構築材にはにぶい黄褐色砂質シルトが用いられているが、廃絶時に意図して破壊されたようで、左袖の先端、及び右袖は明確には認められていない。焼土範囲から燃焼部の幅は 50 ㎝、奥行きは 62 ㎝ほどであると考えられる。カマド左袖壁面ではごく弱い被熱が認められ、燃焼部底面では焼土・炭化物はみられるものの、赤変は顕著ではない。煙道部は確認できなかった。床面は黒褐色粘質シルトを用いた貼床であり、主柱穴を２口確認




SI19 東西セクション




SI19 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒・褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒をやや少量に含む。褐色粘土粒を多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の小～大ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 5 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の小・中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

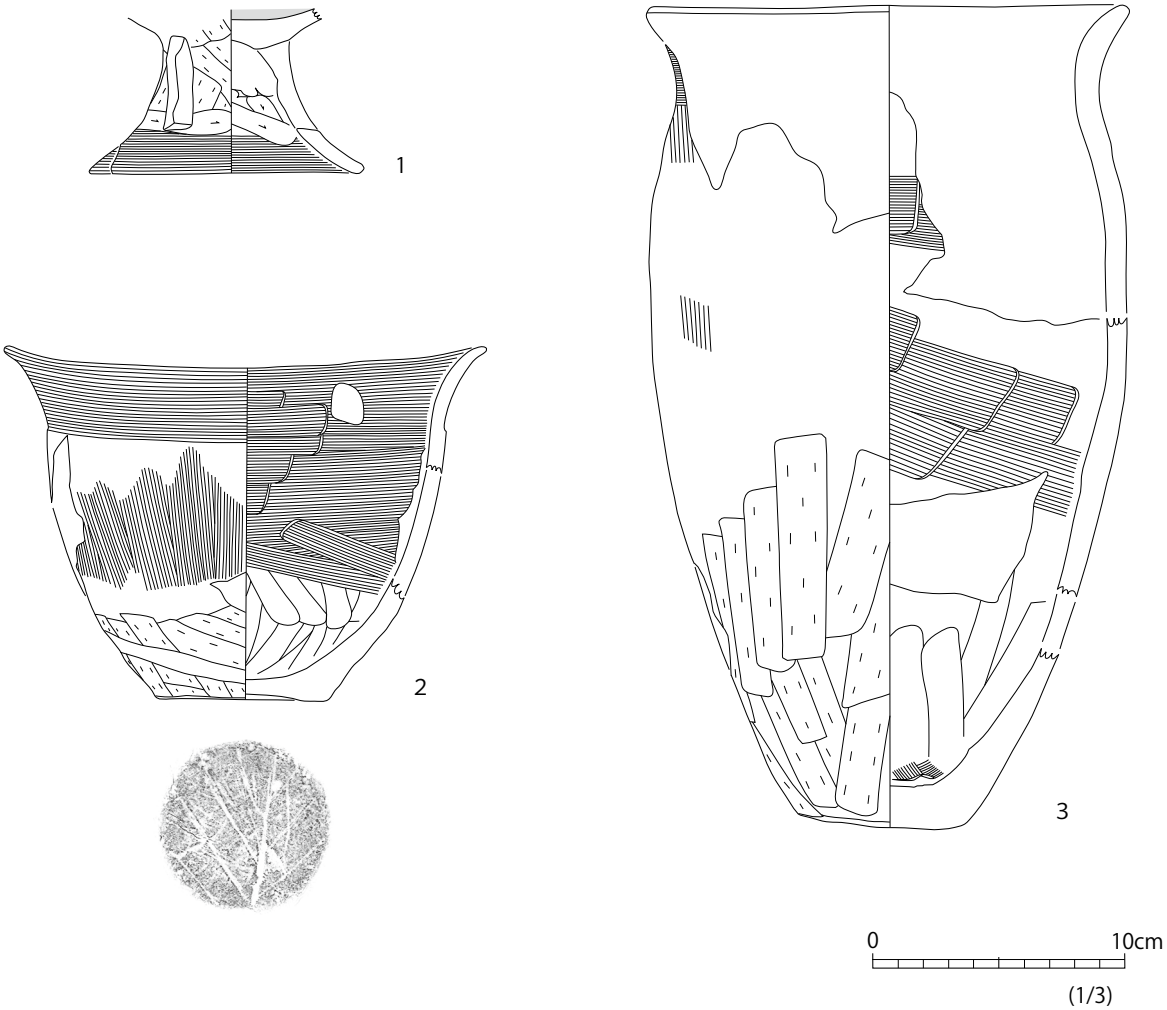
**第40図　SI19**

している。周溝はカマドを除く全てで確認している。

遺物は第 39 図に図示した１の非ロクロ成形土師器坏、２の甕のほか、カマド右袖の痕跡と考えられる場所から出土した土製品がある。１の坏は器高が高く、底部は丸みが強いものであり、内面には黒色処理が行われていない。縦方向のハケメの後にヨコナデが施される。３の土製品は一部では被熱の痕跡が認められる。類例は福島県本宮町高木遺跡 58 号住居跡でみられ（福島県教委 2002・註１）、支脚の可能性が考えられる。図示した遺物の年代観から、本遺構は７世紀後半頃の年代観が考えられる。

【SI19】（第 40 図）

Ⅱ区西側中央に位置する。北側と南側の一部で掘り下げを行っている。本遺構の大部分は調査区西側へ広がるために平面形状は不明であるが、確認した範囲での規模は南北 10.15 m、確認面からの深さは 40 ㎝を測る。東壁で計測した主軸方向は、真北から 38° 西へ傾く。床面は黒褐色粘質シルトを用いた貼床であり、カマドや主柱穴は未確認であるが、周溝を南東部分で確認している。




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 北側・堆積土 | 土師器 | 高坏 | ヘラケズリ－ヨコナデ、透かし(長方形) | 黒色処理－ナデ・ヨコナデ | 全体1/5 | － | (10.5) | － | 9-2 |
| 2 | 北側・床直 | 土師器 | 小型甕 | ヨコナデ－ハケメ－ヘラケズリ・ナデ | ヨコナデ－ヘラナデ－ナデ | 全体1/2 | (19.1) | 6.8 | 14.0 | 9-3 |
| 3 | 北側・床直 | 土師器 | 甕 | ヨコナデ－ハケメ・ナデ－ヘラケズリ | ヨコナデ－ヘラナデ・ナデ | 全体2/3 | (19.1) | 6.9 | (32.3) | |

**第 41 図　SI19 出土遺物**

遺物は第 41 図に図示した１の非ロクロ成形土師器高坏、２・３の甕が出土している。１の高坏は脚部に長方形の透孔をもつものである。２の甕は底部から口縁部に向かって大きく開く形状であり、頸部には弱い段を有する。

３の甕の器面は磨滅が著しいが、体部上半の一部にハケメ、下半に縦方向のヘラケズリが認められる。図示した遺物の年代観から、本遺構は７世紀後半頃の年代観が考えられる。

**第４表　竪穴建物跡属性表**

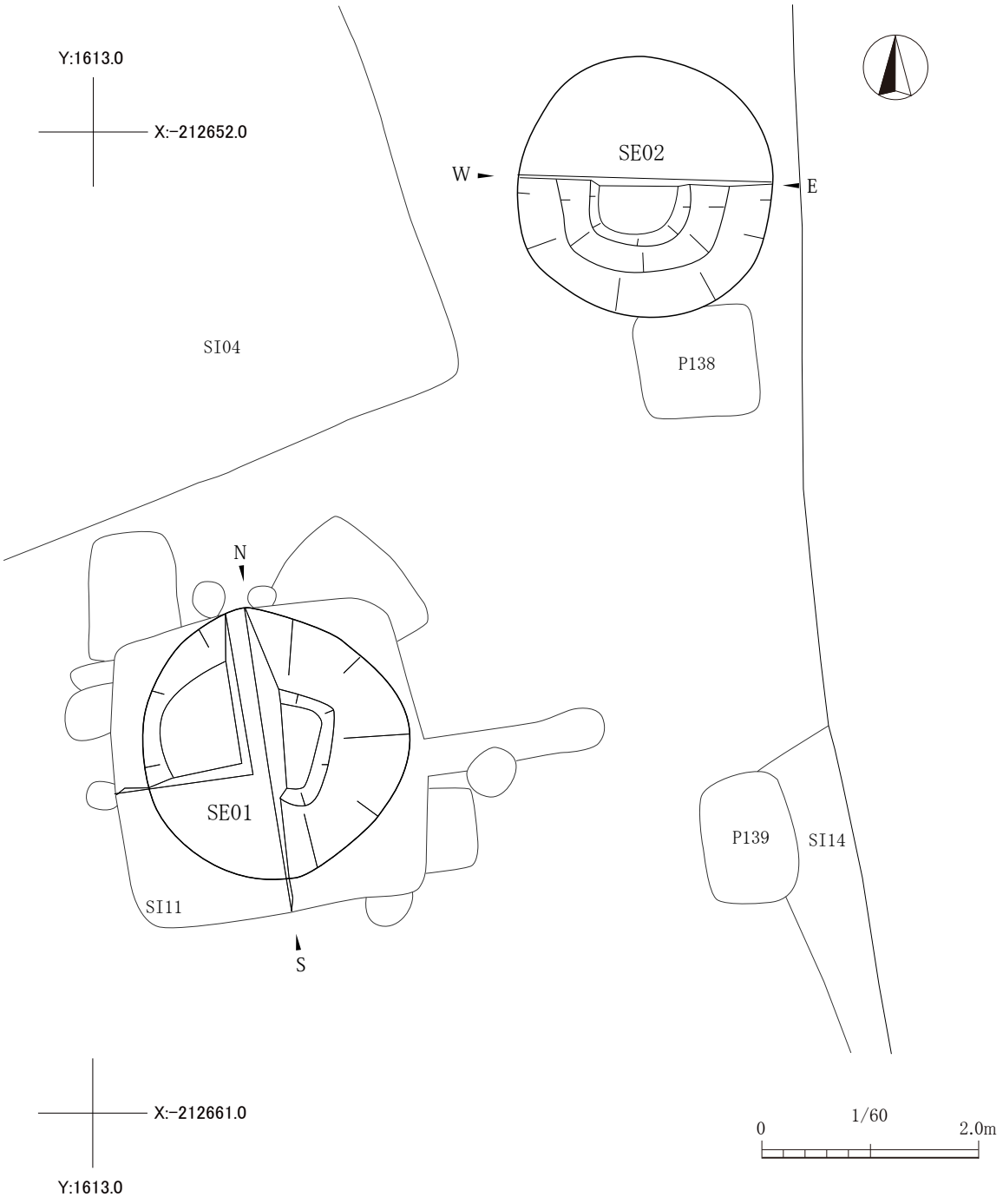
| 建物名 | 平面形 | 規模（m）東西×南北 | 軸方位 | 床 | カマド | カマド構築材 | 煙道部（cm） | 柱穴 | 周溝 | 出土遺物 | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SI01 | 方形 | (5.48)<br>×<br>6.18 | N-30-W | 貼床 | 北壁<br>中央 | 粘質<br>シルト | 長煙道<br>164 | 主柱穴<br>3 | カマドを除く全周 | 非ロクロ成形土師器坏･甕、須恵器高坏･甕、土製品（支脚） | ６世紀末葉<br>～<br>７世紀前半 | SD01 より古<br>カマド燃焼部内に土製支脚 |
| SI02 | 方形 | 5.53<br>×<br>5.55 | N-14-W | 貼床 | 北壁<br>中央 | 粘質<br>シルト | 不明 | 主柱穴<br>2 | カマドを除く全周 | 非ロクロ成形土師器椀・甑・甕、須恵器蓋・高台坏・甕、石製模造品、土製品（支脚） | ６世紀末葉<br>～<br>７世紀前半 | 小溝状遺構群より新<br>SD02 より古<br>カマド燃焼部内に土製支脚 |
| SI04 | 方形 | 5.92<br>×<br>6.12 | N-19-W | 貼床 | 北壁<br>中央<br>西寄り | 粘質<br>シルト | 不明 | 主柱穴<br>4 | なし | 非ロクロ成形土師器甕、須恵器蓋・坏・甕 | ６世紀末葉<br>～<br>７世紀前半 | SB01、SK01・02、SD08 より古<br>カマド左袖のオサエ材に逆位の土師器甕を設置<br>建替えの可能性 |
| SI07 | 方形 | 5.25<br>×<br>5.05 | N-15-W | 貼床 | 北壁<br>中央 | 砂質<br>シルト | 長煙道<br>148 | 主柱穴<br>1 | 西壁際の一部 | 非ロクロ成形土師器坏・鉢・甕 | ６世紀末葉<br>～<br>７世紀前半 | 小溝状遺構群より新<br>SB01、SI09・10 より古 |
| SI09 | 方形 | 3.85<br>×<br>3.95 | N-8-W | 地山 | 東壁<br>中央<br>？ | 不明 | 不明 | なし | 東壁、南・西壁の一部 | ロクロ成形土師器坏・甕、須恵器甕 | ８世紀末葉<br>以降 | 小溝状遺構群、<br>SI07・09 より新 |
| SI10 | 方形 | 3.00<br>×<br>3.08 | N-6-W | 貼床 | 北壁<br>東寄り | 不明 | 長煙道<br>160 | なし | なし | ロクロ成形坏、須恵器甕 | ９世紀前半 | SB01、SI07 より新<br>カマドは北壁をU字状に掘り込んで構築 |
| SI11 | 隅丸方形 | 2.82<br>×<br>2.84 | N-7-W | 地山 | 東壁<br>中央 | 不明 | 長煙道<br>163 | 不明 | なし | ロクロ成形土師器坏 | ８世紀末葉<br>～<br>９世紀初頭 | SB01 より新<br>SE01 より古 |
| SI12 | 方形 | 4.22<br>×<br>4.20 | N-13-W | 貼床 | 東壁<br>中央<br>？ | 不明 | 不明 | 主柱穴<br>2 | なし | 非ロクロ成形土師器甕、ロクロ成形土師器坏 | 不明 | SI13 より新<br>SB01 より古 |
| SI13 | 方形？ | (1.10)<br>×<br>2.62 | N-19-W | 地山 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | なし | 非ロクロ成形土師器甕 | ６世紀末葉<br>～<br>７世紀前半 | SB01、SI12 より古 |
| SI14 | 不明 | (0.70)<br>×<br>3.42 | N-22-W | 地山 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | なし | 非ロクロ成形土師器甕 | 不明 | P139 より古 |
| SI15 | 方形？ | 3.96<br>×<br>(2.90) | N-30-W | 貼床 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | なし | 非ロクロ成形土師器坏・高坏・甕 | ６世紀前半<br>？ | |
| SI16 | 方形？ | (4.50)<br>×<br>(3.96) | N-25-W | 貼床 | 北壁<br>中央<br>？ | 粘質<br>シルト | 長煙道<br>154 | なし | なし | 非ロクロ成形土師器坏(関東系土師器含む)・高坏・甕、須恵器坏・長頸瓶・甕 | ７世紀後半 | SB03 より古<br>カマド左袖の芯材・オサエに逆位の土師器甕、カマド右袖脇に底部を欠く土師器甕を正位で設置 |
| SI17 | 不整方形 | 4.58<br>×<br>4.46 | N-4-W | 貼床 | 北壁<br>中央 | 砂質<br>シルト | 長煙道<br>124 | 主柱穴<br>2 | カマドを除く全周 | 非ロクロ成形甕、須恵器長頸瓶 | ７世紀後半 | カマド右脇に棚状施設 |
| SI18 | 方形 | 4.82<br>×<br>4.82 | N-9-W | 貼床 | 北壁<br>中央 | 砂質<br>シルト | 不明 | 主柱穴<br>2 | カマドを除く全周 | 非ロクロ成形土師器坏・甕、土製品（支脚） | ７世紀後半 | 建物廃絶時にカマドを意図的に破壊か |
| SI19 | 方形？ | (1.06)<br>×<br>10.15 | N-38-W | 貼床 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 東壁際の一部 | 非ロクロ成形土師器高坏・甕 | ７世紀後半 | SD09・11・13・14 より古 |

### ｄ．井戸跡

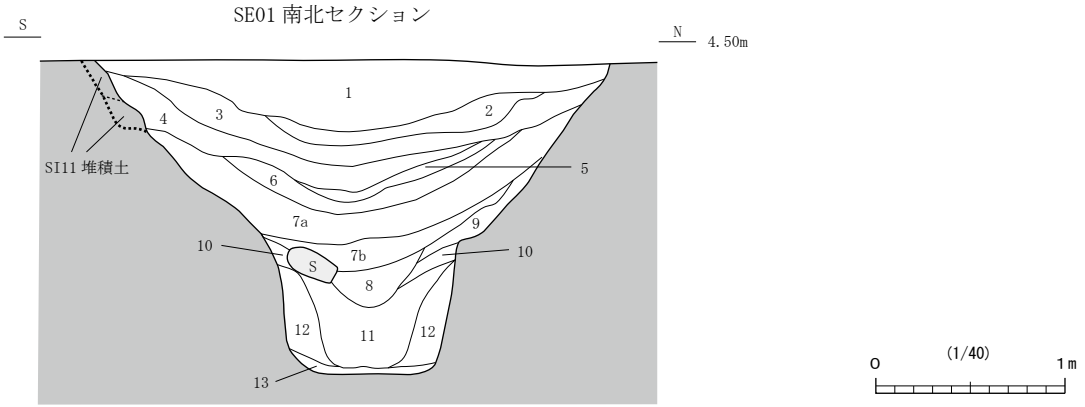
【SE01】（第 42・43 図）

Ⅰ区中央部東側に位置する。東側と北西部の一部で掘り下げを行っている。SB01、SI11 と重複関係にあり、これらより新しい。特に SI11 とは完全に重複しており、SI11 の廃絶後からさほど時間を経ずに本遺構をつくった可能性がある。素掘りの井戸であり、平面形状は楕円形で、規模は長軸 2.52 m、短軸 2.42 mを測る。断面形状は漏斗状であり、確認面からの深さは 168 cmを測る。堆積土は 13 層に分層でき、すべて自然堆積である。

遺物は第 44 図 1 に図示した須恵器甕のほか、非ロクロ成形の土師器坏・高坏・甕、そして須恵器

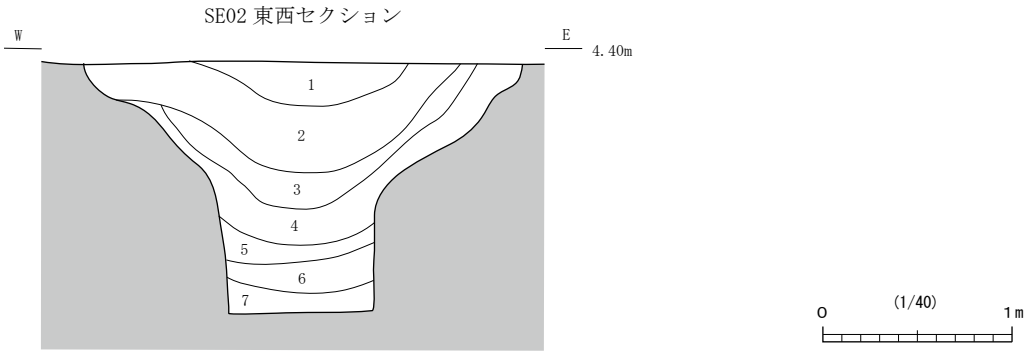



第 42 図　SE01・02




**SE01 南北セクション注記**

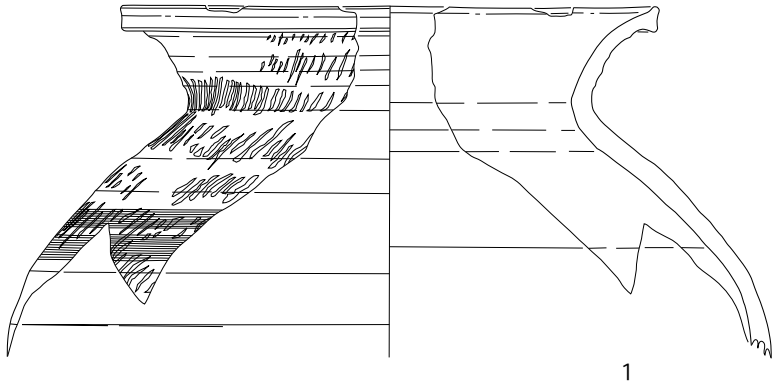
| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト | 炭化物を少量含む。しまりあり |
| 2 | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | シルト | にぶい黄褐色シルト粒を少量含む。しまりやや強い。 |
| 3 | 暗オリーブ褐色 | (2.5Y3/3) | シルト | 灰黄褐色シルト粒を少量含む。しまりやや強い。 |
| 4 | 暗オリーブ褐色 | (2.5Y3/3) | 粘質シルト | 灰黄褐色シルト粒・焼土粒を少量含む。しまりやや強い。 |
| 5 | オリーブ褐色 | (2.5Y4/3) | 粘質シルト | 黄褐色粘土粒を少量含む。しまりやや弱い。 |
| 6 | 暗オリーブ褐色 | (2.5Y3/3) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。しまりやや強い。 |
| 7a | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。しまりやや弱い。 |
| 7b | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。しまりやや弱い。粘性強い。 |
| 8 | 黄灰色 | (2.5Y4/1) | 粘土 | 暗灰黄色・黒色粘土中ブロックを多量含む。しまりやや弱い。 |
| 9 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 粘質シルト | にぶい黄褐色粘土小ブロックをやや多量含む。しまりやや弱い。 |
| 10 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘土 | 褐色シルト粒を少量含む。しまりやや弱い。 |
| 11 | 黒色 | (2.5Y2/1) | 粘土 | 酸化鉄分を多量含む。しまり弱い。粘性強い。 |
| 12 | 暗褐色 | (7.5YR3/3) | 細砂 | 酸化鉄分をやや多量含む。しまり弱い。 |
| 13 | 暗灰色 | (N3/1) | 粘土 | 灰白色・黄色褐色粘土小ブロックをやや多量含む。しまりやや強い。粘性強い。 |

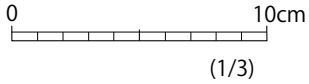



**SE02 東西セクション注記**

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/4) | シルト質粘土 | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土の小ブロックを層状に含む。しまり強い。粘性あり。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性ややあり。 |
| 3 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | シルト質粘土 | 炭化物を少量含む。黒褐色・褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまり弱い。粘性あり。 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性あり。 |
| 5 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。粘性あり。 |
| 6 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。粘性あり。 |
| 7 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 砂質シルト | 雲母粒を少量含む。しまりやや強い。粘性ややあり。 |

**第 43 図　SE01・02 土層断面図**

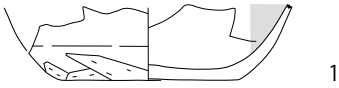


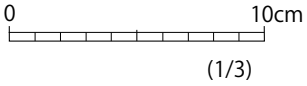




(1/3)

| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　　面 | 内　　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 北側・堆積土 | 須恵器 | 甕 | ロクロナデ→平行叩き目・ヘラナデ | ロクロナデ | 口縁～体部破片 | (21.0) | － | － | |

**第 44 図　SE01 出土遺物**




(1/3)

| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 南側・堆積土 | 土師器 | 坏 | ロクロナデ→ヘラケズリ　底部回転糸切り離し後ヘラケズリ | 黒色処理 | 底部破片 | － | (6.9) | － | |

**第 45 図　SE02 出土遺物**

**第５表　井戸跡属性表**

| 遺構名 | 構造 | 平面形 | 断面形 | 規模（m） | 深さ(m) | 堆積土 | 遺物 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SE01 | 素掘 | 楕円形 | 漏斗 | 2.52 × 2.42 | 1.68 | 自然 | 非ロクロ成形土師器杯・高杯・甕、須恵器杯 | SI11 より新 |
| SE02 | 素掘 | 円形 | 漏斗 | 2.38 × 2.32 | 1.32 | 自然 | 非ロクロ成形土師器甕、ロクロ成形土師器杯、須恵器甕 | P138 より新 |

坏がごく少量出土している。前述した SI11 との重複関係から、本遺構は９世紀前半頃の年代観が考えられる。

【SE02】（第 42・43 図）

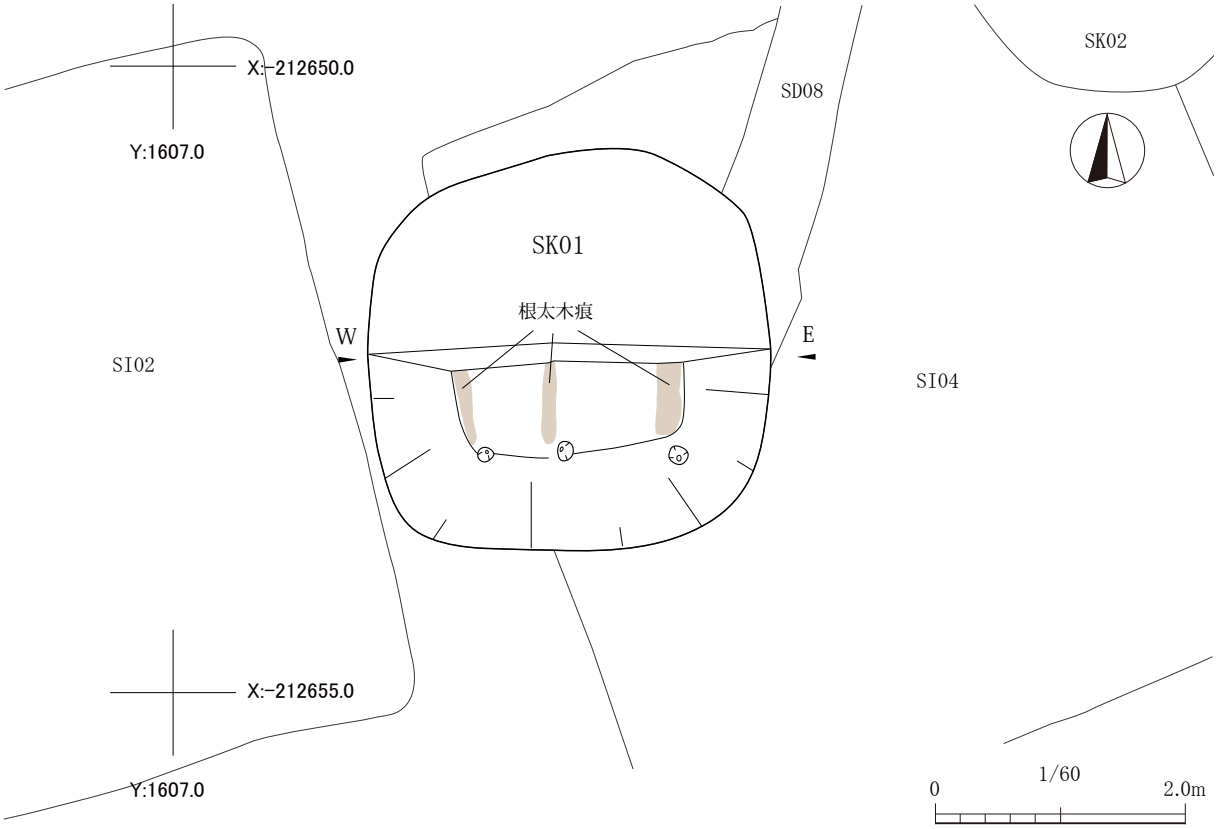
Ｉ区東側中央に位置する。南側で掘り下げを行っている。P138 と重複関係にあり、これより新しい。素掘りの井戸であり、平面形状は円形で、規模は長軸 2.38 ｍ、短軸 2.32 ｍを測る。断面形状は漏斗状であり、確認面からの深さは 132 ㎝を測る。堆積土は７層に分層でき、すべて自然堆積である。

遺物は第 45 図１に図示したロクロ成形の土師器坏のほか、非ロクロ成形の土師器甕、須恵器甕がごく少量出土している。図示した遺物の年代観から、本遺構は９世紀前半頃の年代観が考えられる。

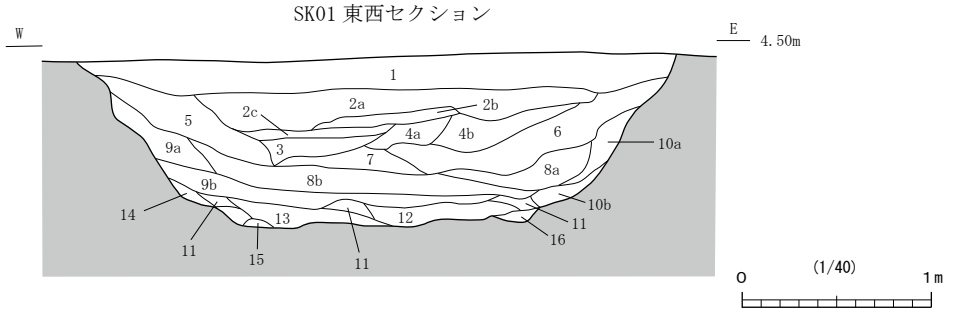
### ｅ．大型土坑

【SK01】（第 46 図）

Ｉ区中央部北寄りに位置する。南側で掘り下げを行っている。SI04、SD08 と重複関係にあり、これらより新しい。平面形状は隅丸方形で、規模は長軸 3.32 ｍ、短軸 3.20 ｍを測る。断面形状は逆台形であり、確認面からの深さは 90 ㎝を測る。底面には褐色粘土を用いた貼床がみられ、そこでは幅 10 ～ 15 ㎝のにぶい黄橙色粘土が東西方向に３列並んでいた。本遺跡地内で確認される柱穴底面の基



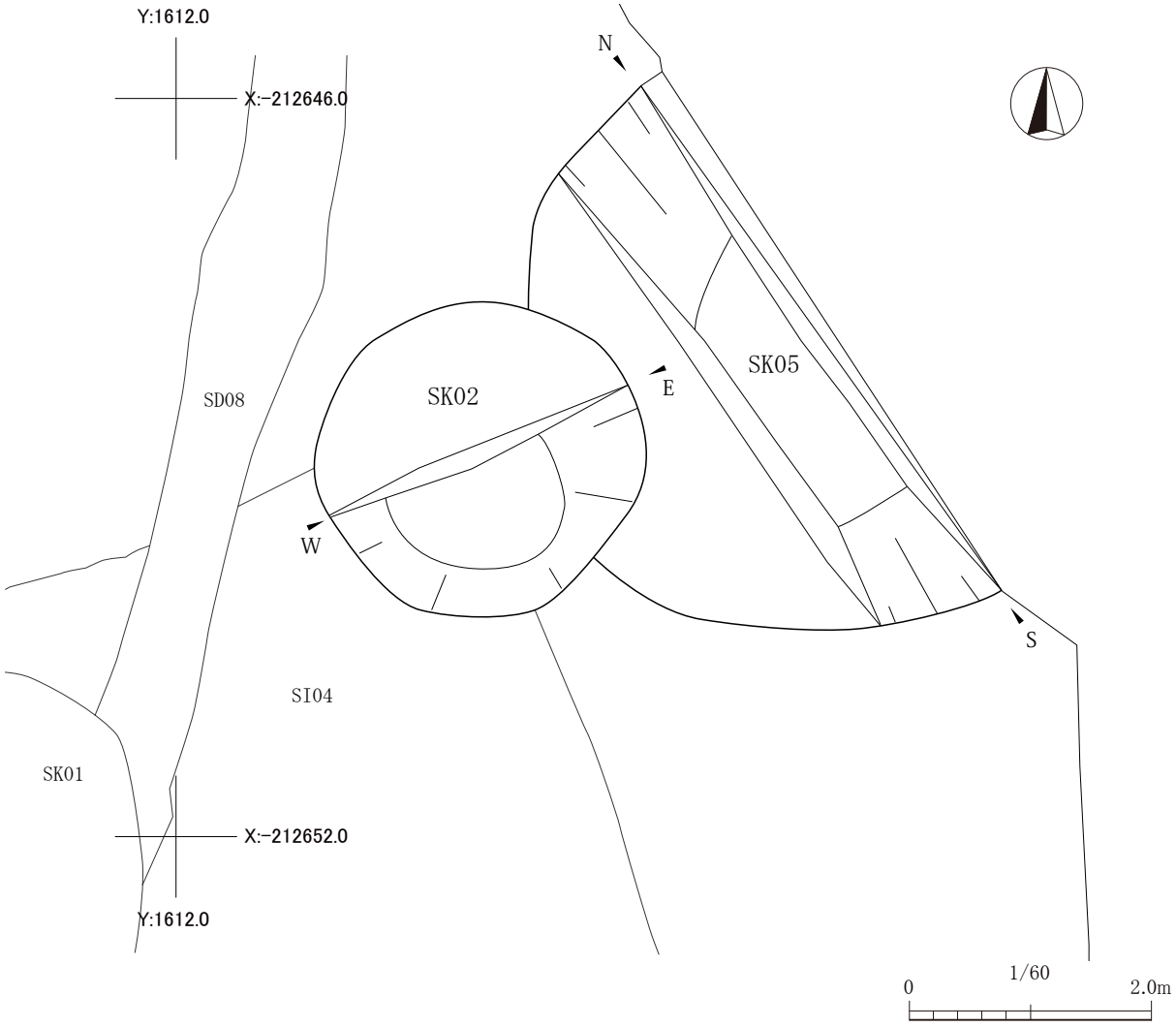

SK01 東西セクション

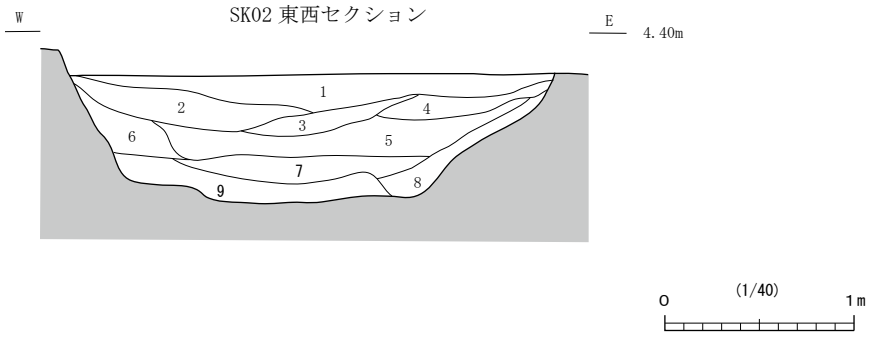



SK01 土層注記

| 層No. | 土　色 | | 土　質 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | シルト | 炭化物を少量含む。しまり強い。 |
| 2a | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土を斑状に含む。しまりやや強い。 |
| 2b | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト | 炭化物・焼土・褐色粘土粒を少量含む。しまりやや強い。 |
| 3 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | シルト | 炭化物粒を少量含む。黄褐色粘土をブロック状にやや多量に含む。しまりやや強い。 |
| 4a | 黒褐色 | (10YR3/1) | シルト | 炭化物・にぶい赤褐色粘土粒を少量含む。しまりやや強い。 |
| 4b | 黒褐色 | (10YR3/1) | シルト | 炭化物・にぶい赤褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや強い。 |
| 5 | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト | 炭化物・焼土粒を少量、黄褐色粒を多量に含む。しまりやや強い。 |
| 6 | 黒褐色 | (10YR3/3) | シルト | 炭化物を多量に含む。黄色褐色粘土小ブロックを含む。しまりやや強い。 |
| 7 | 黒褐色 | (10YR3/1) | シルト | 炭化物を少量含む。黄褐色粘土粒を含む。しまりやや弱い。 |
| 8a | 褐色 | (10YR4/4) | 粘質シルト | 炭化物を多量に含む。黄褐色粘土粒・小ブロックをやや多量含む。しまりやや弱い。 |
| 8b | 褐色 | (10YR4/4) | 粘質シルト | 黄褐色粘土粒・小ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。 |
| 9a | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。しまりやや弱い。湿性ややあり。 |
| 9b | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 粘質シルト | 炭化物、褐色・黄褐色粘土小ブロックを少量含む。しまり弱い。 |
| 10a | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・褐色粘土粒をやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性ややあり。 |
| 10b | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物を多く含む。褐色粘土粒を含む。しまりやや弱い。湿性ややあり。 |
| 11 | にぶい黄橙色 | (10YR6/3) | 粘土 | 黒色粘土小ブロックを含む。酸化鉄分を縞状に含む。しまりやや強い。湿性ややあり。根太木痕跡。 |
| 12 | 褐色 | (10YR4/6) | 粘土 | 黒色・黒褐色粘土の中ブロックを多く含む。しまり強い。湿性ややあり。貼床土。 |
| 13 | 褐色 | (10YR4/6) | 粘土 | 黒色・黒褐色粘土の小・中ブロックを多く含む。しまり強い。湿性ややあり。貼床土。 |
| 14 | 褐色 | (10YR4/6) | シルト質粘土 | 黒褐色粘土の小・中ブロックをやや多く含む。しまりやや弱い。湿性あり。貼床土。 |
| 15 | オリーブ褐色 | (10YR4/6) | 粘土 | しまりやや弱い。湿性ややあり。 |
| 16 | オリーブ褐色 | (10YR4/6) | 粘土 | 黒褐色粘土の小ブロックをやや多く含む。しまりやや弱い。湿性あり。 |

**第 46 図　SK01**

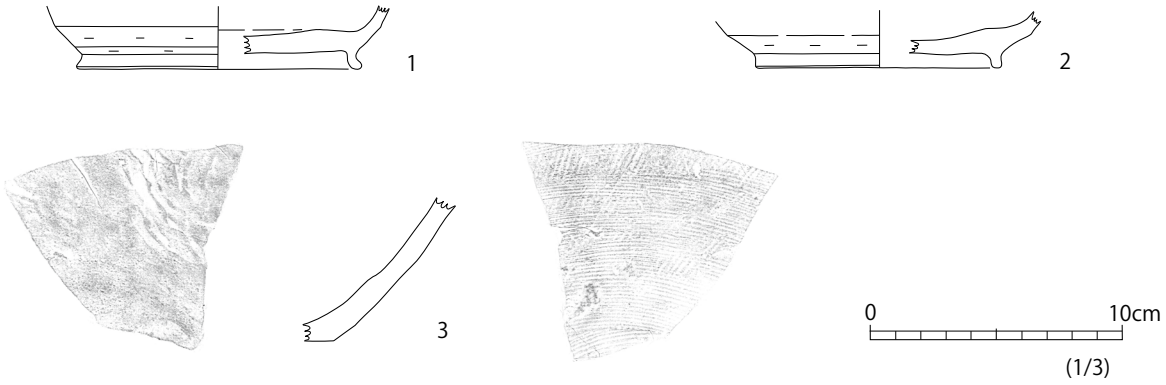



SK02 土層注記

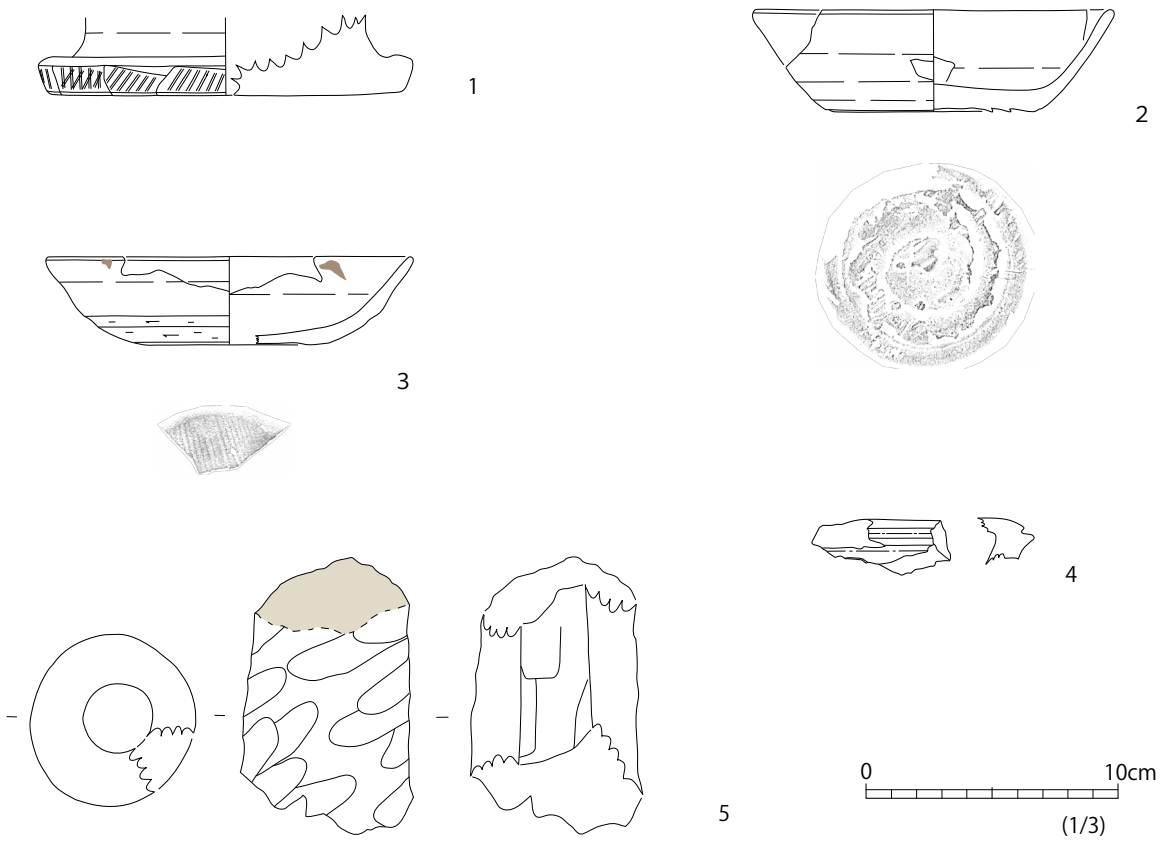
| 層№ | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を多量に含む。黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色・黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 3 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。褐色・黒褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性ややあり。 |
| 4 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 5 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 炭化物を多量に含む。焼土粒・小礫・褐色粘土小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性ややあり。 |
| 6 | 暗褐色 | (10YR3/4) | シルト | 炭化物を少量含む。焼土粒・褐色粘土小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 7 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性ややあり。 |
| 8 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 9 | 暗褐色 | (10YR3/4) | シルト質粘土 | 炭化物を多量に含む。焼土粒を少量含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性あり。 |

**第 47 図　SK02**



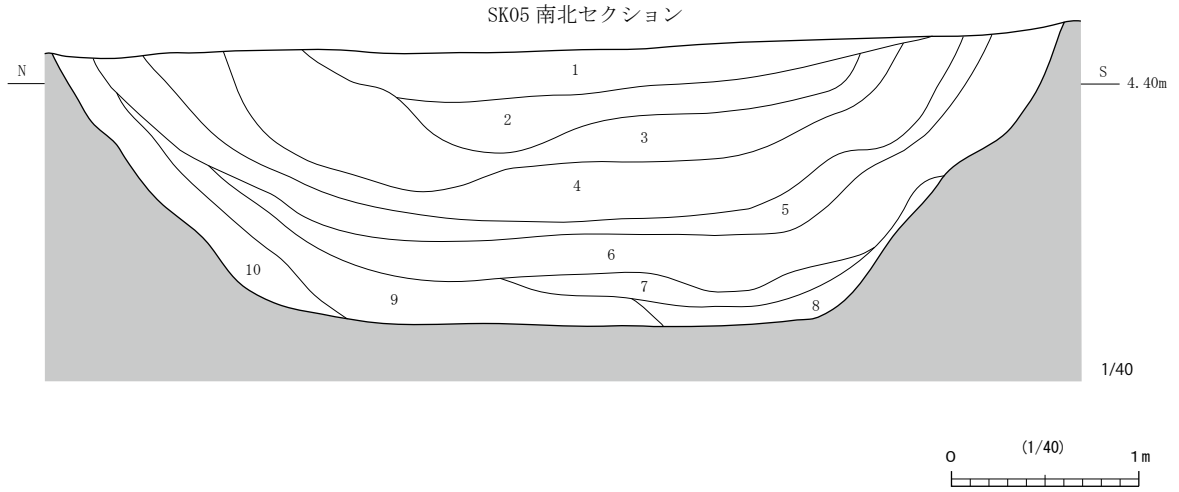

| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　　面 | 内　　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 南側・堆積土 | 須恵器 | 高台坏 | ロクロナデ－回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 底部破片 | － | (11.2) | － | |
| 2 | 南側・堆積土 | 須恵器 | 高台坏 | ロクロナデ－回転ヘラケズリ | ロクロナデ | 底部破片 | － | (9.7) | － | |
| 3 | 南側・堆積土 | 須恵器 | 甕 | 平行叩き目・カキ目 底面 回転糸切り離し無調整 | 同心円文叩き目・ナデ | 底部破片 | － | (14.0) | － | |

第 48 図　SK01 出土遺物




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　　面 | 内　　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 南側・堆積土 | 土師器 | 捏鉢 | ヨコナデ－平行叩き目 | 不明 | 底部破片 | － | (14.1) | － | 9-4 |
| 2 | 南側・堆積土 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ　底部回転ヘラ切り無調整 | ロクロナデ | 全体1/2 | (14.2) | 8.0 | 4.1 | 9-5 |
| 3 | 南側・堆積土 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ－回転ヘラケズリ　底部静止糸切り無調整 | ロクロナデ | 全体1/4 | (14.5) | (6.6) | 3.5 | 9-6 |
| 4 | 南側・堆積土 | 須恵器 | 円面硯？ | ロクロナデ　脚部透かし | ロクロナデ | 陸～脚部破片 | － | － | － | 9-7 |
| 5 | 南側・堆積土 | 土製品 | 羽口 | ナデ　径6.6cm | ナデ・ヘラナデ　内孔径2.8cm | 破片 | － | － | － | 9-8 |

第 49 図　SK02 出土遺物




SK05 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト | 炭化物・焼土粒を多量に含む。土師器粒～小片を多量に含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 3 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色・黒褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 4 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 5 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量に含む。褐色・黒褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 6 | 暗褐色 | (10YR3/3) | シルト質粘土 | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまり強い。粘性あり。 |
| 7 | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト質粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまり強い。粘性あり。 |
| 8 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや強い。粘性あり。 |
| 9 | 灰黄褐色 | (10YR4/2) | シルト | 炭化物(灰の層)をやや多量に含む。褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 10 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまり強い。粘性なし。 |

**第 50 図　SK05 土層断面図**

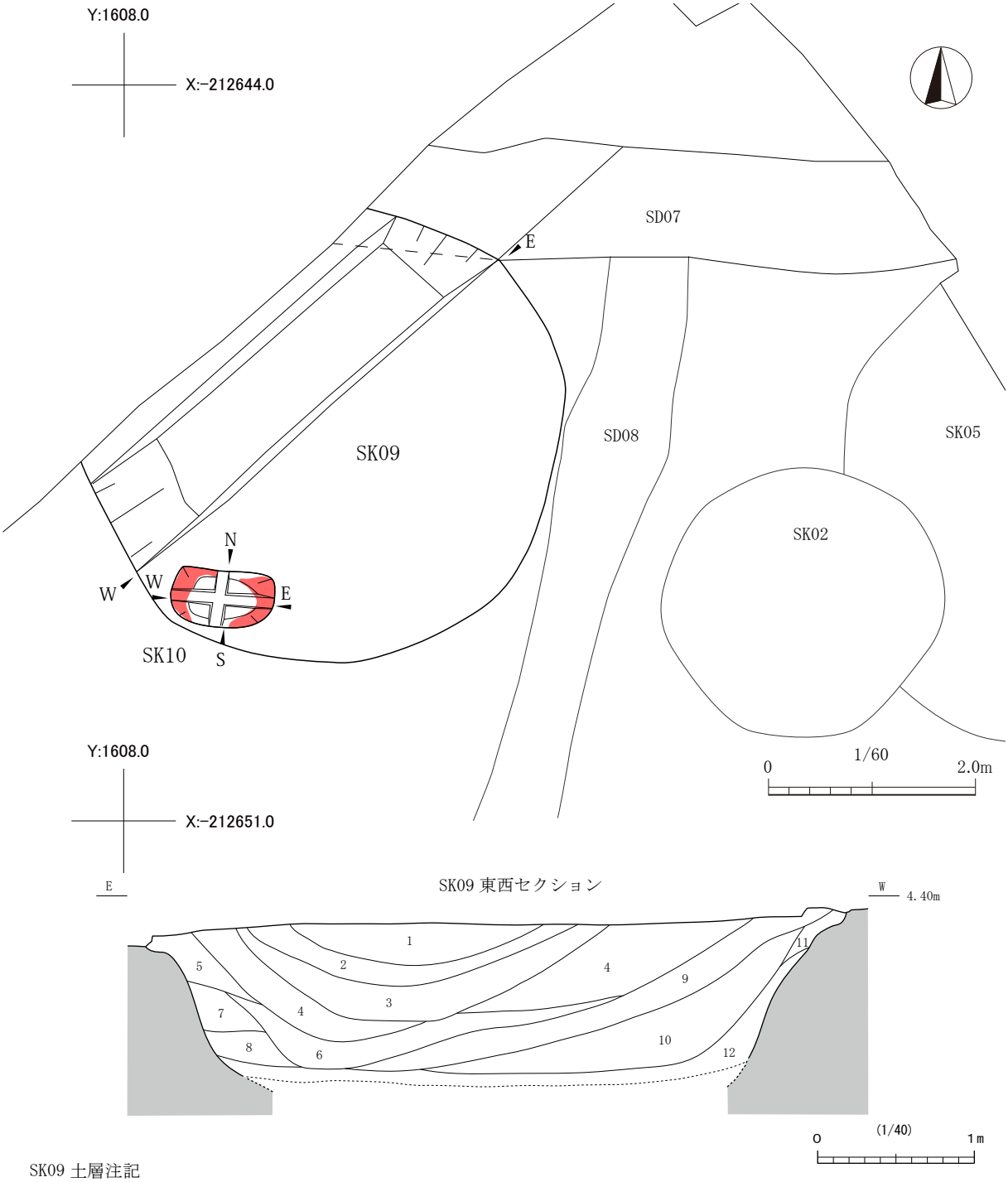
本層第Ⅷ層では、荷重を受けた柱当たりの部分が同様の色調に変色していることから、これらは貼床の上でさらに床板を敷くにあたって設置した根太木の痕跡であるとみられる。各根太木痕跡の南端に接するように、直径 10 ㎝ほどの杭を打ち込んだ痕跡も認められており、壁板の設置、あるいは簡易的な屋根のような設備が存在していた可能性も考慮できる。堆積土は 21 層に分層でき、土層観察の結果から８～ 10 層は自然堆積で、そのほかは人為堆積とみられる。

遺物は第 48 図１に図示した須恵器高台坏・甕のほか、非ロクロ成形の土師器坏・甕、須恵器瓶類がごく少量出土している。SI04、SD08 との重複関係から、本遺構は８世紀後半頃の年代観が考えられる。

【SK02】(第 47 図)

Ⅰ区北東部に位置する。南側で掘り下げを行っている。SI04、SK05 と重複関係にあり、これらより新しい。平面形状は円形で、規模は長軸 2.68 ｍ、短軸 2.58 ｍを測る。断面形状は逆台形であり、確認面からの深さは 68 ㎝を測る。堆積土の中で特に５・６層では大量の炭化物と焼土粒が出土している。これらを含めて堆積土は９層に分層でき、すべて人為堆積である。

遺物は第 49 図に図示した１の須恵器捏鉢、２・３の坏、４の不明須恵器、５の土製品の羽口のほか、非ロクロ成形の土師器坏・高坏・壺、ロクロ成形の土師器坏、須恵器坏・蓋・甕が出土している。図示していないロクロ成形の土師器坏は、静止糸切後に底部外縁を弱い回転ヘラケズリを施している。図示した遺物の年代観などから、本遺構は８世紀後半頃の年代観が考えられる。



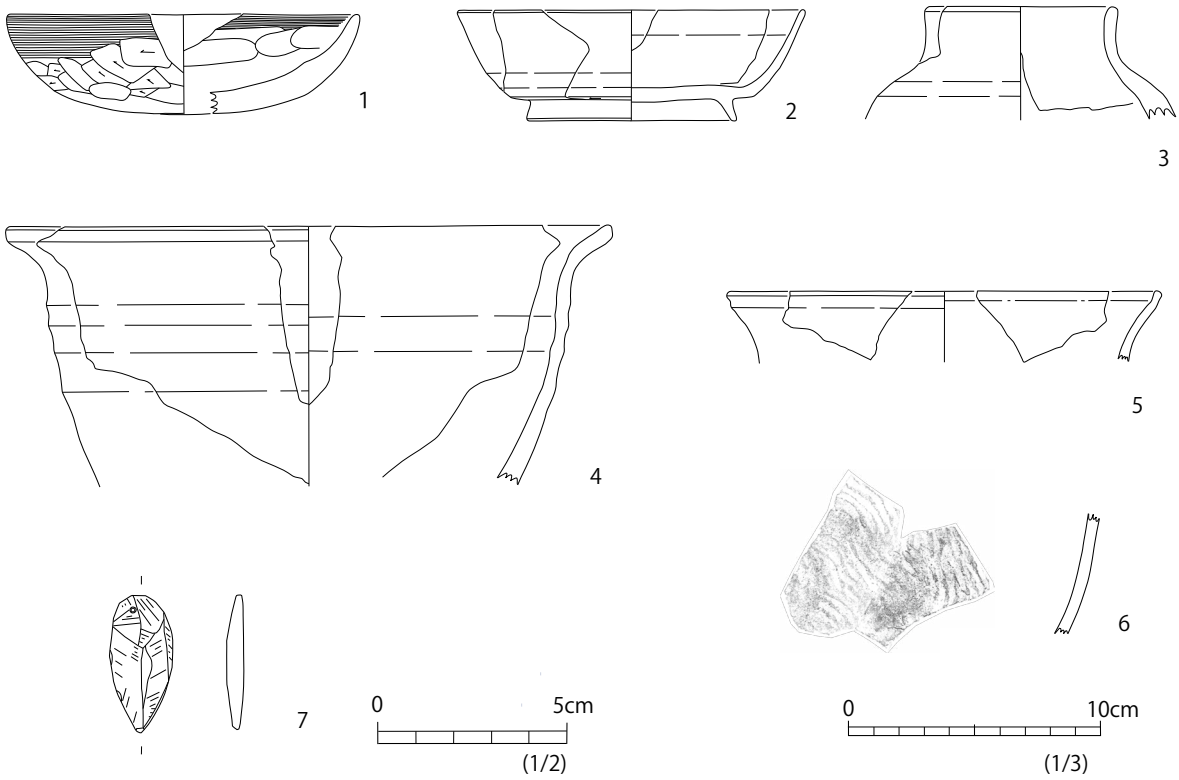




SK09 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色・黒褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性あり。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/4) | シルト | 炭化物・焼土粒を少量に含む。褐色・黒褐色・灰白色火山灰を少量含む。しまり強い。粘性ややあり。 |
| 3 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色・黒褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性あり。 |
| 4 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐色・黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 5 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量に含む。褐色・黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性あり。 |
| 6 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒・灰白色火山灰を少量含む。褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。 |
| 7 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物・灰白色火山灰を少量含む。褐色・黒褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまり強い。 |
| 8 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 焼土粒を少量含む。褐色・黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 9 | 黒褐色 | (10YR3/2) | シルト | 炭化物を少量に含む。褐色粘土を層状に含む。黒褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまり強い。 |
| 10 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。褐灰色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまり強い。粘性ややあり。 |
| 11 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物、褐色・黒褐色粘土を少量含む。褐色粘土の小ブロックを少量に含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 12 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物、褐色・黒褐色粘土の小ブロックを少量含む。褐灰色粘土の小ブロックを多量に含む。 |

**第 51 図　SK09**




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 西側・下層 | 土師器 | 坏 | ヨコナデ－ヘラナデ・ナデ | ヨコナデ－ナデ | 全体1/4 | (14.0) | － | (4.0) | 10-1 |
| 2 | 西側・下層 | 須恵器 | 高台坏 | ロクロナデ・ヘラナデ | ロクロナデ | 全体1/2 | (13.8) | (8.3) | 4.4 | 10-2 |
| 3 | 西側・堆積土 | 須恵器 | 短頸壺 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口縁部破片 | (7.6) | － | － | |
| 4 | 西側・堆積土 | 須恵器 | 鉢 | ロクロナデ　体部下半に平行叩き目 | ロクロナデ | 口縁～体部破片 | (24.0) | － | － | |
| 5 | 西側・堆積土 | 須恵器 | 甕 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口縁部破片 | (17.2) | － | － | |
| 6 | 西側・堆積土 | 須恵器 | 甕 | 平行叩き目 | 青海波文叩き目 | 体部破片 | － | － | － | |
| 7 | 西側・上層 | 石製模造品 | 剣形 | 両面に擦痕、表面中央に稜線。長さ3.6cm、幅1.6cm、穿孔径1.5mm。石質滑石。 | | 完形 | － | － | － | |

**第 52 図　SK05 出土遺物**

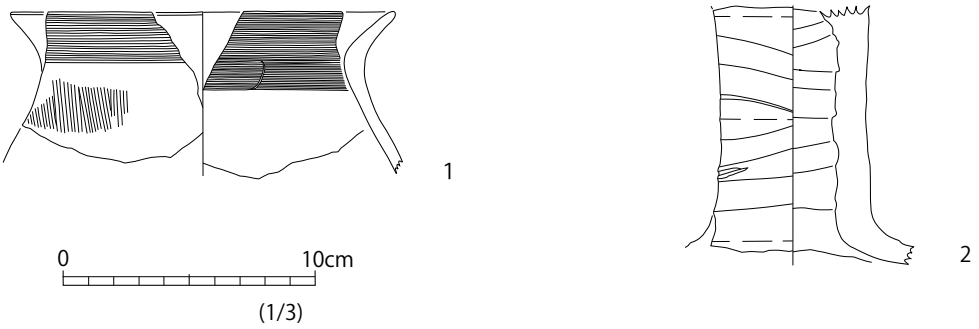
【SK05】（第 47・50 図）

Ⅰ区北東部に位置する。中央付近で掘り下げを行っている。SK02 と重複関係にあり、これより古い。本遺構の東側は調査区外へ広がるために平面形状は不明であるが、検出範囲から推定すると円形、もしくは楕円形を呈するとみられる。確認した範囲での規模は長軸 5.06 m、短軸 2.65 m以上を測る。断面形状は逆台形であり、確認面からの深さは 148 cmを測る。堆積土の中で特に１・２層では大量の炭化物と焼土粒とともに、土師器・須恵器などの遺物が多く出土している。これらを含めて堆積土は 10 層に分層でき、１・２層が人為堆積、そのほかは自然堆積である。

遺物は第 52 図に図示した１の非ロクロ成形土師器坏、２の須恵器高台坏、３の短頸壺、４・５の鉢、６の甕、７の石製模造品のほか、非ロクロ成形の土師器甕、須恵器坏・蓋・甕・短頸壺が出土している。このうち１の坏は関東系土師器である。５・６は極めて硬質であり、また器壁は薄い。図示した遺物の年代観では２は８世紀半ばから後半頃の年代観が考えられるが、下層から出土した１の年代観から本遺構は８世紀前半頃と考えられる。

【SK09】（第 51 図）

Ⅰ区北部東寄りに位置する。中央付近の一部で掘り下げを行っている。SD07、SK07 と重複関係に




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 北側・堆積土 | 土師器 | 壺 | ヨコナデ－ハケメ | ヨコナデ－ヘラナデ | 口縁～体部破片 | (15.2) | － | － | |
| 2 | 北側・堆積土 | 須恵器 | 高盤 | ロクロナデ－ナデ | ロクロナデ－ヘラナデ | 脚部破片 | － | － | － | 10-3 |

**第 53 図　SK09 出土遺物**

あり、これらより古い。本遺構の北西側は調査区外へ広がるために平面形状は明確ではないが、検出範囲から推定すると円形を呈するとみられる。確認した範囲での規模は長軸 4.66 m、短軸 3.55 m以上を測る。確認面から 104 ㎝まで掘り下げを行ったが、調査中の大雨によって壁面が崩落する危険性が生じたことから底面までの完掘は断念した。このため断面形状については不明であるが、前述の SK05 と同様に逆台形である可能性が高いとみられる。堆積土は 12 層に分層でき、１～３・６層が人為堆積、そのほかは自然堆積である。

遺物は第 53 図に図示した１の非ロクロ成形土師器甕、２の須恵器高盤のほか、非ロクロ成形の土師器坏・壺、須恵器坏・高台坏・甕・蓋が出土している。２の高盤の脚部は内面が非常に厚いものである。図示していない土師器壺の口唇部は玉縁状である。また須恵器蓋はカエリを有するものである。これらの遺物の年代観から、本遺構は７世紀後半頃の年代観が考えられる。

**第６表　大型土坑属性表**

| 遺構名 | 平面形 | 断面形 | 規模（cm） | | | 堆積土の状況 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | |
| SK01 | 隅丸方形 | 逆台形 | 332 | 320 | 90 | 人為 | 非ロクロ成形土師器坏・甕、須恵器瓶・甕 | SI04、SD08 より新<br>底面に貼床、根太木痕、杭跡 |
| SK02 | 円形 | 逆台形 | 268 | 258 | 68 | 人為 | 非ロクロ成形土師器坏・高坏・壺、ロクロ成形土師器坏、須恵器坏・蓋・擂鉢・甕・不明製品、土製品羽口 | SI04、SK05 より新<br>5・6 層に大量の炭化物・焼土粒を含む |
| SK05 | 円形？ | 逆台形 | 506 | 265 | 148 | 1・2 は人為、その他は自然堆積 | 非ロクロ成形土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・短頸壺・鉢・甕 | SK02 より古 |
| SK09 | 不明 | — | 466 | (355) | (104) | 1・3・9 は人為、その他は自然 | 非ロクロ成形土師器坏・壺・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・高盤・甕 | SD07、SK10 より古 |

**ｆ．溝跡**

【SD01】（第６・54 図）

Ⅰ区西部に位置する南北溝である。中央より南側で掘り下げを行っている。SI01、小溝状遺構群と重複関係にあり、これらより新しい。本遺構の北側、及び南側は調査区外へさらに延びるが、調査区内での総検出長は 14.80 ｍで、主軸方位は真北から３° 西へ傾く。上幅 1.34 ｍ前後、底面幅は 0.32 ｍ前後であり、断面形状は西側が緩やかに立ち上がる逆台形である。底面は比較的平坦であるが、緩やかに南側へ傾斜している。なお、底面には溝を開削した際の工具痕がみられることから、短期間のうちに大部分を埋め戻した可能性がある。堆積土は 11 層に分層でき、すべて人為堆積である。

遺物は第 55 図に図示した１の非ロクロ成形土師器坏、２～４の須恵器坏、５の小型甕、６の壺のほか、非ロクロ成形の土師器高坏、ロクロ成形の土師器坏・甕、須恵器坏・鉢・蓋が出土している。２の須恵器外底面には「土」とみられる墨書があり、県内では仙台市五本松窯跡（仙台市教委 1987）出土の記号瓦､多賀城跡出土の文字瓦･墨書土器（宮多賀城研 1979･1980）に類例が求められる（註２）。また本遺跡内に存在が推定される契機となった「玉前剝」名が記された木簡にも同様の使用例が認められる（宮多賀城研 1985・2013）。なお、図示した須恵器坏は回転糸切のち未調整が多いが、図示を見送ったものにはヘラギリのち手持ちヘラケズリが施されるもの、静止糸切で未調整のもの、回転糸切後に手持ちヘラケズリを施すものなども含まれている。図示した遺物の年代観から、本遺構は９世紀後半頃の年代観が考えられる。

【SD02】（第６・54 図）

Ⅰ区中央北部に位置する溝である。SI02、SD03、小溝状遺構群と重複関係にあり、これらより新しい。本遺構の北側は調査区外へさらに延びるが、調査区内での総検出長は 7.24 ｍである。東側から中間ほどで緩やかに屈曲して北へ向かうという弧状を呈するため、主軸方位の計測はできない。上幅 0.42 ｍ前後、底面幅は 0.30 ｍ前後であり、断面形状は皿形である。底面は比較的平坦であるが、緩やかに北側へ傾斜している。堆積土は１層であり、自然堆積である。

遺物は非ロクロ成形の土師器甕、ロクロ成形の土師器坏、須恵器坏・甕が出土しているが、小片のため図示できなかった。この中でロクロ土師器の坏は回転糸切後に底部全面でヘラケズリを施しているものが含まれていることから、８世紀末葉～９世紀前半頃の年代観が考えられる。

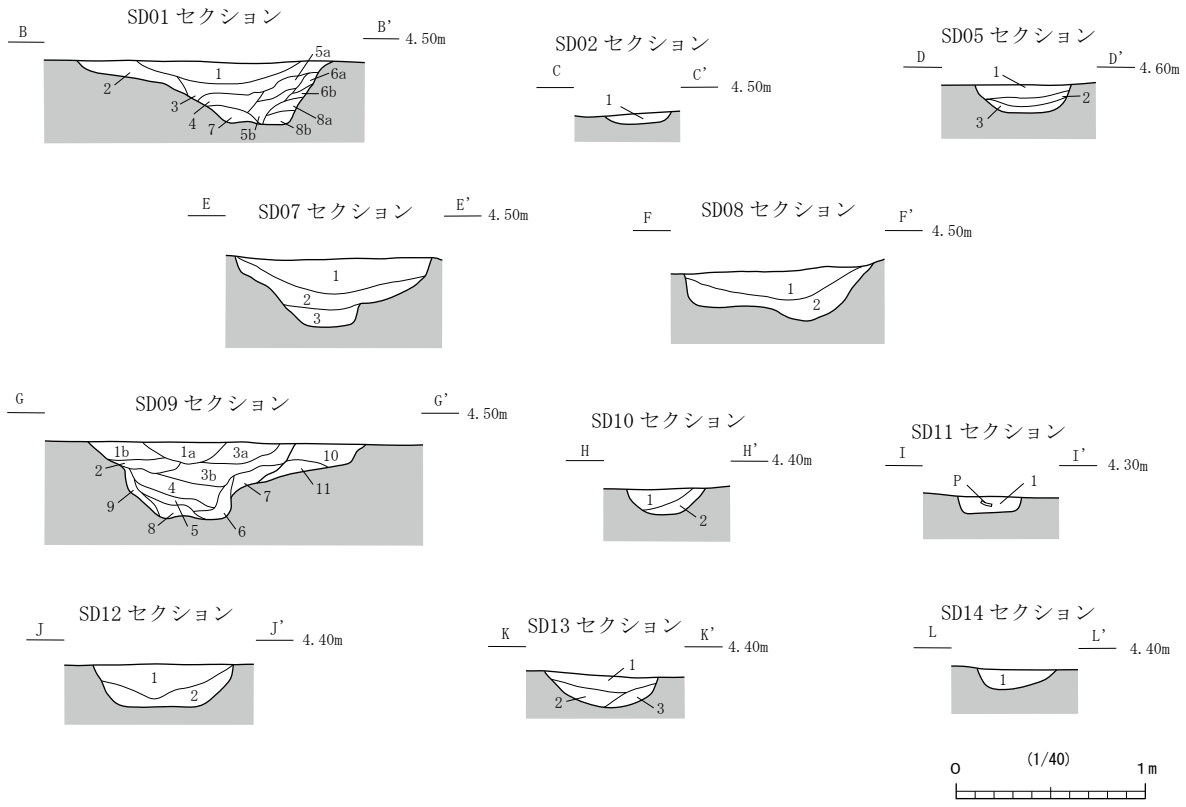
【SD03・04・05】（第６・54 図）

Ⅰ区西部に位置する南北溝である。部分的に途切れるが、走方向や規模・堆積土が共通しており、本来は一連の遺構として機能していた可能性が高い。小溝状遺構群とピット２ロと重複関係にあり、小溝状遺構群よりは新しく、ピットより古い。本遺構の北、及び南側は調査区外へさらに延びるが、調査区内での総検出長は 22.70 ｍで、主軸方位は真北から５° 西へ傾く。上幅 0.40 ～ 0.66 ｍ前後、底面幅は 0.28 ～ 0.45 ｍ前後であり、断面形状はU字状である。底面は比較的平坦であるが、緩やかに南側へ傾斜している。堆積土は最も多い箇所では３層に分層でき、すべて自然堆積である。

遺物は第 55 図７に図示した須恵器坏が出土したのみである。図示した遺物の年代観から、本遺構は８世紀末～９世紀初頭頃の年代観が考えられる。

【SD07】（第６・54 図）

Ⅰ区北東部に位置する東西溝である。SK09、SD08 と重複関係にあり、これらより新しい。本遺構の東側、及び西側は調査区外へさらに延びるが、調査区内での総検出長は 5.18 ｍで、主軸方位は真




SD01 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・にぶい黄褐色シルト粒を多量に含む。しまりやや強い。 |
| 2 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 酸化鉄分を斑状に多く混入する。しまり強い。 |
| 3 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 砂質シルト | 炭化物・にぶい黄褐色シルト粒を少量含む。しまりやや強い。 |
| 4 | 褐灰色 | (10YR4/1) | 砂質シルト | 炭化物を少量含む。酸化鉄分を斑状に多く含む。しまりやや強い。 |
| 5a | 黄灰色 | (2.5Y5/1) | 砂質シルト | 酸化鉄分をやや多量に含む。しまりやや弱い。 |
| 5b | 黄灰色 | (2.5Y5/1) | 砂質シルト | 酸化鉄分を多量に含む。しまりやや弱い。 |
| 6a | 褐灰色 | (10YR5/1) | 砂質シルト | 酸化鉄分をやや多量に含む。しまりやや弱い。 |
| 6b | 褐灰色 | (10YR5/1) | 砂質シルト | 酸化鉄分を少量含む。しまりやや弱い。粘性強い。 |
| 7 | 灰色 | (5Y5/1) | 粘質砂 | 黄褐色・黒褐色粘土の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。 |
| 8a | 黄灰色 | (2.5Y5/1) | 粘質砂 | にぶい黄褐色粘土小ブロックをやや多量含む。しまりやや強いい。 |
| 8b | 黄灰色 | (2.5Y5/1) | 粘質砂 | にぶい黄褐色粘土小ブロックを多量に含む。しまりやや強い。 |

SD02 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR2/2) | シルト | 炭化物・焼土粒を極く少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性なし。 |

SD05 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘土 | 褐色粘土の小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 3 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘土 | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |

SD07 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 黒褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。にぶい黄褐色シルトを微量含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 黒褐色粘土・にぶい黄褐色シルトの小ブロックを少量含む。しまり強い。粘性ややあり。 |
| 3 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性あり。 |

SD08 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 砂質シルト | 黒褐色粘土の小ブロックをやや少量に含む。しまり強い。粘性なし。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 焼土粒を少量含む。黒褐色・褐色粘土の小ブロックを多量に含む。しまり強い。粘性ややあり。 |

**第 54 図　溝跡土層断面図**

SD09 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1a | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を少量含む。灰白色・褐色粘土粒を多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 1b | 暗褐色 | (10YR3/3) | 粘質シルト | 炭化物を少量含む。褐色粘土粒を少量含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | にぶい黄褐色粘土の大ブロックを多量に含む。しまりややなし。湿性・粘性ややあり。 |
| 3a | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 焼土粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 3b | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・褐色粘土粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR2/2) | 粘質シルト | 炭化物・褐色粘土粒を少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 5 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 砂質シルト | 褐色粘土の小ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 6 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 褐色粘土の小・中ブロックを多量に含む。しまり弱い。湿性・粘性あり。 |
| 7 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 炭化物を少量含む。褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 8 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 褐色粘土の大ブロックを多量に含む。しまり弱い。湿性・粘性あり。 |
| 9 | 黒褐色 | (10YR2/2) | 粘土 | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまり弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 10 | 黒褐色 | (10YR2/3) | 粘質シルト | 褐色粘土の小・中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 11 | 黒褐色 | (10YR2/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の中・大ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |

SD10 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土粒の中ブロックをやや多量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 褐色粘土の大ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

SD11 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘質シルト | 褐色粘土粒を少量に含む。しまりやや強い。湿性・粘性ややなし。 |

SD12 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘土 | 褐色粘土粒を下方にやや少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性あり。 |

SD13 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘土 | 褐色粘土の小・中ブロックをやや多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘土 | 褐色粘土の小ブロックをやや少量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/1) | 粘土 | 褐色粘土の中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

SD14 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒色 | (10YR2/1) | 粘土 | 褐色粘土粒を多量に含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |
| 2 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘土 | 黒褐色粘質シルトの小～大ブロックをやや少量含む。しまりやや弱い。湿性・粘性ややあり。 |

北から 89° 西へ傾く。上幅 1.04 m前後、底面幅は 0.25 m前後であり、断面形状は南側が１段低くなる不定形を呈する。底面は比較的平坦であるが、緩やかに西側へ傾斜している。底面の一部には溝を開削した際の工具痕がみられたことから、SD01 同様に短期間のうちに大部分を埋め戻した可能性がある。堆積土は３層に分層でき、すべて人為堆積である。なお、本遺構は第１次調査 SD12、第３次調査 SD14 の延長線上に存在することから、同一遺構である可能性が高い。

遺物は非ロクロ成形の土師器甕、ロクロ成形の土師器甕が出土しているが、小片のため図示できなかった。しかしながら、ロクロ土師器甕の出土から本遺構は８世紀後半以降の年代観が考えられる。

【SD08】（第６・54 図）

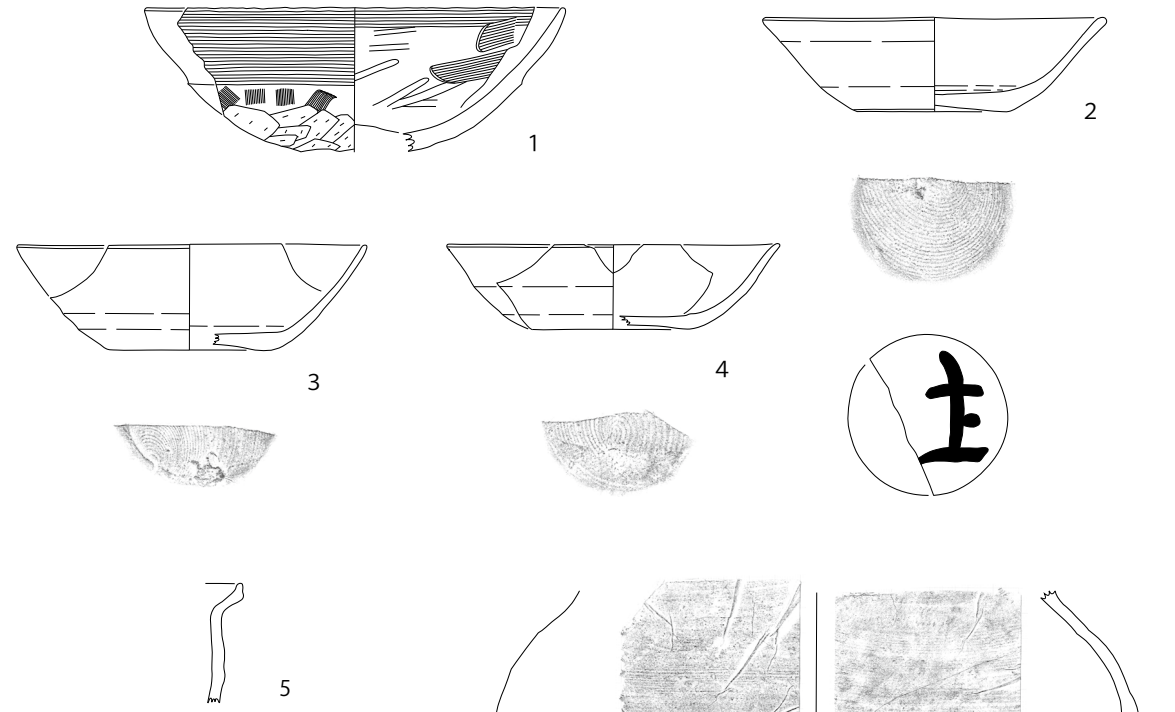
Ⅰ区北東部に位置する南北溝である。SI04、SK02、SD07 と重複関係にあり、SK02、SD07 より古く、SI04 より新しい。総検出長は 6.00 mで、主軸方位は真北から 14° 東へ傾く。上幅 0.63 m前後、底面幅は 0.49 m前後であり、断面形状は不定形を呈する。底面は比較的平坦であるが、中央付近が窪んでいる。堆積土は２層に分層でき、すべて人為堆積である。

遺物は出土していないが SI04、SK01、SD07 との重複関係から８世紀前半頃の年代観が考えられる。

【SD09】（第７・54 図）

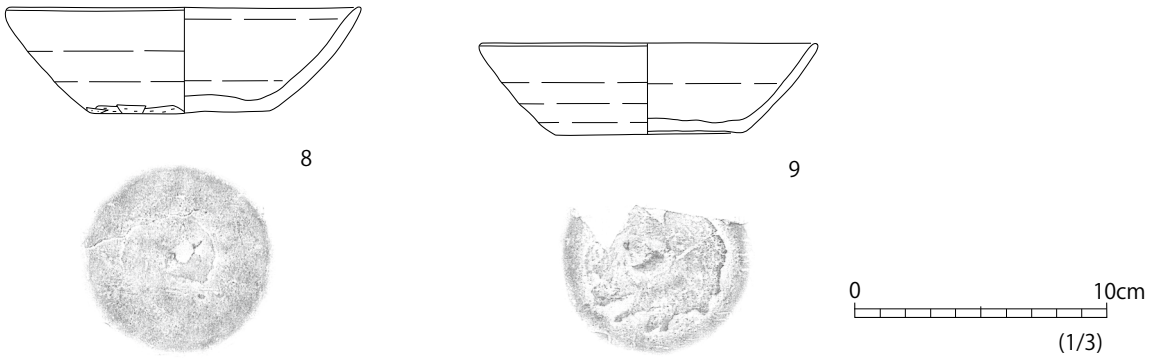
Ⅱ区中央部に位置する東西溝である。SI19、SD12 と重複関係にあり、これらより新しい。本遺構

SD01




SD04

SD09




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | SD01南側・下層埋土 | 土師器 | 坏 | 有段、ヨコナデ－ハケメ－ヘラケズリ | ヨコナデ・ヘラナデ－ヘラミガキ | 全体の1/4 | (16.7) | － | 5.7 | |
| 2 | SD01南側・下層埋土 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ　底部回転糸切り離し後無調整　墨書 底面「土」 | ロクロナデ | 全体の1/2 | 13.6 | 6.0 | 3.7 | 10-5・6 |
| 3 | SD01南側・埋土 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ　底部回転糸切り離し後無調整 | ロクロナデ | 全体の1/5 | (13.8) | (6.4) | 4.2 | |
| 4 | SD01南側・埋土 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ　底部回転糸切り離し後端部ナデ調整 | ロクロナデ | 全体の1/6 | (13.2) | (6.5) | 3.4 | |
| 5 | SD01南側・埋土 | 須恵器 | 小型甕 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口縁部破片 | － | － | － | |
| 6 | SD01南側・下層埋土 | 須恵器 | 壺 | ロクロナデ・平行叩き目・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラナデ | ヘラナデ・ハケメ | 体部破片 | － | － | － | |
| 7 | SD04・堆積土 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ　底部回転ヘラ切り離し後ナデ調整 | ロクロナデ | 全体の1/12 | (13.2) | (5.4) | 3.8 | |
| 8 | SD09西側・埋土 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ－ヘラケズリ　底部回転ヘラ切り離し後ヘラナデ調整 | ロクロナデ | 全体の4/5 | 14.1 | 7.1 | 4.2 | 10-4 |
| 9 | SD09西側・埋土 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ　底部回転ヘラ切り離し後ナデ調整 | ロクロナデ | 全体の2/3 | 13.4 | 7.5 | 3.6 | 10-7 |

第 55 図　SD01･04･09 出土遺物

の東側、及び西側は調査区外へさらに延びるが、調査区内での総検出長は 11.56 ｍで、主軸方位は真北から 69° 東へ傾く。上幅 1.02 ｍ前後、底面幅は 0.40 ｍ前後であり、断面形状は南側が１段低くなる不定形を呈する。底面は比較的平坦であるが、緩やかに西側へ傾斜している。底面の一部には溝を開削した際の工具痕がみられたことから、SD01 同様に短期間のうちに大部分を埋め戻した可能性がある。堆積土は 13 層に分層でき、すべて人為堆積である。

遺物は第 55 図８・９に図示した須恵器坏のほか、ロクロ土師器坏、須恵器坏・甕が出土している。８・９はともに底部へラギリ後にヘラナデ・ナデ調整が施されているが、図示を見送った遺物には回転糸切後に体部下端や底部に手持ちヘラケズリを施したものもみられる。ロクロ土師器坏では底部回転糸切後にヘラケズリが施されるものと未調整のものが含まれる。図示した遺物などの年代観から、本遺構は８世紀後半～９世紀前半頃の年代観が考えられる。

【SD10】（第７・54 図）

Ⅱ区中央部北寄りに位置する東西溝である。SD11 と重複関係にあり、これより新しい。また東側の一部を攪乱により失う。本遺構の西側は調査区外へさらに延びるが、調査区内での総検出長は 8.50 ｍで、主軸方位は真北から 85° 東へ傾く。上幅 0.48 ｍ前後、底面幅は 0.35 ｍ前後であり、断面形状はU字状である。底面は比較的平坦であるが、緩やかに西側へ傾斜している。堆積土は２層に分層でき、すべて自然堆積である。

遺物は非ロクロ成形の土師器甕が出土しているが、小片のため図示できなかった。本遺構の年代観は、後述する SD11 の年代観から９世紀前半以降と考えられる。

【SD11】（第７・54 図）

Ⅱ区北東部から西側中央部に延びる南北溝である。SI19、SD10・13・14 と重複関係にあり、SD10 より古く、SI19、SD13・14 より新しい。本遺構の北側、及び南側は調査区外へさらに延びるが、調査区内での総検出長は 18.00 ｍで、主軸方位は真北から 21° 西へ傾く。上幅 0.50 ｍ前後、底面幅は 0.28 ｍ前後であり、断面形状は北側では皿形、南側では箱形を呈する。底面では凹凸がみられるが、全体としては緩やかに北側へ傾斜している。なお、底面の凹凸については当初材木塀の可能性を考えたが、調査範囲内では明確な抜取痕跡は確認できていない。堆積土は北側の土層断面図を作成した箇所では１層のみであるが、南側の観察箇所では３層に分層でき、すべて人為堆積である。

遺物は非ロクロ成形の土師器坏・甕、ロクロ成形の土師器坏、須恵器坏・短頸壺・甕が出土しているが、いずれも小片のため図示できなかった。なお、図示は見送ったがロクロ土師器坏は内弯気味に立ち上がり、体部下半と底部外縁をヘラケズリしたものであることから、本遺構は８世紀末葉～９世紀前半頃の年代観が考えられる。

【SD12】（第７・54 図）

Ⅱ区中央部南寄りに位置する南北溝である。SD09 と重複関係にあり、これより古い。確認した総検出長は 4.30 ｍで、主軸方位は真北から 27° 西へ傾く。上幅 0.90 ｍ前後、底面幅は 0.70 ｍ前後であり、断面形状は逆台形である。底面は比較的平坦であるが、中央付近が窪んでいる。堆積土は２層に分層でき、すべて自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SD13】（第７・54 図）

Ⅱ区中央部北寄りに位置する東西溝である。SI19、SD11 と重複関係にあり、SD11 より古く、SI19

より新しい。本遺構の西側は調査区外へさらに延びるが、調査区内での総検出長は 4.20 ｍで、主軸方位は真北から 89° 東へ傾く。上幅 0.60 ｍ前後、底面幅は 0.44 ｍ前後であり、断面形状はＵ字状である。底面は比較的平坦であるが、緩やかに西側へ傾斜している。堆積土は３層に分層でき、すべて人為的埋土である。

遺物は非ロクロ成形の土師器甕、須恵器甕が出土しているが、いずれも小片のため図示できなかった。

【SD14】（第７・54 図）

Ⅱ区中央部北寄りに位置する東西溝である。SI19、SD11 と重複関係にあり、SD11 より古く、SI19 より新しい。本遺構の西側は調査区外へさらに延びるが、調査区内での総検出長は 3.70 ｍで、主軸方位は真北から 75° 東へ傾く。上幅 0.38 ｍ前後、底面幅は 0.25 ｍ前後であり、断面形状はＵ字状である。底面は比較的平坦であるが、緩やかに西側へ傾斜している。堆積土は１層で、人為的埋土である。

遺物は非ロクロ成形の土師器甕が出土しているが、小片のため図示できなかった。

**第７表　溝跡属性表**

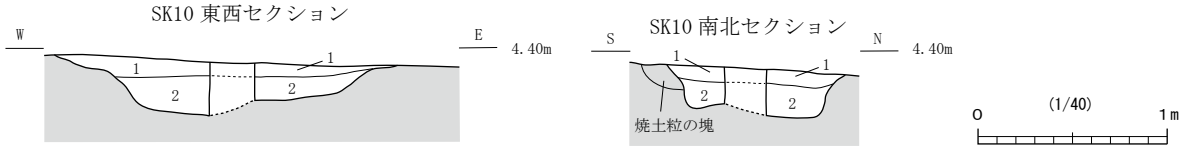
| 遺構名 | 検出長（m） | 断面形 | 規模（cm） | | | 方向 | 堆積土 | 出土遺物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上幅 | 下幅 | 深さ | | | | |
| SD01 | 14.80 | 西側が緩やかに立ち上がる逆台形 | 134 | 32 | 32 | N-3-W | 人為的埋土 | 非ロクロ土師器坏・高坏、ロクロ成形土師器坏・甕、須恵器坏・鉢・蓋・壺・甕 | SI01、小溝状遺構群より新<br>底面に掘削時の工具痕 |
| SD02 | 7.20 | 皿形 | 42 | 30 | 8 | 弧状のため計測不可 | 人為的埋土 | 非ロクロ成形土師器甕、ロクロ成形土師器甕、須恵器坏・甕 | SI02、SD03 より新 |
| SD03 ～ 05 | 22.70 | Ｕ字状 | 40 ～ 66 | 28 ～ 45 | 16 | N-5-W | 自然堆積 | 須恵器坏 | 小溝状遺構群より新<br>P76 より古 |
| SD07 | 5.18 | 南側が１段低くなる不定形 | 104 | 25 | 36 | N-89-W | 人為的埋土 | 非ロクロ成形土師器甕、ロクロ成形土師器甕 | SK09、SD08 より新<br>底面に掘削時の工具痕 |
| SD08 | 6.00 | 不定形 | 63 | 49 | 26 | N-14-E | 人為的埋土 | なし | SI04 より新<br>SK01、SD07 より古 |
| SD09 | 11.56 | 南側が１段低くなる不定形 | 102 | 40 | 39 | N-69-E | 人為的埋土 | ロクロ成形土師器坏、須恵器坏・甕 | SI19、SD12 より新<br>底面に掘削時の工具痕 |
| SD10 | 8.50 | Ｕ字状 | 48 | 35 | 14 | N-85-E | 自然堆積 | 非ロクロ成形土師器甕 | SD11 より新 |
| SD11 | 18.00 | 皿形 | 50 | 28 | 20 | N-21-W | 人為的埋土 | 非ロクロ成形土師器坏・甕、ロクロ成形土師器坏、須恵器坏・短頸壺・甕 | SI19、SD13・14 より新<br>SD10 より古<br>底面に掘削時の工具痕 |
| SD12 | 4.32 | 逆台形 | 91 | 69 | 22 | N-27-W | 自然堆積 | なし | SD09 より古 |
| SD13 | 4.26 | Ｕ字状 | 60 | 44 | 16 | N-89-E | 人為的埋土 | 非ロクロ成形土師器甕、須恵器甕 | SI19 より新<br>SD11 より古 |
| SD14 | 3.70 | Ｕ字状 | 38 | 25 | 11 | N-75-E | 人為的埋土 | 非ロクロ成形土師器甕 | SI19 より新<br>SD11 より古 |

### ｇ．土坑

【SK10】（第 51・56 図）

Ⅰ区北部に位置する。SK09 と重複関係にあり、これより新しい。平面形状は楕円形で、規模は長軸 0.98 ｍ、短軸 0.54 ｍを測る。断面形状は不定形であり、確認面からの深さは 26 ㎝を測る。本遺構の東・西壁面は強い被熱により赤変し、底面においても被熱が認められる。また堆積土中には大量の焼土粒・炭化物が含まれる。

遺物は第 57 図１に図示した土師器坏が出土している。内面黒色処理前のものであることから、本遺構で焼成された可能性も考慮できる。図示した遺物の年代観から、本遺構は９世紀前半頃の年代観が考えられる。




SK10 土層注記

| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/2) | 粘質シルト | 炭化物・焼土粒を多量含む。しまり強い。粘性ややあり。 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 砂質シルト | 炭化物・焼土粒を大量に含む。しまり強い。粘性なし。 |

**第 56 図　SK10 土層断面図**

| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　面 | 内　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | 底面直上 | 土師器 | 坏 | ロクロナデ | ロクロナデ→ヘラミガキ | 全体3/4 | 13.6 | 7.5 | 3.9 | 10-8 |

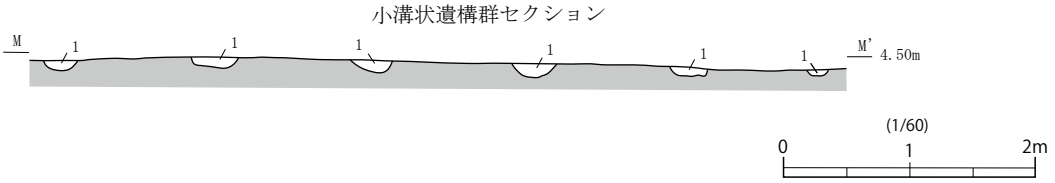
**第 57 図　SK10 出土遺物**

**第８表　土坑属性表**

| 遺構名 | 平面形 | 断面形 | 規模（cm） | | | 堆積土の状況 | 遺　物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | |
| SK10 | 長円形 | 不定形 | 98 | 54 | 26 | 人為 | ロクロ成形土師器坏 | SK09 より新<br>東・西壁を中心に強く被熱 |

### ｈ．小溝状遺構群（第６・58 図）

Ⅰ区北西部を中心として存在する。重複するすべての遺構より本遺構が古い。東西方向のものが６条あり、その後に南北方向のものが７条みられる。溝幅の規模は、上幅 40 ～ 25 ㎝、下幅 20 ～ 15 ㎝、確認面からの深さは10～５㎝を測る。東西列の主軸方位は真北から66°東へ、南北列は６°西へ傾く。遺物は非ロクロ成形の土師器高坏や甕が出土しているが、図示はできなかった。このうち高坏については脚部の特徴から南小泉式の可能性がある。第３次調査でも同様の遺構群が認められ、そこでも南小泉式の土器が出土していることから、本遺構は古墳時代中期頃に営まれた畑作の痕跡であるとみられる。




小溝状遺構群土層注記

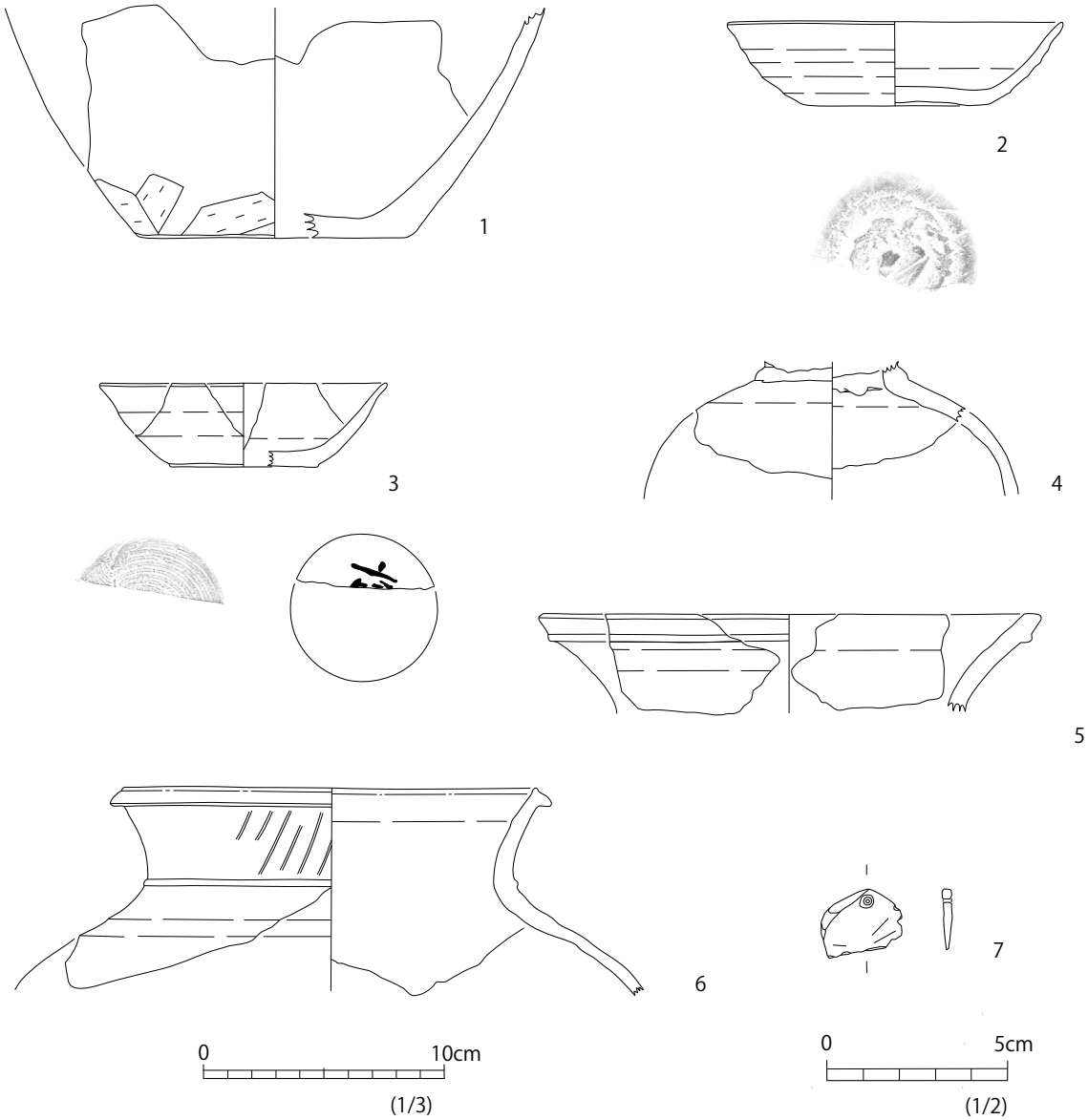
| 層No. | 土色 | | 土質 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 褐色 | (10YR4/4) | 細砂 | 黒色粘土の小・中ブロックを多量に含む。しまりやや弱い。湿性ややあり。粘性なし。 |

**第 58 図　小溝状遺構群土層断面図**

### ｉ．その他の遺物

前述の遺構出土遺物のほか、掘削時や精査時、そして遺物包含層の掘り下げ時にも土師器・須恵器が多数出土している。また、図示はしていないが弥生土器や砥石などの石製品も少量出土している。以下に特記すべき点について述べる。

１の土師器の鉢はロクロ成形で作られたものである。内外面とも摩滅しており明確な調整痕跡を看取できる箇所は少ないが、体部下半ではヘラケズリ調整が施される。底部外面は磨滅が著しく、切り離し技法や調整痕跡は確認できない。２の須恵器坏は器高がやや低く、また口径・底径とも比較的大きい。底部は回転ヘラギリ後に無調整である。３の須恵器坏は２と比べて小型であるが、器高が高いものである。底部は回転糸切後無調整である。なお、底部外面には墨書がみられるが、文字の判読はできなかった。４は須恵器長頸瓶である。頸部と胴部の接合面では補強のためのリング状の突帯が巡り、胎土には溶解した黒雲母がみられることから会津若松市に存在する大戸窯跡の製品であると考えられる。５は中型の甕であり、口唇部では面取りがなされている。また、口縁部下には突帯が１条巡る。６の甕では内外面ともロクロナデが施され、タタキや当具痕はみられない。口縁部から肩部にかけては降灰による自然釉が付着している。７は石製模造品であり、剣形を呈するとみられる。




| 番号 | 細部・層位 | 種別 | 器種 | 外　　面 | 内　　面 | 残　存 | 法量(cm) | | | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | |
| 1 | Ⅰ区表土掘削 | 土師器 | 鉢 | ヘラケズリ | ヘラミガキ・黒色処理 | 底部破片 | － | 11.2 | － | |
| 2 | Ⅰ区表土掘削 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ－回転ヘラ切り無調整 | ロクロナデ | 全体1/2 | 13.9 | (7.8) | 3.5 | |
| 3 | Ⅰ区残土 | 須恵器 | 坏 | ロクロナデ－回転糸切り無調整　底面墨書有り | ロクロナデ | 全体1/4 | (11.9) | (6.1) | 3.5 | |
| 4 | Ⅰ区表土掘削 | 須恵器 | 長頸瓶 | ロクロナデ　頸部下端にリング | ロクロナデ | 肩部破片 | － | － | － | |
| 5 | Ⅱ区表土掘削 | 須恵器 | 甕 | ロクロナデ　口縁部下端に突帯1条 | ロクロナデ | 口縁部破片 | (20.7) | － | － | |
| 6 | Ⅰ区表土掘削 | 須恵器 | 甕 | ロクロナデ－頸部ヘラ止め後ロクロナデ | ロクロナデ | 口縁部破片 | (18.2) | － | － | |
| 7 | Ⅰ区表土掘削 | 石製模造品 | 剣形？ | 表面・裏面共に剥離面で、側面東部のみ擦面が残る。厚さ4㎜、穿孔径1.4㎜。石質粘板岩。　穿孔部分のみ | | | | | | |

**第 59 図　その他の遺物**

# 第Ⅳ章　考　察

## １．遺物について

**・土器について**（第 60 図）

古墳時代後期から奈良時代にかけての土器研究・編年に関しては、辻秀人氏を研究代表者とする広域編年がある（辻編 2007）。ここでは主として広域編年の一部として村田晃一氏が行った宮城県中・南部での研究成果（村田 2007・以下、「村田Ａ編年」と表記）をもとに見ていく。同様に平安時代については多賀城、及び周辺遺跡も視野に入れた村田晃一氏による編年（村田 1994・以下、「村田Ｂ編年」と表記）に導かれながら当遺跡の出土遺物の特徴について述べる。なお、今回の調査における出土遺物についてはⅠ～Ⅲ期に大別し、Ⅰ期についてはさらにａ・ｂ・ｃの小期を設定する。

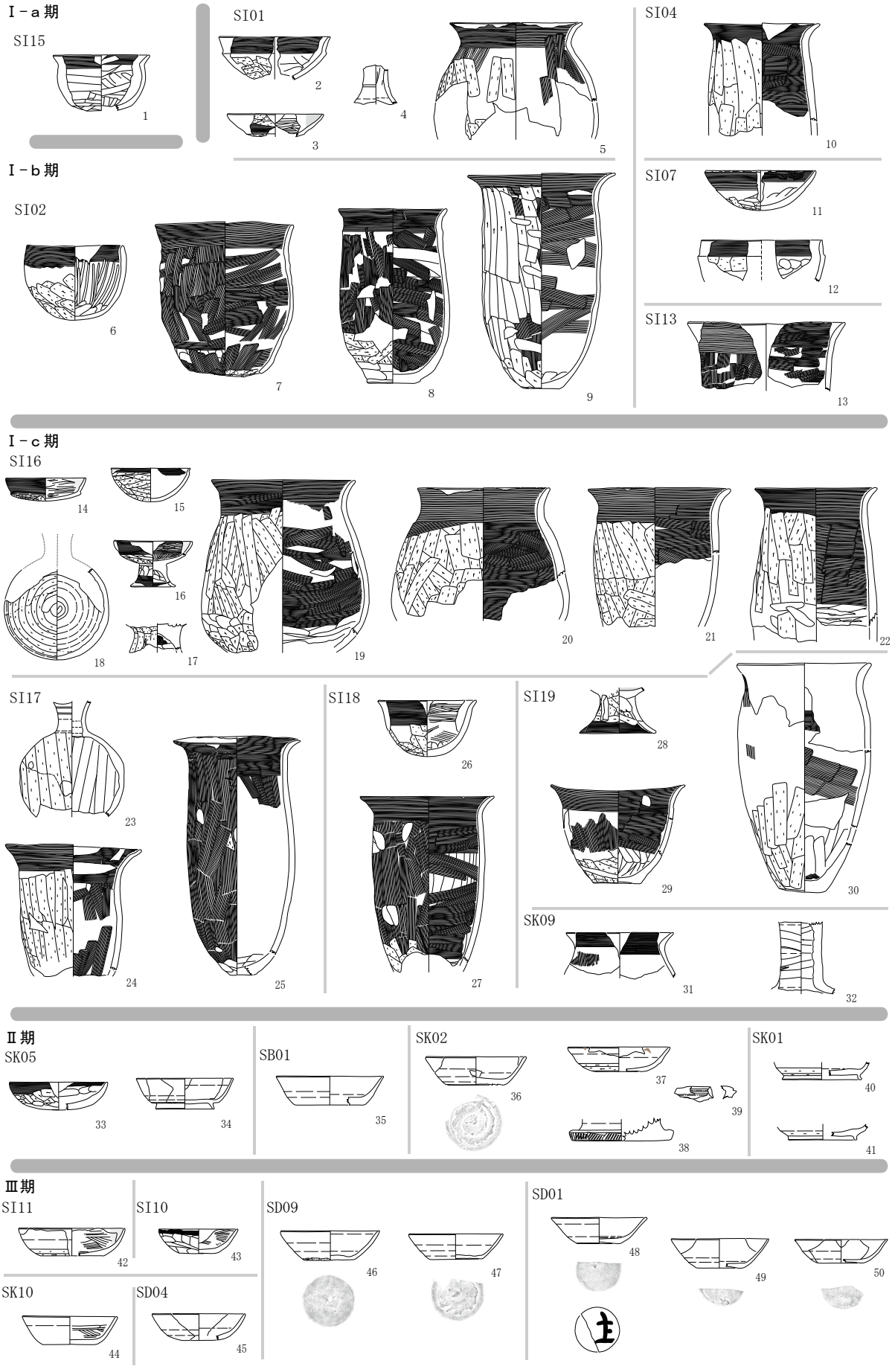
Ⅰ－ａ期としては SI15 から出土した１の土師器椀がある。底部は丸底で、口縁が強く外反する器形である。類例は山元町合戦原遺跡などで見られ、村田Ａ編年の１・２段階に位置付けられることから、６世紀前半頃と考えられる。

Ⅰ－ｂ期では SI01・02・04・07・13 出土資料が相当する。２の土師器坏は口縁部下に強い段を有するが、体部のケズリはこの段まで及ばない。８の土師器甕は胴部下半で最大径を測るものである。これらの特徴は栗囲式期のうちでも古い様相を呈しており、村田Ａ編年の２・３段階に位置付けられ、また４の須恵器高坏は TK209 型式期とみられることから、６世紀末葉～７世紀前半頃と考えられる。

Ⅰ－ｃ期では SI16・17・18・19 と SK09 出土資料が相当する。15 の土師器坏は関東系土師器であり、仙台市郡山遺跡などで類例が多くみられる（村田 2005）。17・28 の土師器高坏は透孔をもつものである。17 は細長い三角形状の透孔を有するもので、仙台市西台畑遺跡や本遺跡第１次調査 SI12 などで類例がみられる。また 28 では長方形の透孔があり、名取市清水遺跡などで類例がみられる（佐藤・大久保 2017）。これらの特徴は栗囲式期のうちでもやや新しい様相を呈しており、村田Ａ編年の４・５段階に位置付けられる。18・23 はともに東海地方で生産された須恵器フラスコ形長頸瓶であるが、胎土や器形の特徴から 18 は湖西窯跡群の製品、23 は猿投窯跡群の製品である。18 は胴部がやや俵状を呈することから、後藤健一氏による編年（後藤 1989・2015）の第Ⅲ期に位置付けられる。また 23 は胴部が球形であることから、『愛知県史』に所収されている編年（愛知県史編さん委員会 2015）のⅢ期に位置付けられることにより、７世紀後半～８世紀初頭頃と考えられる。

Ⅱ期では SB01、SK01・02・05 出土資料が相当するが、遺物量は少ない。33 の土師器坏は関東系土師器であり、類例を蔵王町堀の内遺跡でみることができる（鈴木 2016）。34 の須恵器高台坏や 37 の須恵器坏は、いずれも利府町硯沢窯跡群などでみられるものである。器形的な特徴から村田Ａ編年の６・７段階に位置付けられ、８世紀前半～後半頃と考えられる。

Ⅲ期では SI10・11、SK10、SD01・04・09 出土資料が相当する。土師器はロクロ成形が主体となる。41・42 の土師器坏は内弯気味に立ち上がるものであり、45・46 の須恵器坏はやや器高が高く、底部から口縁部に向かって直線的に開くことから、村田Ｂ編年１群の特徴を有し、８世紀末葉～９世紀初頭頃と考えられる。44 は口径・底径ともやや大きく、底部から口縁部に向かって直線的に開くものであり、村田Ｂ編年２群の特徴を有する。須恵器では、42 ～ 43 は多賀城市山王遺跡などでみられるもので、村田Ｂ編年１群の特徴を有することから、９世紀前半頃と考えられる。一方で SD01 から出土した 48 ～ 50 は、口径に比べて底径が小型化するものであり、９世紀後半頃と考えられる。




第 60 図　５次調査出土の主要な土器

**・東海地方産の須恵器について**

原遺跡では、第１次調査で発見された美濃須衛窯跡群の製品とみられる円面硯をはじめとし、これまでに猿投窯跡群のフラスコ形長頸瓶、湖西窯跡群の瓶・フラスコ形長頸瓶が出土している。本調査においても SI16 より湖西窯跡群とみられるフラスコ形長頸瓶、SI17 より猿投窯跡群のフラスコ形長頸瓶が出土している。

一方、岩沼市域ではこれまで横穴墓群から東海地方で生産された須恵器の出土量が多いことが指摘されている（佐藤・大久保 2007）。これらの横穴墓の被葬者については、市内では当該期の集落遺跡がほとんど見られないことから、本遺跡に居住した人々によって造営された可能性が提示されている（川又 2018）。本調査の SI17 より出土したフラスコ形長頸瓶は、二木横穴墓群 10 号墓に近似した製品が存在する。さらに SI16 より出土したフラスコ形長頸瓶は、二木横穴墓群７号墓、丸山横穴墓群 10 号墓、長谷寺横穴墓群 A1 号墓、土ケ崎横穴墓群４号墓で近似した製品が副葬されていることから、その可能性は強まったと言えよう。

また、本遺跡内に存在を推定している玉前駅家・玉前剗が機能している８世紀以降では、福島県と宮城県南部の太平洋沿岸部を通過する「海道」が存在するが、阿武隈川では架橋はされていないために駅家の周辺には渡河するための船舶が備えられていたとみられる（永田 2018）。言わば陸上交通と水上交通の結節点として本遺跡が機能するわけだが、遠隔地で生産された須恵器の出土状況から、このような状況はおそらく７世紀後半段階まで遡る可能性が高い。

律令の規定では駅長は国司によって在地の有力農民層の中から指名されるとあるが、一介の有力農民がこれら当地方では希少な製品を多数入手できるとは考えにくい。史料には現れてこないが、これら遠隔地からもたらされた須恵器の数々は、本遺跡のような要衝地での駅家・駅路の整備段階の当初期には、在地勢力以外の力が大きく介在していたことを示しているかもしれない。

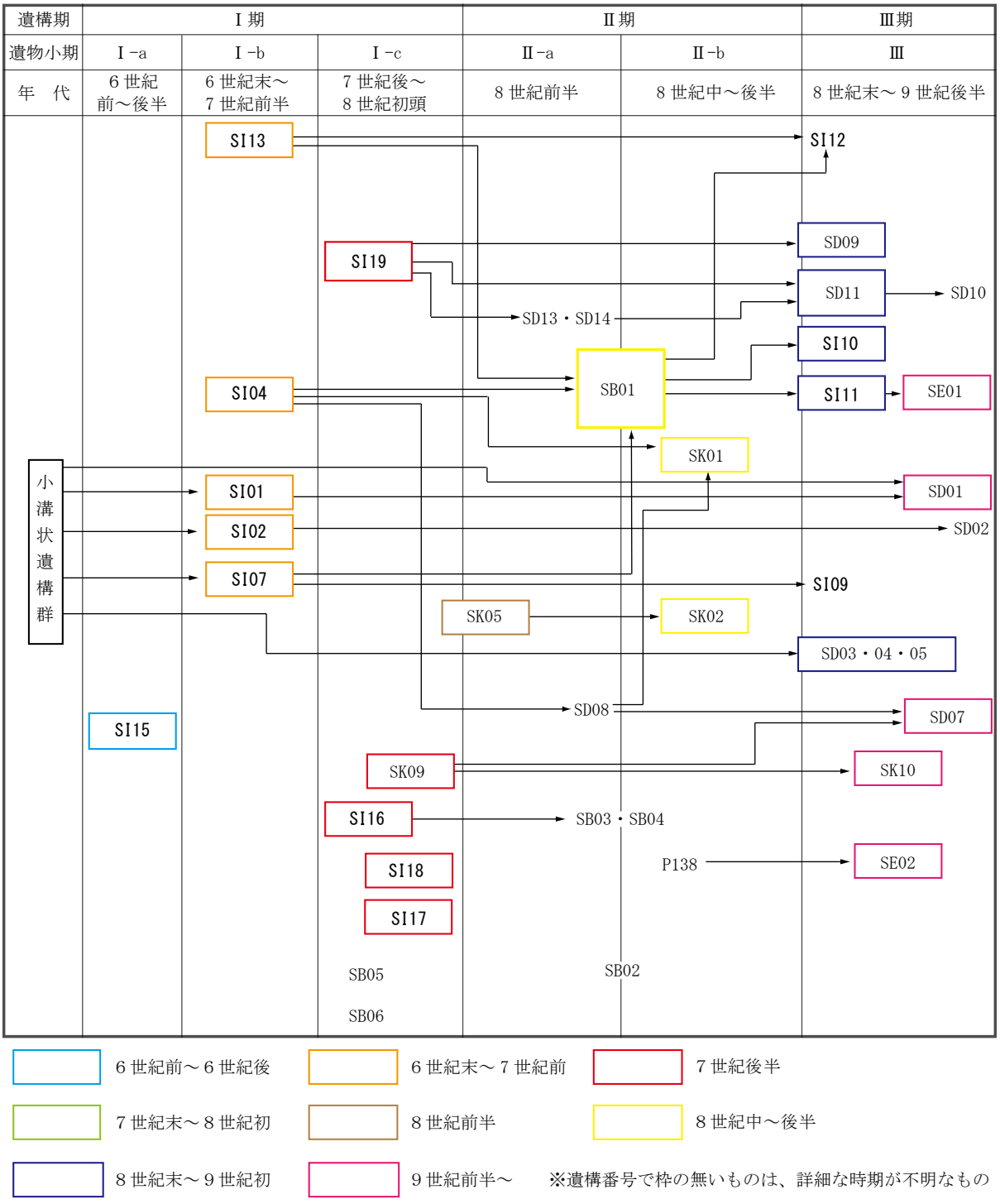
第 61 図　原遺跡と各横穴墓群の位置関係

## ２．遺構について

### ・遺構の変遷について

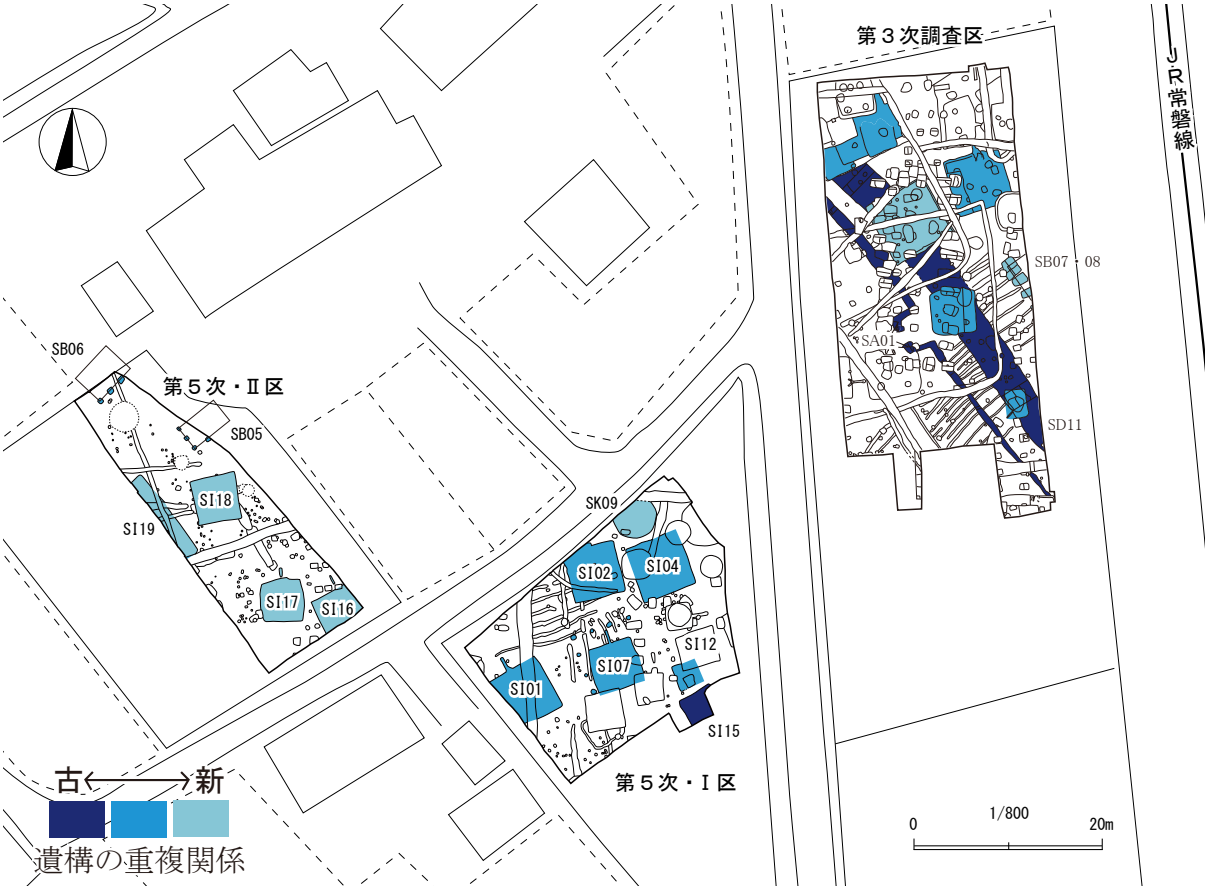
ここでは今回の調査で確認された主要遺構群の変遷と、これまで隣接箇所等で実施した第１・３次調査で関係する遺構について記述する。

前項の出土土器の年代観、そして各遺構の重複関係をもとに整理したものが第 62 図である。以下に各期の主要遺構の様相についてみていく。



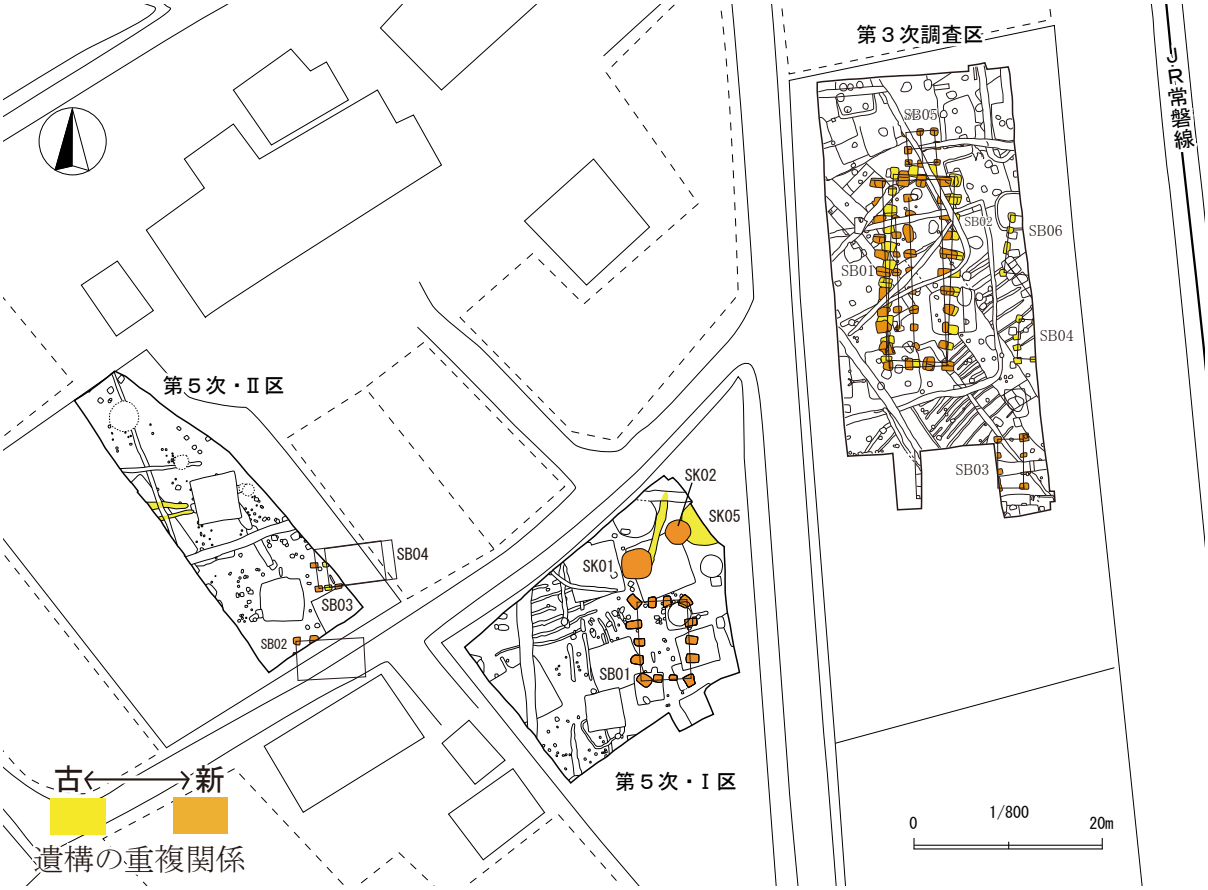

第 62 図　第 5 次調査主要遺構の重複関係図

Ⅰ期の遺構群は、土器の年代観から６世紀前半～後半の時期をａ小期（Ⅰ－ａ期。以下の各小期も同様に表記）、６世紀末葉～７世紀前半をｂ小期、７世紀後半～８世紀初頭をｃ小期とした。Ⅰ－ａ期に先行する遺構としては古墳時代中期頃の小溝状遺構群がある。Ⅰ－ａ期の遺構はⅠ区SI15が想定される。当該期の遺構についてはこれまで確認されておらず、今後集落の広がりの把握が必要となる。なお、第３次調査ではSD11大溝とSA01材木塀による区画が発見されているが、SA01材木塀の一部では入口とみられる部分がある。この両者の遺構の時期については確実に年代を比定しうる遺物は得られていないが、重複関係から後述するⅠ－ｂ期の遺構群に先行することは明らかである。詳細は今後の調査に委ねられるが、本調査のSI15の発見からこの時期の所産である可能性も考慮しておきたい。Ⅰ－ｂ期の遺構はⅠ区SI01・02・04・07・13が想定される。この時期の遺構はこれまで竪穴建物のみの発見であるが、Ⅲ期の遺構群と同様に遺跡内に広く分布していることが確認されている。しかしながら、第１次調査では散発的な分布状態であったのに対し、第３次調査地点、及び本調査Ⅰ区ではまとまりをもって分布していることから、当該期集落の中心が本調査地点付近である可能性を惹起させる。Ⅰ－ｃ期の遺構群はⅠ区のSK09のほか、Ⅱ区でSI16・17・18・19の竪穴建物群が形成される。このうち、SI19は部分的な確認に留まるものの、一辺が10ｍを超える非常に大型の竪穴建物と考えられる。この遺構の主軸は真北から見た場合に38°西へ傾くが、同様に大きく西に傾く遺構にはⅡ区で確認されたSB05・SB06の２棟の掘立柱建物があり、これらが一体となって存在していた可能性も考慮できる。




第 63 図　Ⅰ期遺構群

Ⅱ期の遺構群は、土器の年代観、及び当該期遺構の重複関係から８世紀前半をａ小期、８世紀半ばから後半をｂ小期とした。第３次調査ではⅠ期遺構群が真北から 40° 前後ほど大きく西側へ傾くのに対し、Ⅱ期遺構群は真北に近い主軸方位となることが確認されているが、今回の調査でも同様の傾向がうかがえる。Ⅱ－ａ期の遺構はⅠ区 SK05 大型土坑が想定される。大型土坑については後述するが、Ⅰ－ｃ期とした SK09 やⅡ－ｂ期とした SK01・02 もともにⅠ区北東部に集中していることは、場の性格を考える上で重要な意味を持つ。Ⅱ－ｂ期になるとⅠ区中央部で桁行４間、梁行３間の SB01 がつくられる。Ⅰ区 SB01 は出土した須恵器坏からは８世紀前半とも考えられるが、第３次調査で確認された桁行 10 間、梁行３間の SB01 大型掘立柱建物と建物の主軸をそろえていることから、同時期に機能していたと考えられる。第３次調査 SB01 は８世紀前半～後半の時期に、同規模の建物の建て替えが行われているうちの新段階であることから、本調査で確認した SB01 についても８世紀半ばを中心とした時期に機能したと推定する。なお、第３次調査 SB01 と本調査Ⅰ区 SB01 の柱穴の掘り方は、建物側が一段低くなるという段掘りとなるものが多いことも共通する特徴である。今回の調査ではこのほか、年代を判断する遺物には恵まれていないが、Ⅱ区 SB02・03・04 も真北から４～８° 西に振れるものであることから、Ⅰ区 SB01 などと一連の官衙的遺構として計画的に配置された可能性もある。なお、本調査ならびに第１・３次調査地でもⅡ期の段階では竪穴建物がほぼ見られないこと、さらには遺物の出土量も他の時期と比べて少ないことを併せ考えると、当該期の官衙中枢域は本調査地周辺に存在している可能性が高いと思われる。今後の調査では建物配置の検討のほか、外郭施設の確認、官衙施設に従事する人々の居住域・生産域の把握が大きな課題となる。




第 64 図　Ⅱ期遺構群

Ⅲ期の遺構群は、土器の年代観から８世紀末葉から９世紀後半とした。Ⅲ期の遺構にはⅠ区のSI10・11、SE01、SD01・03～05・07、SK10、Ⅱ区のSD09・11・10が想定される。この時期になるとⅡ期の官衙的な建物群は調査地周辺では見られず、竪穴建物群が主体となる。このなかで注目されるのは区画溝と考えられるⅠ区SD01・07の存在である。Ⅰ区北東部で発見された東西溝のSD07は、第１次調査SD12、第３次調査SD14の延長線上に存在し、規模もほぼ同様であることから同一の溝跡と考えられる。さらにⅠ区西側に位置する南北溝であるSD01は、規模や断面形態が近似することからSD07と同時期の掘削とみられ、その走方向からSD07と直交するとみられる。また、これらの溝は底面に掘削時の工具痕を留めていることから、掘削時からあまり時間を経ずに埋め戻された可能性が考えられる。Ⅲ期の官衙施設の中枢は、令和元年度に調査を実施した第４次調査地周辺（第１図⑤）に展開する可能性があるが、これらの区画溝の存在からⅡ期の官衙遺構の中枢が移動した後の土地利用については、居住域、あるいは生産域の設定などを計画的に行っていたことが推量される。なお、Ⅱ区の東西溝であるSD09も規模や断面形態がⅠ区SD07と近似し、出土した須恵器の年代観から機能していた時期についても同様にⅢ期遺構である。このため、現地説明会などではSD09とSD07を一連の遺構であるとの可能性を示していたが、詳細な合成図を作成する中で走方向がやや大きく南へ傾いていることが明らかとなったことから、一連の遺構としてとらえることは困難と判断した。むしろ第３次調査SD03と走方向は近似していることから、前述のⅠ区SD01・SD07による区画とは異なる区画を設定するためにつくられた可能性も考慮される。また、SD09はⅡ区SD11と直交関係になる可能性も浮上しており、次年度以降の調査の中で注視していく必要がある。

第 65 図　Ⅲ期遺構群

**・大型土坑について**

第５次調査で発見された注目すべき遺構としては、前述のⅠ－ｃ期とⅡ期遺構としたSK01・SK02・SK05・SK09の４基の大型土坑が挙げられる。これらの土坑はⅠ区北東部の約140㎡内という限られた面積の中で集中して存在している。以下に各遺構の機能について推定を試みたい。

SK01の平面形状は隅丸方形で、規模は長軸3.32ｍ、短軸3.20ｍを測る。断面形状は逆台形であり、確認面からの深さは90㎝を測る。底面には褐色粘土を用いた貼床がみられ、そこでは荷重によって変質した幅10～15㎝のにぶい黄橙色粘土が東西方向に３列認められており、床板を設置するために根太木を並べた痕跡と考えられる。また、各根太木痕跡の先端には杭が打ち込まれていることから、壁板の設置、あるいは遺構の上部を覆うような簡易的な屋根のような設備が伴っていた可能性がある。このような特徴から、本遺構については温度や湿度などの配慮が若干必要となるような物資の貯蔵施設として利用されていた可能性が考えられる。

SK02の平面形状は円形で、規模は長軸2.68ｍ、短軸2.58ｍを測る。断面形状は逆台形であり、確認面からの深さは68㎝を測る。SK01とほぼ隣接した場所に位置し、断面形状にも近似性がみられることから、機能としてはSK01同様に貯蔵施設として利用された可能性が考えられる。ただし、底面では貼床、床板などの痕跡は認められなかったことから、SK02で貯蔵された品物については温度・湿度管理をさほど必要としない物資であった可能性も考慮できる。なお、埋土の中層付近には焼土・炭化物が大量に含まれている。

SK05とSK09は調査区外へ広がるために平面形状はやや疑問があるが、円形もしくは楕円形を呈するとみられる。確認した範囲でのSK05の規模は長軸5.06ｍ、短軸2.65ｍ以上で、深さは148㎝を測る。SK09の規模は長軸4.66ｍ、短軸3.55ｍ以上を測るが、壁面崩落の危険性があり104㎝までの掘り下げに留めている。この両者はともに断面形状が逆台形とみられ、堆積土は上層の一部を除けばほぼ自然堆積である。遺構の機能としては最上層以外からの遺物は極めて少なく、また有機物を明確に含む土層も認められなかったため、廃棄土坑としての機能は想定しにくい。同様に底面付近には貼床や床板を設置した痕跡がなく、少なからず湧水もみられることから物資貯蔵としての機能も考えにくい。現時点ではⅡ期の井戸跡が確認されていないことから、本遺構については貯水、あるいは地下水位の調整を機能目的としていた可能性を考えておきたい。なお、長期間開口している状況でありながらも遺物がほとんどみられないことは、大型土坑群が機能している段階のこの一角は管理が行き届いた場であったこと示しているかもしれない（註３）。

【註】

註１　菅原祥夫氏からのご教示。なお、本資料は高木遺跡58号住居出土資料よりも短く、また細身である。

註２　小川淳一氏からのご教示。

註３　佐藤憲幸氏からのご意見。大型土坑を含め、調査地周辺に官衙的な建物が存在した時期（Ⅱ期：８世紀前半～後半）の遺物はこれまでも発見数が少なく、首肯できる見解である。

# 第Ⅴ章　総　括

１．原遺跡は宮城県中央部南寄りの岩沼市南長谷字原・中原・上原・北上・角方地内に所在する。遺跡は南側を東流する阿武隈川によって形成された自然堤防上に立地している。

２．今回の発掘調査は重要遺跡の範囲・内容確認調査として実施した。調査区は第３次調査区西側であり、発掘調査面積は 904 ㎡（Ⅰ区 538 ㎡、Ⅱ区 366 ㎡）である。

３．遺跡が所在する地域は、古代においては東山道と、茨城県から福島県・宮城県南部の太平洋側に設置された「海道」の合流・分岐地であることから、これまでに発見された官衙関連の遺構・遺物は『延喜式』に記載される玉前駅家、あるいは多賀城跡から出土した木簡によって存在が明らかとなった玉前剝に関わるものとみられる。

４．確認した遺構は掘立柱建物跡６棟、竪穴建物跡 15 棟、柱列跡１列、大型土坑４基、井戸跡２基、溝跡 13 条、土坑、柱穴多数である。

５．出土した遺物は弥生時代の土器、古墳時代中期から平安時代にかけての土師器・須恵器・石製品である。このうち主体となるのは６世紀末葉から９世紀前半にかけての土師器・須恵器である。

６．出土した遺物には在地産の土器と遠隔地から搬入されたものがある。他地域から搬入された土器のうち、SI16 竪穴建物跡から出土した須恵器フラスコ形長頸瓶は湖西窯跡群を中心とした地域の製品、SI17 竪穴建物跡から出土した須恵器フラスコ形長頸瓶は猿投窯跡群の製品と考えられるものである。また会津若松市に存在する大戸窯跡群で生産されたとみられる須恵器長頸瓶なども出土している。

７．発見された遺構のうち、８世紀半ば頃の SB01 掘立柱建物跡の柱穴掘方は１辺が約１ｍの長方形であり、建物主軸も真北方向に近いことから、官衙的遺構群の主要な施設の一部とみられる。

８．SD01 溝跡と SD07 溝跡は直交するとみられることから区画溝である可能性が高く、官衙中枢施設が本調査地点周辺から移動した後に 居住域の設定などを計画的に行っていたと考えられる。

９．遠隔地で生産された須恵器は市内の複数の横穴墓群からも出土しており、横穴墓の被葬者たちの生活母体が本遺跡地であった可能性が高くなった。

【引用・参考文献】

愛知県史編さん委員会　2015 『愛知県史　別編　窯業１　古代　猿投系』
今泉隆雄　2005 「古代国家と郡山遺跡」『宮城県仙台市郡山遺跡発掘調査報告書－総括編（1）－』仙台市文化財調査報告書第 283 集
今泉隆雄　2018 「第二部第五章 古代南奥の地域的性格」『古代国家の地方支配と東北』吉川弘文館
岩沼市　1992 『岩沼市土地分類調査（細部調査）報告書・現況調査編』
岩沼市教育委員会　2017a 『貞山堀発掘調査報告書』岩沼市文化財調査報告書第 17 集
岩沼市教育委員会　2018a 『原遺跡第２次調査概要報告書』 岩沼市文化財調査報告書第 19 集
岩沼市教育委員会　2018b 『下野郷館跡』 岩沼市文化財調査報告書第 20 集
岩沼市教育委員会　2019a 『原遺跡第３次調査概要報告書』 岩沼市文化財調査報告書第 21 集
岩沼市教育委員会　2019b 『市内遺跡発掘調査報告書１』 岩沼市文化財調査報告書第 22 集
岩沼市教育委員会　2019c 『熊野遺跡第１・２次調査報告書』 岩沼市文化財調査報告書第 23 集
岩沼市教育委員会　2020a 『原遺跡第４次調査概要報告書』 岩沼市文化財調査報告書第 24 集
岩沼市教育委員会　2020b 『市内遺跡発掘調査報告書２』 岩沼市文化財調査報告書第 25 集
岩沼市教育委員会　2021 『原遺跡第１次調査ほか』 岩沼市文化財調査報告書第 26 集
岩沼市史編纂委員会　2015 『岩沼市史』第４巻　資料編Ⅰ　考古
岩沼市史編纂委員会　2018 『岩沼市史』第１巻　通史編Ⅰ　原始・古代・中世
近江俊秀　2006 『古代国家と道路 考古学からの検証』 青木書店
川又隆央　2018 「第五章第三節 横穴墓の築造と分布」『岩沼市史』第１巻　通史編Ⅰ　原始・古代・中世
後藤健一　1989 「湖西窯跡群の須恵器と窯構造」『静岡県の窯業遺跡』静岡県文化財調査報告書第 42 集
後藤健一　2015 『遠江湖西窯跡群の研究』 六一書房
佐藤敏幸・大久保弥生　2007 「宮城県の湖西産須恵器」『宮城考古学』第９号　宮城県考古学会
佐藤敏幸・大久保弥生　2017 「陸奥における古墳時代後期から奈良時代の高坏（１）－宮城県のスカシ付高坏を中心に－」『宮城考古学』第 19 号　宮城県考古学会
白鳥良一　2015 「特論１岩沼市内の東山道と玉前駅・剗（関）『岩沼市史　第４巻　資料編Ⅰ　考古』
白鳥良一　2018 「第八章　四 東山道・東海道駅路と岩沼」『岩沼市史　第１巻　通史編Ⅰ　原始・古代・中世』
鈴木　雅　2016 「律令国家形成期の陸奥国柴田・苅田地方－蔵王町円田盆地の遺跡群の検討を中心に－」『宮城考古学』第 18 号　宮城県考古学会
仙台市教育委員会　1987『五本松窯跡』 仙台市文化財調査報告書第 99 集
舘野和己　1998 『日本古代の交通と社会』 塙書房
舘野和己・出田和久編　2016 『日本古代の交通・交流・情報』１～３　吉川弘文館
辻　秀人編　2007 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』 東北学院大学文学部
東北古代土器研究会　2005 『研究報告２ 東北古代土器集成－古墳後期～奈良・集落編〈陸奥〉－』
東北古代土器研究会　2008 『研究報告３ 東北古代土器集成－須恵器・窯跡編〈陸奥〉－』
永田英明　2015 「古代東北の内陸水運－最上川・阿武隈川流域を中心に－」『日本古代の運河と水上交通』 八木書店
永田英明　2018 「第八章　三 玉前剗・玉前駅と阿武隈川」『岩沼市史　第１巻　通史編Ⅰ　原始・古代・中世』
福島県教育委員会　2002 「第１編 高木遺跡」『阿武隈川右岸築堤遺跡発掘調査報告書２』福島県文化財調査報告書第 401 集
古川一明　2018 「東北・関東地方の古代の大型土坑について」『東北歴史博物館紀要 19』 東北歴史博物館
宮城県多賀城跡調査研究所　1979 「I 第 34 次調査」『多賀城跡―昭和 54 年度発掘調査概報』宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979
宮城県多賀城跡調査研究所　1979 『多賀城跡 政庁跡 図録編』
宮城県多賀城跡調査研究所　1985 『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1984 多賀城跡』
宮城県多賀城跡調査研究所　2013 『多賀城跡木簡Ⅱ』宮城県多賀城跡調査研究所資料Ⅲ
村田晃一　1994 「土器からみた官衙の終末－東北地方の場合－」『古代官衙の終末をめぐる諸問題　第１分冊問題提起・各地方の概要』東日本埋蔵文化財研究会
村田晃一　2005 「７世紀における陸奥北辺の様相－宮城県域を中心として－」『日本考古学協会 2005 年度福島大会シンポジウム資料集』 日本考古学協会 2005 年度福島大会実行委員会
村田晃一　2007 「Ⅴ．宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』東北学院大学文学部
村田晃一　2018 「陸奥中部における陶硯の生産と消費 (1)」『宮城考古学』第 20 号　宮城考古学会

## 写真図版1

1　調査地点遠景（北側上空から）

2　調査地点遠景（南西側上空から）

## 写真図版2

1　Ⅰ区全景（上空から）

2　Ⅱ区全景（上空から）

# 写真図版3

1　SB01（南から）

2　SB01 P136（南から）

3　SB01 P137（西から）

4　SB01 P140（南から）

5　SB01 P130（南西から）

## 写真図版4

1　SI01・SD01（南から）

2　SI01 カマド（南から）

3　SI02 遺物出土状況（南から）

4　SI04 カマド（南から）

5　SI07・09・10（南から）

## 写真図版5

1　SI16 カマド（南から）

2　SI17（南から）

3　SI17 遺物出土状況（南から）

4　SI18（南から）

5　SI18 土製品出土状況（南から）

## 写真図版6

1　SI11・SE01（東から）

2　SE02（南から）

3　SK01（南から）

4　SK02（南から）

5　SK09（南側上空から）

6　SD07（東から）

7　SD09（北から）

8　SD11（北から）

# 写真図版7

1　須恵器・坏（第 10 図 1）

2　土師器・埦（第 20 図 1）

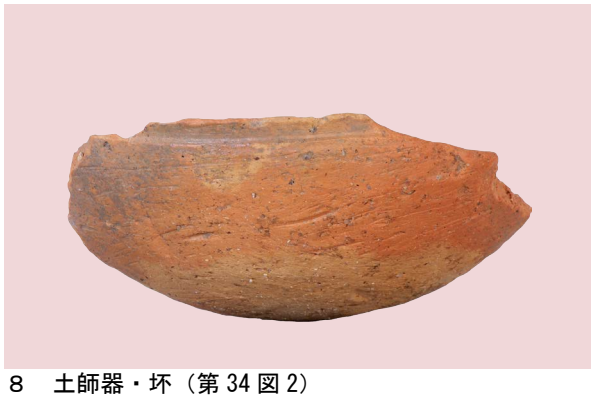
3　土師器・甕（第 20 図 4）

4　土師器・甕（第 20 図 3）

5　土師器・坏（第 28 図 1）

6　土師器・埦（第 32 図 1）

7　土師器・坏（第 34 図 1）



8　土師器・坏（第 34 図 2）

## 写真図版8

1　土師器・高坏（第 34 図 3）

2　土師器・高坏（第 34 図 4）

3　土師器・甕（第 34 図 6）

4　土師器・甕（第 35 図 8）

5　須恵器・フラスコ形長頸瓶（第 35 図 9）

6　須恵器・フラスコ形長頸瓶（第 37 図 1）

7　土師器・甕（第 37 図 2）

8　土師器・甕（第 37 図 3）

1　土製品・支脚（第 39 図 3）

2　土師器・高坏（第 41 図 1）

3　土師器・甕（第 41 図 2）

4　須恵器・捏鉢（第 49 図 1）

5　須恵器・坏（第 49 図 2）

6　須恵器・坏（第 49 図 3）

7　須恵器・円面硯（第 49 図 4）

8　土製品・羽口（第 49 図 5）

# 写真図版 10

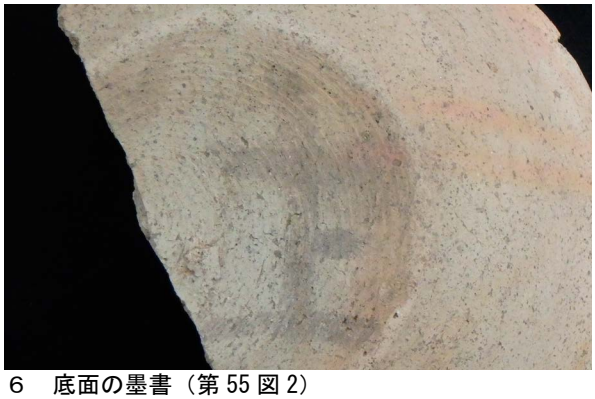
1　土師器・坏（第 52 図 1）

2　須恵器・高台坏（第 52 図 2）

3　須恵器・高盤（第 53 図 2）

4　須恵器・坏（第 55 図 8）

5　須恵器・坏（第 55 図 2）



6　底面の墨書（第 55 図 2）

7　須恵器・坏（第 55 図 9）

8　土師器・坏（第 57 図 1）

# 報　告　書　抄　録

| ふりがな | はらいせきだいごじはっくつちょうさがいようほうこくしょ |
|---|---|
| 書　　名 | 原遺跡第5次発掘調査概要報告書 |
| シリーズ名 | 岩沼市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第 27 集 |
| 編集者名 | 川又隆央・武田裕光・兼田芳宏 |
| 編集機関 | 岩沼市教育委員会 |
| 所 在 地 | 〒 989-2480　宮城県岩沼市桜 1 丁目 6 － 20　　TEL(0223) － 22 － 1111 |
| 発行年月日 | 西暦 2021 年 3 月 31 日 |

| 所収遺跡（しょしゅういせき） | 所在地（しょざいち） | コード | | 北緯 ° ′ ″ | 東経 ° ′ ″ | 調査期間 | 調査面積 ㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 原遺跡（はらいせき） | 岩沼市南長谷（いわぬましみなみはせ）字原（あざはら） | 42111 | 15053 | 38.05.03 | 140.51.05 | 2020.07.14 ～ 2020.11.30 | 906 ㎡ | 範囲・内容確認調査 |

| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 原遺跡 | 官衙関連施設<br>集落跡 | 古墳時代<br>奈良・平安時代 | 掘立柱建物跡<br>柱列跡<br>竪穴建物跡<br>井戸跡<br>大型土坑<br>溝跡<br>土坑 | 須恵器<br>土師器<br>石製品 | 官衙関連施設の一端と考えられる掘立柱建物跡を確認した。また、7世紀後半の竪穴建物群や9世紀代の区画溝跡、竪穴建物群などを発見した。 |

**要　約**


原遺跡が所在する岩沼市南西部の玉崎地区は、『延喜式』に記載される「玉前駅家」、多賀城跡出土木簡にみられる「玉前剗」の比定地とされてきた。平成 28 年度の圃場整備事業に伴う第1次調査では、掘方規模の大きい柱穴跡、美濃地方で生産されたと考えられる須恵器円面硯が発見され、また翌 29 年度に実施した第2次調査では墨書土器や材木塀が発見されたことから、官衙関連施設の可能性が考えられるようになった。さらに平成 30 年度に実施した第 3 次調査では、主軸が真北方向となる桁行 10 間、梁行3間の長舎が同位置で建て替えが行われていることが判明し、建物の機能した時期は8世紀前半から後半と考えられるなどの成果が得られ、第4次調査では8世紀代～9世紀代の掘立柱建物跡を確認し、官衙中枢施設が移動している可能性が得られるなど、これまでの調査によってさらに遺跡の重要性が高まった。

第5次調査は、第3次調査区の西側で実施した。調査で発見された遺構は掘立柱建物跡6棟、竪穴堤物跡 15 棟、柱列跡1列、大型土坑4基、井戸跡2基、溝跡 13 条などであり、出土した遺物から7世紀後半から9世紀半ば頃を主体とする。これら遺構群の変遷は、6世紀半ば頃～8世紀初頭頃のⅠ期遺構群では多数の竪穴建物と2棟の掘立柱建物、8世紀前半～後半頃のⅡ期遺構群では掘立柱建物と大型土坑で形成され、8世紀末葉～9世紀半ば頃のⅢ期遺構群は溝で囲まれたれた区画内で竪穴建物や井戸がつくられている。このうちⅡ期の SB01 は、建物の主軸方向がほぼ真北方向に近いことから、第3次調査で発見された長舎と一連の施設と考えられる。出土した遺物の中には猿投窯跡群や湖西窯跡群をで生産されたフラスコ形長頸瓶、会津若松市の大戸窯跡群で生産された長頸瓶がみられる。特に7世紀後半段階での東海地方で生産された須恵器については、これまで市内に点在する横穴墓群からも発見されているものであるが、今回の発見によってこれら横穴墓群の被葬者たちの生活母体が当遺跡地であった可能性がさらに高まった。

岩沼市文化財調査報告書第 27 集
原遺跡第５次発掘調査概要報告書

令和３年（2021）３月
発行　岩沼市教育委員会
岩沼市桜１丁目６番 20 号
生涯学習課　TEL0223(22)1111　内線 573
印刷　株式会社　国井印刷
岩沼市藤浪一丁目４番 35 号
TEL0223(22)2221